

学 則

同 志 社 大 学

(2024年4月1日改正)

目 次

第1章 総 則	1
第2章 学 部	2
第1節 修業年限, 学年, 学期及び休業日	2
第2節 学部学科等の組織	2
第3節 教育課程及び履修方法	4
第4節 単位の授与及び成績評価	6
第5節 卒業及び学位の授与	6
第6節 収容定員及び教育研究実施組織	7
第7節 入学, 転入学, 編入学, 休学, 留学, 退学, 除籍及び再入学	9
第8節 科目等履修生, 聴講生及び外国人留学生	12
第9節 学 費	12
第3章 附属施設	13
附 則	13
別表Ⅰ 学 費	21
別表Ⅰの2 履修料	23
別表Ⅰの3 聴講料	24
別表Ⅰの4 外国人留学生(特別学生) 入学金及び研修料	24
別表Ⅰの5 入学検定料	26
別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表	27
全学共通教養教育科目	27
神学部	33
文学部	39
社会学部	59
法学部	79
経済学部	91
商学部	97
政策学部	102
文化情報学部	107
理工学部	110
生命医科学部	138
スポーツ健康科学部	147
心理学部	151
グローバル・コミュニケーション学部	154
グローバル地域文化学部	161
国際教育インスティテュート	171
国際教養教育院科目	174
教育職員免許状を得るための課程	182

同志社大学学則

1948年4月1日	制定	1979年4月1日	改正	2005年4月1日	改正
1950年4月1日	改正	1980年4月1日	〃	2006年4月1日	〃
1951年4月1日	〃	1981年4月1日	〃	2007年4月1日	〃
1952年4月1日	〃	1982年4月1日	〃	2008年4月1日	〃
1954年4月1日	〃	1983年4月1日	〃		(規則名変更)
1955年4月1日	〃	1984年4月1日	〃	2009年4月1日	〃
1959年4月1日	〃	1985年4月1日	〃	2010年4月1日	〃
1960年4月1日	〃	1986年4月1日	〃	2011年4月1日	〃
1961年4月1日	〃	1987年4月1日	〃	2012年4月1日	〃
1962年4月1日	〃	1988年4月1日	〃	2013年4月1日	〃
1963年4月1日	〃	1989年4月1日	〃	2014年4月1日	〃
1964年4月1日	〃	1990年4月1日	〃	2014年11月1日	〃
1965年4月1日	〃	1991年4月1日	〃	2015年4月1日	〃
1966年4月1日	〃	1992年4月1日	〃	2016年4月1日	〃
1967年4月1日	〃	1993年4月1日	〃	2016年5月1日	〃
1968年4月1日	〃	1994年7月1日	〃	2017年4月1日	〃
1969年4月1日	〃	1995年4月1日	〃	2017年10月1日	〃
1970年4月1日	〃	1996年4月1日	〃	2018年4月1日	〃
1971年4月1日	〃	1997年4月1日	〃	2019年4月1日	〃
1972年4月1日	〃	1998年4月1日	〃	2020年4月1日	〃
1973年4月1日	〃	1999年4月1日	〃	2021年4月1日	〃
1974年4月1日	〃	2000年4月1日	〃	2022年4月1日	〃
1975年4月1日	〃	2001年4月1日	〃	2023年4月1日	〃
1976年4月1日	〃	2002年4月1日	〃	2024年4月1日	〃
1977年4月1日	〃	2003年4月1日	〃		
1978年4月1日	〃	2004年4月1日	〃		

第1章 総 則

第1条 本学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

- 2 点検及び評価に関する規程は、別に定める。
- 3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。
- 4 本学は、第1項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。
- 第1条の3** 本学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。
- 第2条** 本学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。
- 2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。
- 第2条の2** 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

- 第3条** 学部の修業年限は、4年とする。
- 2 在学年限は、8年を超えることができない。
- 第4条** 削除
- 第5条** 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
- 2 学年を次の2学期に分ける。
- 春学期 4月1日から9月20日まで
- 秋学期 9月21日から翌年3月31日まで
- 第6条** 休業日は、次のとおりとする。
- (1) 日曜日
- (2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日
- (3) 創立記念日 11月29日
- (4) キリスト降誕日 12月25日
- (5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。
- 2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

- 第7条** 本学に、次の学部学科を置く。
- 神 学 部

神 学 科
文 学 部
英 文 学 科
哲 学 科
美 学 芸 術 学 科
文 化 史 学 科
国 文 学 科
社 会 学 部
社 会 学 科
社 会 福 祉 学 科
メ デ ィ ア 学 科
産 業 関 係 学 科
教 育 文 化 学 科
法 学 部
法 律 学 科
政 治 学 科
経 済 学 部
経 済 学 科
商 学 部
商 学 科
政 策 学 部
政 策 学 科
文 化 情 報 学 部
文 化 情 報 学 科
理 工 学 部
イ ン テ リ ジ ェ ン ト 情 報 工 学 科
情 報 シ ス テ ム デ ザ イン 学 科
電 気 工 学 科
電 子 工 学 科
機 械 シ ス テ ム 工 学 科
機 械 理 工 学 科
機 能 分 子 ・ 生 命 化 学 科
化 学 シ ス テ ム 創 成 工 学 科
環 境 シ ス テ ム 学 科
数 理 シ ス テ ム 学 科
生 命 医 科 学 部

医 工 学 科
医 情 報 学 科
医 生 命 シ ス テ ム 学 科
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 科
心 理 学 部
心 理 学 科
グ ロー バ ル ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 部
グ ロー バ ル ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科
グ ロー バ ル 地 域 文 化 学 部
グ ロー バ ル 地 域 文 化 学 科

第7条の2 削除

第7条の3 本学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 削除

第7条の8 本学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

第7条の9 本学に国際教育インスティテュートを置く。

2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。

第7条の10 本学に免許資格課程センターを置く。

2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。

第7条の11 本学に学習支援・教育開発センターを置く。

2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。

第7条の12 削除

第7条の13 削除

第7条の14 本学に国際教養教育院を置く。

2 国際教養教育院に関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

第8条 各学部学科の教育課程は、各学部学科が学校教育法施行規則第165条の2第1項第1号及

び第2号により定める方針に基づき編成し、履修方法とともに別表Ⅱにこれを定める。

第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第8条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。

2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

第9条の2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。

2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

第9条の3 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の4 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第9条の6 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第10条 削除

第4節 単位の授与及び成績評価

第11条 一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

第12条 削除

第13条 学修の成果に係る評価は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については学修の成果に係る評価を、合格又は不合格で評価することができる。

第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、

産業関係学，教育文化学，法学，政治学，経済学，商学，政策学，文化情報学，工学，理学，スポーツ健康科学，心理学，グローバル・コミュニケーション学，グローバル地域文化学，国際教養)

2 前項に規定する学位には，「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び教育研究実施組織

第16条 各学部の入学定員，編入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学部学科別	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
機械理工学科	70名	2名	284名

機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名
数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
(うち英語コース)	85名		340名)
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

第17条 本学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。

2 本学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。

3 本学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。

第17条の2 削除

第18条 本学に、学長を置く。

2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。

3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

4 学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の2 本学に、副学長を置く。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の3 本学に、学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第18条の4 本学に、機構長、部長、所長、館長、室長等を置く。

第18条の5 本学に、学長補佐を置くことができる。

2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の6 本学に、その事務を遂行するため、職員を置く。

2 事務組織に関する規程は、別に定める。

第19条 本学の各学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。
 - (1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項
 - (2) 教育課程に関する事項
 - (3) 教員の人事に関する事項
 - (4) 学則、学部諸規程に関する事項
 - (5) その他学部長がつかさどる教育研究に関する事項
 - 3 教授会は、学長から諮問された事項について審議する。
 - 4 教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - 5 教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。
- 第19条の2** 本学に部長会を置く。
- 2 大学及び各学部に通ずる重要事項は、部長会で審議する。
 - 3 部長会に関する規程は、別に定める。
- 第19条の3** 本学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。
 - 3 大学評議会に関する規則は、別に定める。
- 第19条の4** 本学に大学教授会を置く。
- 2 大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

- 第20条** 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とするときには、入学の時期を学期の始めとすることができる。
- 第21条** 学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。
- (1) 高等学校卒業生
 - (2) 中等教育学校卒業生
 - (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
 - (4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの
 - (5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者
- 第22条** 前条の資格を有する入学志願者について、各学部が学校教育法施行規則第165条の2第1

項第3号により定める方針に基づき、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。

第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。

2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第2年次修了者

(2) 短期大学卒業生

(3) 高等専門学校卒業生

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者(ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。)

(5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者

(6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者(ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。)

3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第1年次修了者

(2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者

4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。

5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。

第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本学の複数の学部・学科・コース(以下「学部等」という。)の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 連帯保証人は1名とし、父又は母(父母のいない者は、これにかわる親戚等)とする。

2 連帯保証人は、その学生の在籍中、本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき、極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は別表Iに定める学費1年分と

する。

3 連帯保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

4 連帯保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに連帯保証人を定めて届け出なければならない。

第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願い出て、許可を得なければならない。

2 休学期間は、1年又は半年とする。

3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、その旨願い出なければならない。

第29条 学長は、学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。

第30条 学長は、品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。

2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、春学期末卒業予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。

(1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者

(3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍された者が、連帯保証人連署のうえ、再入学を願い出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願い出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生，聴講生及び外国人留学生

- 第31条** 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、科目等履修生とすることができる。
- 2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。
- 第32条** 科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。
- 2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。
- 第33条** 削除
- 第34条** 削除
- 第35条** 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。
- 第36条** 聴講生に関する内規は、別に定める。
- 第36条の2** 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

- 第37条** 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。
- 2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。
- 3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。
- 第38条** 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む。）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの4にこれを定める。
- 2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。
- 3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。
- 4 第31条第2項に定める、協定に基づき本学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。
- 5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。
- 6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。
- 7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、当該学期の学費を徴収する。

8 第30条第1項に基づく停学に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することがある。

2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものと

し、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。(1997年4月1日改正)

- 6 第7条, 第16条は, 神学部_に神学科, 経済学部_に経済学科, 商学部_に商学科の学科名明示により, 1999年4月1日から改正施行する。(1999年4月1日改正)
- 7 第7条, 第16条は, 文学部_{社会学科}新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更, 政策学部_{政策学科}, 工学部_{情報システムデザイン学科}及び環境システム学科の設置により 2004年4月1日から改正施行する。(2004年4月1日改正)
- 8 第7条は, 文学部の改組・再編による文化学科, 社会学科及び各学科内の専攻の廃止, それに伴う文学部_{哲学科}, 心理学科, 美学芸術学科, 文化史学科, 国文学科及び社会学部_{社会学科}, 社会福祉学科, メディア学科, 産業関係学科, 教育文化学科の設置並びに文化情報学部_{文化情報学科}の設置により 2005年4月1日から改正施行する。

第16条は, 文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース, 夜間主コースの廃止により 2005年4月1日から改正施行する。

なお, 廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは, 2005年度より学生募集を停止する。ただし, 各学科・専攻及びコースは, 当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし, 教育課程に関する規程は, 従前によるものとする。(2005年4月1日改正)
- 9 第13条に規定する試験の成績評価は, 2004年度第1年次入学生から適用し, 2003年度以前の入学生については, 従前の規程による。
- 10 第15条に規定する学位は, 2005年度第1年次入学生から適用し, 2004年度以前の入学生については, 従前の規程による。
- 11 第30条の3に規定する再入学は, 2004年度第1年次入学生から適用する。
- 12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は, 2005年度第1年次入学生から適用し, 2004年度以前の入学生については, 別に定めるもののほか, 従前の教育課程表による。
- 13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち, 入学金, 授業料, 教育充実費及び実験実習料については, 2005年度入学生に適用する。2004年度以前の入学生については, 従前の学費による。
- 14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち, 休学在籍料については, 2003年度以降在学の学生に適用する。ただし, 2002年度以前の入学生のうち, 従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は, その額とする。

附 則

- 1 この学則は, 2006年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は, 工学部_{知識工学科}の名称変更により, 改正・施行する。なお, 知識工学科は, 2006年度より学生募集を停止する。ただし, 当該学科は, 当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし, 教育課程に関する規程は, 従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は, 2006年度第1年次入学生から適用し, 2005年度以前の入学生については, 別に定めるもののほか, 従前の教育課程表による。

- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料については，2006 年度入学生に適用する。2005 年度以前の入学生については，従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は，2007 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 16 条は，文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース，夜間主コースの廃止により，改正・施行する。なお，文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは，2007 年度より学生募集を停止する。ただし，当該コースは，当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし，教育課程に関する規程は，従前によるものとする。
- 3 第 8 条の別表 II の各学部教育課程表は，2007 年度第 1 年次入学生から適用し，2006 年度以前の入学生については，別に定めるもののほか，従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料については，2007 年度入学生に適用する。2006 年度以前の入学生については，従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は，2008 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は，理工学部数理システム学科，生命医科学部医工学科，医情報学科，医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部，機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部，機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により，改正・施行する。
第 16 条は，政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止，理工学部数理システム学科，生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部，機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部，機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。
なお，政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は，2008 年度より学生募集を停止する。ただし，各学部・学科及びコースは，当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし，教育課程に関する規程は，従前によるものとする。
- 3 第 8 条の別表 II の各学部教育課程表は，2008 年度第 1 年次入学生から適用し，2007 年度以前の入学生については，別に定めるもののほか，従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表 I に定める学費のうち，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習料については，2008 年度入学生に適用する。2007 年度以前の入学生については，従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は，2009 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は，心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止により，改正・施行する。

第 16 条は、心理学部心理学科の設置及びこれに伴う文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009 年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2009 年度第 1 年次入学生から適用し、2008 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009 年度入学生に適用する。2008 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2010 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2010 年度第 1 年次入学生から適用し、2009 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 3 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010 年度入学生に適用する。2009 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2011 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条及び第 16 条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。
- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011 年度第 1 年次入学生から適用し、2010 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012 年度第 1 年次入学生から適用し、2011 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2013 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。
第 16 条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

この学則は、2014年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2016年5月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

この学則は、2017年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。
なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。
なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科

は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020 年度第 1 年次入学生から適用し、2019 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020 年度入学生に適用する。2019 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021 年度第 1 年次入学生から適用し、2020 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2022 年度第 1 年次入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第 26 条に規定する連帯保証人は、2022 年度第 1 年次入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則

- 1 この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2023 年度第 1 年次入学生から適用し、2022 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第 26 条第 2 項に規定する極度額は、2023 年度第 1 年次入学生から適用する。2022 年度の入学生については、従前の規定による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023 年度入学生に適用する。2022 年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条の 14 は、国際教養教育院の設置並びにこれに伴う第 7 条の 7 に定める日本語・日本文化教育センター及び第 7 条の 12 に定めるグローバル教育センターの廃止により、改正・施行する。なお、

日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、2024 年度より学生の新規受入れを停止する。ただし、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、当該センターに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第 8 条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2024 年度第 1 年次入学生から適用し、2023 年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第 38 条第 1 項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024 年度入学生に適用する。2023 年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表 I 学 費

入学金，授業料及び教育充実費

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グ ロ ー バ ル 地 域 文 化 学 部	第 1 年次	200,000 円	763,000 円	163,000 円
	第 2 年次		963,000 円	163,000 円
	第 3 年次		963,000 円	163,000 円
	第 4 年次		963,000 円	163,000 円
文 化 情 報 学 部	第 1 年次	200,000 円	873,000 円	176,000 円
	第 2 年次		1,073,000 円	176,000 円
	第 3 年次		1,073,000 円	176,000 円
	第 4 年次		1,073,000 円	176,000 円
理 工 学 部 (数理システム学科を除く) 生 命 医 科 学 部	第 1 年次	200,000 円	1,264,000 円	246,000 円
	第 2 年次		1,464,000 円	246,000 円
	第 3 年次		1,464,000 円	246,000 円
	第 4 年次		1,464,000 円	246,000 円
理 工 学 部 (数理システム学科)	第 1 年次	200,000 円	1,187,000 円	246,000 円
	第 2 年次		1,387,000 円	246,000 円
	第 3 年次		1,387,000 円	246,000 円
	第 4 年次		1,387,000 円	246,000 円

ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部	第 1 年次	200,000 円	906,000 円	176,000 円
	第 2 年次		1,106,000 円	176,000 円
	第 3 年次		1,106,000 円	176,000 円
	第 4 年次		1,106,000 円	176,000 円
心 理 学 部	第 1 年次	200,000 円	923,000 円	184,000 円
	第 2 年次		1,123,000 円	184,000 円
	第 3 年次		1,123,000 円	184,000 円
	第 4 年次		1,123,000 円	184,000 円
グ ロー バ ル ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 部	第 1 年次	200,000 円	873,000 円	184,000 円
	第 2 年次		1,073,000 円	184,000 円
	第 3 年次		1,073,000 円	184,000 円
	第 4 年次		1,073,000 円	184,000 円

- (1) 授業料及び教育充実費については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 4年を超えて在籍した場合(再修生)の学費は、第4年次の学費を適用する。
- (3) 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- (4) 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

特別在籍料

ダブルディグリープログラムによる留学期間	特別在籍料
1 年	300,000 円
1 学期	150,000 円

休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000 円
半 年	60,000 円

- ・ 母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履 修 料

履 修 登 録 料	全 学 部	25,000 円
履 修 料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	22,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	23,000 円
	理工, 生命医科学部	31,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	24,000 円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部に併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴講料

聴講登録料	全学 部	25,000 円
聴講料 (1 単位につき)	神, 文, 社会, 法, 経済, 商, 政策, グローバル地域文化学部	15,000 円
	文化情報, スポーツ健康科学部	15,000 円
	理工, 生命医科学部	21,000 円
	心理, グローバル・ コミュニケーション学部	16,000 円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第 1 年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2 分の 1 とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部に併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生 (特別学生) 入学金及び研修料

	入 学 金	研 修 料 (年額)	研 修 料 (年度内の在 学期間が 7 月 以内の場合)
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000 円	440,000 円	220,000 円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000 円	460,000 円	230,000 円
理工学部 生命医科学部	25,000 円	620,000 円	310,000 円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000 円	480,000 円	240,000 円
国際教養教育院	25,000 円	666,000 円	333,500 円

- (1) 研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（国際教養教育院は、30単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Ⅰの2に定める履修料相当額を、グローバル教育プログラム科目、日本語・日本文化教育プログラム科目及び日本語・日本文化教育科目を登録するときは学則別表Ⅰの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。
- (7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表 I の 5 入学検定料

区 分		金 額
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000 円
大学入学共通テストを利用する入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000 円
	個別学力検査を課さない場合	15,000 円
アドミッションズオフィス方式による入学者選抜	第 1 次審査	25,000 円
	第 2 次審査	10,000 円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000 円
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考	第 1 次選考	10,000 円
	第 2 次選考	25,000 円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験	書類選考及び学部独自試験を課す場合	15,000 円
	書類選考のみの場合	10,000 円
国際教育インスティテュート (国際教養コース) 入学試験		15,000 円

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表

科 目	履修単位		
		日本とアジア 1	2
		日本とアジア 2	2
全学共通教養教育科目		スタンフォード大学科目	2
		AKP科目	2
○同志社科目		KCJS科目	2
建学の精神とキリスト教	2	テュービンゲン大学科目	2
旧約聖書とキリスト教	2	日本近現代史	2
新約聖書とキリスト教	2	世界近現代史	2
キリスト教の歴史 1	2	世界の宗教	2
キリスト教の歴史 2	2	Intercultural Studies	2
同志社の歴史	2	EUキャンパス特別講義	2
同志社の良心とダイバーシティ	2	Freshman “Go Global” Program	2
○キャリア形成支援科目		Mid-college “Be Strong” Program	4
キャリア開発と学生生活	2	Introduction to Japanese Culture in the	2
キャリア開発の課題と方法	2	Global Context	
労働市場の動向とキャリア形成	2	Introduction to Japanese Society in the	2
インターンシップ入門	2	Global Context	
メガトレンドを読む	2	Introduction to the Nature of Japan and	2
SDGsで考える社会課題とキャリア形成	2	Asia in Global Context	
働くということ	2	Humanities and Global Issues	2
キャリア形成とインターンシップ	2	Social Sciences and Global Issues	2
アントレプレナーシップ論	2	Natural Sciences and Global Issues	2
○国際教養科目		Japan in Modern World History	2
国際教養基礎論 1	2	International Relations in the Postwar	2
国際教養基礎論 2	2	Era	
比較言語文化論 1	2	Issues in Japanese Culture	2
比較言語文化論 2	2	Democracy and Politics : A Comparative	2
地域言語文化論 1	2	Perspective	
地域言語文化論 2	2	Education in the Age of Globalization	2
メタ言語文化論 1	2	Issues in Intercultural Communication	2
メタ言語文化論 2	2	Economy and Business in the Global	2
ジョイント・セミナー比較文化論	4	Context 1	

Economy and Business in the Global Context 2	2	Tradition and Art in Japan 1	2
Principles of Economics	2	Tradition and Art in Japan 2	2
Environmental Economics and Sustainability	2	クールジャパン科目	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	2	Japan Today 1	2
Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	2	Japan Today 2	2
The Divisions of Identity in Society	2	クリエイティブ・ジャパン科目	2
Statistics for the Social Sciences and Humanities	2	○人文科学系科目	
Introduction to Computer Science and Information Technology	2	宗教学(1)	2
Human Science in the Global Age	2	宗教学(2)	2
Introduction to Quantitative Data Analysis	2	哲学(1)	2
Conservation of Japanese Nature and Environment	2	哲学(2)	2
Mathematics and its History	2	倫理学(1)	2
Science of Natural Disasters	2	倫理学(2)	2
Advanced Seminar 1	2	論理学(1)	2
Advanced Seminar 2	2	論理学(2)	2
Advanced Seminar 3	2	論理的思考の基礎(1)	2
○クリエイティブ・ジャパン科目		論理的思考の基礎(2)	2
京都科目	2	論理的思考の応用(1)	2
日本の伝統と美	2	論理的思考の応用(2)	2
日本の伝統と文化	2	芸術学(1)	2
日本の伝統と芸能	2	芸術学(2)	2
日本の伝統と能楽	2	日本史(1)	2
日本の伝統と芸術	2	日本史(2)	2
Japanese Thought and Religion 1	2	東洋史(1)	2
Japanese Thought and Religion 2	2	東洋史(2)	2
		西洋史(1)	2
		西洋史(2)	2
		考古学(1)	2
		考古学(2)	2
		日本語(1)	2
		日本語(2)	2
		日本文学(1)	2

日本文学(2)	2	○複合領域科目	
ドイツ文学	2	複合領域科目 1	2
フランス文学	2	複合領域科目 2	2
中国文学	2	○プロジェクト科目	
スペイン文学	2	プロジェクト科目 1	2
ラテンアメリカ文学	2	プロジェクト科目 2	2
ロシア文学	2	○外国語教育科目	
コリア文学	2	英語	
○社会科学系科目		Intensive Advanced English 1	3
法学	2	Intensive Advanced English 2	3
政治学	2	Core English (LS) - Intermediate 1	2
経済学 1	2	Core English (LS) - Intermediate 2	2
経済学 2	2	Core English (RW) - Intermediate 1	1
商学	2	Core English (RW) - Intermediate 2	1
○自然・人間科学系科目		Core English (LS) - Pre-Intermediate 1	2
データサイエンス概論	2	Core English (LS) - Pre-Intermediate 2	2
データサイエンス基礎	2	Core English (RW) - Pre-Intermediate 1	1
データエンジニアリング基礎	2	Core English (RW) - Pre-Intermediate 2	1
A I 基礎	2	Basic English (LS) 1	2
データサイエンス 1	2	Basic English (LS) 2	2
データサイエンス 2	2	Basic English (RW) 1	1
サイバーセキュリティ入門	2	Basic English (RW) 2	1
数学	2	General Academic English (LS) -	1
物理学	2	Intermediate	
化学	2	General Academic English (RW) -	1
地球と宇宙の科学	2	Intermediate	
生命の科学	2	General Academic English (LS) -	1
科学史・科学論	2	Pre-Intermediate	
環境の科学	2	General Academic English (RW) -	1
自然科学特論	2	Pre-Intermediate	
心理学 1	2	English for Professional Purposes 1	1
心理学 2	2	English for Professional Purposes 2	1

English for Academic Purposes 1	2	ドイツ語表現法 1	2
English for Academic Purposes 2	2	ドイツ語表現法 2	2
English for Academic Purposes 3	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 2	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 1	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 2	2	サマープログラム・ドイツ語 A	4
サマープログラム・英語 A	4	サマープログラム・ドイツ語 B	3
サマープログラム・英語 B	3	スプリングプログラム・ドイツ語	3
サマープログラム・英語 C	2	セメスタープログラム・ドイツ語 I	4
スプリングプログラム・英語 A	4	セメスタープログラム・ドイツ語 II	4
スプリングプログラム・英語 B	3	ドイツ語会話初級 1	1
スプリングプログラム・英語 C	2	ドイツ語会話初級 2	1
スプリングプログラム・英語 D	1	ドイツ語会話中級 1	1
セメスタープログラム・英語 I	4	ドイツ語会話中級 2	1
セメスタープログラム・英語 II	4	ドイツ語会話上級 1	1
(英語以外の外国語)		ドイツ語会話上級 2	1
ドイツ語		フランス語	
ドイツ語入門 I	2	フランス語入門 I	2
ドイツ語入門 II	2	フランス語入門 II	2
ドイツ語応用 1	1	フランス語応用 1	1
ドイツ語応用 2	1	フランス語応用 2	1
ドイツ語応用 3	1	フランス語応用 3	1
ドイツ語応用 4	1	フランス語応用 4	1
ドイツ語インテンシヴ I	3	フランス語インテンシヴ I	3
ドイツ語インテンシヴ II	3	フランス語インテンシヴ II	3
ドイツ語インテンシヴ III	3	フランス語インテンシヴ III	3
ドイツ語インテンシヴ IV	3	フランス語インテンシヴ IV	3
ドイツ語インテンシヴ V	2	フランス語インテンシヴ V	2
ドイツ語インテンシヴ VI	2	フランス語インテンシヴ VI	2
ドイツ語文化事情 1	2	フランス語インテンシヴ VII	2
ドイツ語文化事情 2	2	フランス語インテンシヴ VIII	2

フランス語文化事情 1	2	中国語文化事情 2	2
フランス語文化事情 2	2	中国語表現法 1	2
フランス語表現法 1	2	中国語表現法 2	2
フランス語表現法 2	2	言語文化原典演習(中国語) 1	2
言語文化原典演習(フランス語) 1	2	言語文化原典演習(中国語) 2	2
言語文化原典演習(フランス語) 2	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2	サマープログラム・中国語 B	3
サマープログラム・フランス語	4	スプリングプログラム・中国語	1
スプリングプログラム・フランス語	3	中国語会話初級 1	1
フランス語会話初級 1	1	中国語会話初級 2	1
フランス語会話初級 2	1	中国語会話中級 1	1
フランス語会話中級 1	1	中国語会話中級 2	1
フランス語会話中級 2	1	中国語会話上級 1	1
フランス語会話上級 1	1	中国語会話上級 2	1
フランス語会話上級 2	1	スペイン語	
中国語		スペイン語入門 I	2
中国語入門 I	2	スペイン語入門 II	2
中国語入門 II	2	スペイン語応用 1	1
中国語応用 1	1	スペイン語応用 2	1
中国語応用 2	1	スペイン語応用 3	1
中国語応用 3	1	スペイン語応用 4	1
中国語応用 4	1	スペイン語インテンシヴ I	3
中国語インテンシヴ I	3	スペイン語インテンシヴ II	3
中国語インテンシヴ II	3	スペイン語インテンシヴ III	3
中国語インテンシヴ III	3	スペイン語インテンシヴ IV	3
中国語インテンシヴ IV	3	スペイン語インテンシヴ V	2
中国語インテンシヴ V	2	スペイン語インテンシヴ VI	2
中国語インテンシヴ VI	2	スペイン語文化事情 1	2
中国語インテンシヴ VII	2	スペイン語文化事情 2	2
中国語インテンシヴ VIII	2	スペイン語表現法 1	2
中国語文化事情 1	2	スペイン語表現法 2	2

言語文化原典演習(スペイン語) 1	2	ロシア語会話初級 1	1
言語文化原典演習(スペイン語) 2	2	ロシア語会話初級 2	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2	ロシア語会話中級 1	1
現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2	ロシア語会話中級 2	1
サマープログラム・スペイン語	4	ロシア語会話上級 1	1
スプリングプログラム・スペイン語 B	3	ロシア語会話上級 2	1
スペイン語会話初級 1	1	ロシア語	
スペイン語会話初級 2	1	ロシア語入門 I	2
スペイン語会話中級 1	1	ロシア語入門 II	2
スペイン語会話中級 2	1	ロシア語応用 1	1
スペイン語会話上級 1	1	ロシア語応用 2	1
スペイン語会話上級 2	1	ロシア語応用 3	1
ロシア語		ロシア語応用 4	1
ロシア語入門 I	2	ロシア語インテンシヴ I	3
ロシア語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ II	3
ロシア語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ III	3
ロシア語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
ロシア語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ V	2
ロシア語応用 4	1	ロシア語インテンシヴ VI	2
ロシア語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 1	2
ロシア語インテンシヴ II	3	ロシア語文化事情 2	2
ロシア語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 1	2
ロシア語インテンシヴ IV	3	ロシア語表現法 2	2
ロシア語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
ロシア語文化事情 2	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
ロシア語表現法 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
ロシア語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
言語文化原典演習(ロシア語) 1	2	サマープログラム・ロシア語	3
言語文化原典演習(ロシア語) 2	2	スプリングプログラム・ロシア語	3
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2	ロシア語会話初級 1	1
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2	ロシア語会話初級 2	1
サマープログラム・ロシア語	4	ロシア語会話中級 1	1

コリア語会話中級 2	1	旧約聖書学入門 1	2
コリア語会話上級 1	1	旧約聖書学入門 2	2
コリア語会話上級 2	1	旧約聖書解釈学 1	2
イタリア語		旧約聖書解釈学 2	2
基礎イタリア語 I	1	旧約聖書解釈学 3	2
基礎イタリア語 II	1	旧約聖書解釈学 4	2
基礎イタリア語 III	1	新約聖書学入門 1	2
基礎イタリア語 IV	1	新約聖書学入門 2	2
○保健体育科目		新約聖書解釈学 1	2
スポーツ・健康の科学 A	2	新約聖書解釈学 2	2
スポーツ・健康の科学 B	2	聖書とその周辺 1	2
スポーツ・健康の科学 C	2	聖書とその周辺 2	2
スポーツ・パフォーマンス 1	1	聖書学演習 1	2
		聖書学演習 2	2
		聖書学演習 3	2
神 学 部		聖書学演習 4	2
神 学 科		聖書解釈演習 1	2
人材養成目的		聖書解釈演習 2	2
神学部神学科は、人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教について、とりわけキリスト教、イスラーム、ユダヤ教という中東生まれの3つの一神教とその世界について、包括的・多角的・学際的な研究をとおして、人間・言語・歴史・文化・社会に対する広く深い理解と知的洞察力を身に付けて、キリスト教関連のスペシャリストや宗教に関する知識を持ったスペシャリストとして文明の共存に貢献する人材を養成することを目的とする。		聖書解釈演習 3	2
		聖書解釈演習 4	2
		新約聖書学演習 1	2
		新約聖書学演習 2	2
		新約聖書学演習 3	2
		新約聖書学演習 4	2
		キリスト教史入門 1	2
		キリスト教史入門 2	2
		中世キリスト教史	2
科 目	履修単位	歴史神学概論	2
○必修科目		日本キリスト教史 1	2
神学入門	2	日本キリスト教史 2	2
○選択科目		東南アジアのキリスト教史	2
【1 類】		近世キリスト教史 1	2

近世キリスト教史 2	2	近現代思想家の宗教観演習 1	2
キリスト教史特講 1	2	近現代思想家の宗教観演習 2	2
キリスト教史特講 2	2	近現代思想家の宗教観演習 3	2
アメリカ史における宗教	2	近現代思想家の宗教観演習 4	2
中世キリスト教史演習	2	宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 1	2
歴史神学概論演習	2	宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 2	2
宗教改革の研究演習 1	2	宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 3	2
宗教改革の研究演習 2	2	宗教・歴史・人間(卒業論文演習) 4	2
宗教改革の研究演習 3	2	キリスト教からの展望(卒業論文演習) 1	2
宗教改革の研究演習 4	2	キリスト教からの展望(卒業論文演習) 2	2
近現代キリスト教史演習 1	2	キリスト教からの展望(卒業論文演習) 3	2
近現代キリスト教史演習 2	2	キリスト教からの展望(卒業論文演習) 4	2
近現代キリスト教史演習 3	2	エコ神学演習	2
近現代キリスト教史演習 4	2	エキュメニカル神学演習	2
日本キリスト教史演習 1	2	実践神学総論	2
日本キリスト教史演習 2	2	牧会カウンセリング 1	2
日本キリスト教史演習 3	2	牧会カウンセリング 2	2
日本キリスト教史演習 4	2	臨床牧会学 1	2
近世キリスト教史演習 1	2	臨床牧会学 2	2
近世キリスト教史演習 2	2	宗教と差別	2
近世キリスト教史演習 3	2	礼拝学 1	2
近世キリスト教史演習 4	2	礼拝学 2	2
ヨーロッパの宗教	2	教会教育学	2
キリスト教倫理	2	牧会学	2
現代神学	2	説教学	2
教義学 1	2	宣教学	2
教義学 2	2	賛美歌の研究	2
現代神学の論点 1	2	現代実践神学の課題 1	2
現代神学の論点 2	2	現代実践神学の課題 2	2
現代神学の論点 3	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 1	2
現代神学の論点 4	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 2	2
エキュメニカル神学	2	実践神学の課題(卒業論文演習) 3	2

実践神学の課題(卒業論文演習) 4	2	イスラーム法学 1	2
実践神学の課題(卒業論文演習) 5	2	イスラーム法学 2	2
実践神学の課題(卒業論文演習) 6	2	イスラーム法学 3	2
実践神学の課題(卒業論文演習) 7	2	イスラーム法学 4	2
実践神学の課題(卒業論文演習) 8	2	イスラーム思想 1	2
東南アジアのキリスト教演習	2	イスラーム思想 2	2
牧会学演習 1	2	現代イスラーム世界 1	2
牧会学演習 2	2	現代イスラーム世界 2	2
教会探検隊 1	2	イスラーム経済学演習 1	2
教会探検隊 2	2	イスラーム経済学演習 2	2
メディアと宗教 1	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 1	2
メディアと宗教 2	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 2	2
宗教と社会福祉 2	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 3	2
宗教と社会活動	2	イスラームと現代社会(卒業論文演習) 4	2
宗教と国際社会	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 1	2
アメリカ映画とキリスト教	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 2	2
キャリア・ガイダンス・セミナー 1	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 3	2
キャリア・ガイダンス・セミナー 2	2	イスラーム法学演習(卒業論文演習) 4	2
パイプオルガン演習 1	2	シーア派・イスラーム論 1	2
パイプオルガン演習 2	2	シーア派・イスラーム論 2	2
パイプオルガン演習 3	2	シーア派・イスラーム論 3	2
パイプオルガン演習 4	2	シーア派・イスラーム論 4	2
CCM(現代的キリスト教音楽)演習	2	イスラーム史概論 1	2
ワーシップ音楽演習	2	イスラーム史概論 2	2
アフリカン・アメリカンの霊歌演習	2	現代イスラーム社会と文化 1	2
ゴスペル音楽演習	2	現代イスラーム社会と文化 2	2
イスラーム概論 1	2	初期・古典イスラーム研究 1	2
イスラーム概論 2	2	中世・近世イスラーム研究 1	2
クルアーン・ハディース学 1	2	現代イスラームの諸問題 1	2
クルアーン・ハディース学 2	2	現代イスラームの諸問題 2	2
クルアーン・ハディース学 3	2	現代イスラーム社会と文化の演習 1	2
クルアーン・ハディース学 4	2	現代イスラーム社会と文化の演習 2	2

イスラーム社会文化演習 1	2	アラム語 2	2
イスラーム社会文化演習 2	2	アブラハム像演習 1	2
イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 1	2	アブラハム像演習 2	2
イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 2	2	モーセ像演習 1	2
イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 3	2	モーセ像演習 2	2
イスラーム社会の諸相(卒業論文演習) 4	2	20世紀のユダヤ教演習	2
ペルシア語入門 1	2	ユダヤ人の祈りの演習	2
ペルシア語入門 2	2	ユダヤ女性演習	2
ペルシア語会話 1	2	宗教研究入門	2
ペルシア語会話 2	2	宗教社会学 1	2
ペルシア語入門 3	2	宗教社会学 2	2
ペルシア語入門 4	2	宗教人類学 1	2
アッカドの言語と文化 1(歴史)	2	宗教人類学 2	2
アッカドの言語と文化 2(文学)	2	諸宗教とキリスト教	2
ヒッタイトの言語と文化 1(歴史)	2	キリスト教的世界観	2
ヒッタイトの言語と文化 2(文学)	2	古代イスラエル宗教史 1	2
ヘブライ語碑文 1(起源と発達)	2	古代イスラエル宗教史 2	2
ヘブライ語碑文 2(諸言語比較)	2	仏教概論 1	2
シュメールの言語と文化 1	2	仏教概論 2	2
シュメールの言語と文化 2	2	同志社とキリスト教	2
古代イスラエル史演習	2	日本宗教	2
ヒッタイト王国史演習	2	一神教研究	2
イスラエルの宗教演習	2	宗教と平和	2
古代近東学入門	2	日本宗教入門演習	2
ユダヤ学概論 1	2	一神教研究演習 1	2
ユダヤ学概論 2	2	一神教研究演習 2	2
ユダヤ学概論 3	2	宗教科教育法 A1	2
中世ユダヤ世界 1	2	宗教科教育法 A2	2
中世ユダヤ世界 2	2	宗教科教育法 B	2
ユダヤ教とその周辺文化 1	2	宗教科教育法 C	2
ユダヤ教とその周辺文化 2	2	教職実践演習(中・高)	2
アラム語 1	2	教育実習指導	1

教育実習 A	2	聖書ヘブライ語 1	2
教育実習 B	2	聖書ヘブライ語 2	2
教育実習 C	4	聖書ヘブライ語 3	2
アカデミック・ライティング	2	聖書ヘブライ語 4	2
卒業論文	4	聖書ヘブライ語 5	2
【2 類】		聖書ヘブライ語 6	2
神学英語・基礎	1	現代ヘブライ語初級 1	2
神学英語・講読 1	1	現代ヘブライ語初級 2	2
神学英語・講読 2	1	現代ヘブライ語中級 1	2
神学英語・講読 3	1	現代ヘブライ語中級 2	2
選択科目 2 類は、上記科目のほか、全学共通教養教育		現代ヘブライ語上級 1	2
科目の外国語教育科目の英語から履修すること。		現代ヘブライ語上級 2	2
実用英語技能検定試験, TOEFL(Test of English as a		新約ギリシア語文法 1(初級 1)	2
Foreign Language), TOEIC(Test of English for		新約ギリシア語文法 2(初級 2)	2
International Communication) で一定水準以上の成果を		新約ギリシア語実践 1(中級 1)	2
修めた者は、2 単位を限度として、選択科目 2 類の単位		新約ギリシア語実践 2(中級 2)	2
に認定する。		トルコ語初級 1	2
【3 類】		トルコ語初級 2	2
神学ドイツ語 1	2	トルコ語中級 1	2
神学ドイツ語 2	2	トルコ語中級 2	2
神学ドイツ語 3	2	トルコ語上級	2
神学ドイツ語 4	2	選択科目 3 類は、上記の科目のほか、全学共通教養教	
神学ドイツ語 5	2	育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(ドイツ	
神学ドイツ語 6	2	語, フランス語, 中国語, スペイン語, ロシア語, コリ	
神学ドイツ語 7	2	ア語, イタリア語)から履修すること。	
神学ドイツ語 8	2	【4 類】	
アラビア語文法	2	選択科目 4 類は、全学共通教養教育科目の保健体育科	
アラビア語初級 1	2	目から履修すること。	
アラビア語初級 2	2	【5 類】	
アラビア語中級 1	2	神学とコンピュータ	2
アラビア語中級 2	2	【6 類】	
アラビア語上級	2	日本の憲法	2

博物館概論	2	図書館情報技術論	2
博物館経営論	2	図書館情報サービス論 I	2
博物館資料論	2	図書館情報サービス論 II	2
博物館情報メディア論	2	児童サービス論	2
博物館教育論	2	情報サービス演習 I	2
博物館資料保存論	2	情報サービス演習 II	2
博物館展示論	2	図書館情報資源概論	2
博物館実習 I	2	情報資源組織論 I	2
博物館実習 II	1	情報資源組織論 II	2
西洋美術史概説(1)	2	情報資源組織演習 I	2
西洋美術史概説(2)	2	情報資源組織演習 II	2
日本美術史概説(1)	2	図書館情報学特論	2
日本美術史概説(2)	2	学術情報利用教育論	2
東洋美術史(1)	2	図書館情報資源特論	2
東洋美術史(2)	2	図書・図書館史	2
日本美術史(1)	2	図書館演習	4
日本美術史(2)	2	学校図書館サービス論	2
考古学概論(1)	2	学校教育図書館論	2
考古学概論(2)	2	学校図書館メディアの構成	2
民俗学(1)	2	学習指導と学校図書館	2
民俗学(2)	2	読書と豊かな人間性	2
西洋文化史概説(1)	2	情報メディアの活用	2
西洋文化史概説(2)	2	選択科目 6 類は、上記科目のほか、全学共通教養教育	
東洋文化史概説(1)	2	科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、	
東洋文化史概説(2)	2	クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学	
日本文化史概説(1)	2	系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジ	
日本文化史概説(2)	2	ェクト科目)、日本語・日本文化教育科目(ただし、履修	
美術史学	2	は外国人留学生に限る)、他学部設置科目、同志社女子大	
図像学	2	学単位互換科目、早稲田大学交流協定科目、チュービン	
生涯学習概論	2	ゲン大学 I E S 科目及び大学コンソーシアム京都単位互	
図書館情報学概論	2	換科目から履修すること。	
図書館制度・経営論	2	本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻	

パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合、当該科目の単位のうち、神学部神学科設置科目は設置されている類の単位とし、その他の科目は6類の単位の算入する。

履修方法

必修科目2単位及び選択科目の1類から68単位以上、2類から8単位以上、3類から8単位以上、4類、5類及び6類から36単位以上を履修し、合計124単位以上を履修すること。

○自由科目

教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2
教育課程論	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2

自由科目は卒業必要単位の算入しない。

文 学 部

人材養成目的

文学部は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の専門諸領域における教育・研究をとおして、現代のグローバ

ル社会の諸課題に自立的かつ実践的に対応する力を備えた人物を養成することを目的とする。そのために、演習・ゼミなどを中心にした少人数教育をとおして、各専門分野における基礎的な知識を修得したうえで、さらに、副専攻制度等を活用して、より幅広い有機的な教養の涵養を目指す。

英 文 学 科

人材養成目的

英文学科は、主として英米文学・英米文化、英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における広範な基礎知識、多彩な学際的思考力・表現力、高度な領域的専門性を備えたグローバル人材の養成を目的としている。その学究過程で、グローバル社会に通用する実践的英語運用能力、複雑化・多様化する状況を正確に判断し、適切に対応しうる分析能力、問題解決能力、精緻な言語表現能力、さらに異文化理解に対する鋭敏な感性と柔軟な汎用的思考力を身につけ、広範な視野と責任ある信条に裏打ちされた主体的かつ協調的行動によって、国内外において広く社会貢献できる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○必修科目

Academic Skills	2
TOEFL Preparation	2
英文学史 I	2
英文学史 II	2
英語学 I	2
英語学 II	2
基礎演習 I	2
基礎演習 II	2
Junior Seminar I	2

Junior Seminar II	2	Sociocultural Topics in English A (3)	2
Senior Seminar I	2	Sociocultural Topics in English A (4)	2
Senior Seminar II	2	Sociocultural Topics in English A (5)	2
卒業論文	8	Sociocultural Topics in English A (6)	2
Listening A I	2	Sociocultural Topics in English A (7)	2
Listening A II	2	Sociocultural Topics in English A (8)	2
Speaking A I	2	Sociocultural Topics in English A (9)	2
Speaking A II	2	Sociocultural Topics in English A (10)	2
Reading A I	2	Sociocultural Topics in English A (11)	2
Reading A II	2	Sociocultural Topics in English A (12)	2
Writing A I	2	Sociocultural Topics in English A (13)	2
Writing A II	2	Sociocultural Topics in English A (14)	2
Oral Communication I	2	Sociocultural Topics in English A (15)	2
Oral Communication II	2	通訳入門 I	2
Reading B I	2	通訳入門 II	2
Reading B II	2	翻訳入門	2
Writing B I	2	翻訳ワークショップ	2
Writing B II	2	ビジネス英語	2
○選択科目 I		TOEIC Preparation	2
A 群		留学ワークショップ(1)	2
Media in English A (1)	2	留学ワークショップ(2)	4
Media in English A (2)	2	留学ワークショップ(3)	2
Media in English A (3)	2	English Skills(1)	2
Media in English A (4)	2	English Skills(2)	2
Media in English A (5)	2	English Skills(3)	2
Media in English A (6)	2	English Skills(4)	2
Media in English A (7)	2	English Skills(5)	2
Media in English A (8)	2	English Skills(6)	2
Media in English A (9)	2	English Skills(7)	2
Media in English A (10)	2	English Skills(8)	2
Sociocultural Topics in English A (1)	2	English Skills(9)	2
Sociocultural Topics in English A (2)	2	English Skills(10)	2

B 群		Sociocultural Topics in English B (12)	2
Media in English B (1)	2	Sociocultural Topics in English B (13)	2
Media in English B (2)	2	Sociocultural Topics in English B (14)	2
Media in English B (3)	2	Sociocultural Topics in English B (15)	2
Media in English B (4)	2	Sociocultural Topics in English B (16)	2
Media in English B (5)	2	Sociocultural Topics in English B (17)	2
Media in English B (6)	2	Sociocultural Topics in English B (18)	2
Media in English B (7)	2	Sociocultural Topics in English B (19)	2
Media in English B (8)	2	Sociocultural Topics in English B (20)	2
Media in English B (9)	2	C 群	
Media in English B (10)	2	英米文学入門	2
Media in English B (11)	2	英米文化入門	2
Media in English B (12)	2	英語学入門	2
Media in English B (13)	2	英語教育学入門	2
Media in English B (14)	2	日英文化比較 (1)	2
Media in English B (15)	2	日英文化比較 (2)	2
Media in English B (16)	2	英米文学特論 A (1)	2
Media in English B (17)	2	英米文学特論 A (2)	2
Media in English B (18)	2	英米文学特論 A (3)	2
Media in English B (19)	2	英米文学特論 A (4)	2
Media in English B (20)	2	英米文学特論 A (5)	2
Sociocultural Topics in English B (1)	2	英米文学特論 A (6)	2
Sociocultural Topics in English B (2)	2	英米文学特論 A (7)	2
Sociocultural Topics in English B (3)	2	英米文学特論 A (8)	2
Sociocultural Topics in English B (4)	2	英米文学特論 A (9)	2
Sociocultural Topics in English B (5)	2	英米文学特論 A (10)	2
Sociocultural Topics in English B (6)	2	英米文学特論 A (11)	2
Sociocultural Topics in English B (7)	2	英米文学特論 A (12)	2
Sociocultural Topics in English B (8)	2	英米文学特論 A (13)	2
Sociocultural Topics in English B (9)	2	英米文学特論 A (14)	2
Sociocultural Topics in English B (10)	2	英米文学特論 A (15)	2
Sociocultural Topics in English B (11)	2	英語文化特論 A (1)	2

英語文化特論 A (2)	2	英語科教育法 II	2
英語文化特論 A (3)	2	英語科教育法 III	2
英語文化特論 A (4)	2	英語科教育法 IV	2
英語文化特論 A (5)	2	教育実習指導	1
英語文化特論 A (6)	2	教育実習 A	2
英語文化特論 A (7)	2	教育実習 B	2
英語文化特論 A (8)	2	教育実習 C	4
英語文化特論 A (9)	2	教職実践演習(中・高)	2
英語文化特論 A (10)	2	D 群	
英語圏文学 A (1)	2	米文学史 I	2
英語圏文学 A (2)	2	米文学史 II	2
英語圏文学 A (3)	2	言語学 I	2
英語圏文学 A (4)	2	言語学 II	2
英語圏文学 A (5)	2	英語教育学	2
キリスト教文学(1)	2	E 群	
キリスト教文学(2)	2	英米文学特論 B (1)	2
英語史 I	2	英米文学特論 B (2)	2
英語史 II	2	英米文学特論 B (3)	2
英語学特論(1)	2	英米文学特論 B (4)	2
英語学特論(2)	2	英米文学特論 B (5)	2
英語学特論(3)	2	英米文学特論 B (6)	2
英語学特論(4)	2	英米文学特論 B (7)	2
英語学特論(5)	2	英米文学特論 B (8)	2
英語学特論(6)	2	英米文学特論 B (9)	2
日英語対照研究(1)	2	英米文学特論 B (10)	2
日英語対照研究(2)	2	英米文学特論 B (11)	2
英語教育基礎論(1)	2	英米文学特論 B (12)	2
英語教育基礎論(2)	2	英米文学特論 B (13)	2
英語教育基礎論(3)	2	英米文学特論 B (14)	2
英語教育基礎論(4)	2	英米文学特論 B (15)	2
英語教育基礎論(5)	2	英語文化特論 B (1)	2
英語科教育法 I	2	英語文化特論 B (2)	2

英語文化特論 B (3)	2	ラテン語講読 II	2
英語文化特論 B (4)	2	卒業論文特殊研究	4
英語文化特論 B (5)	2	上記科目中から、B群2単位を含み、A・B群6単位	
英語文化特論 B (6)	2	以上、D群4単位とE群4単位を含み、C・D・E群	
英語文化特論 B (7)	2	18単位以上、合わせて24単位以上を履修すること。た	
英語文化特論 B (8)	2	だし、B群は4単位を上限とする。	
英語文化特論 B (9)	2	○選択科目II	
英語文化特論 B (10)	2	教職概論	2
英語圏文学 B (1)	2	教育原理	2
英語圏文学 B (2)	2	発達と学習の心理学	2
英語圏文学 B (3)	2	教育制度と学校経営	2
英語圏文学 B (4)	2	学校教育社会学	2
英語圏文学 B (5)	2	人権教育論	2
英語統語論 I	2	教育課程論	2
英語統語論 II	2	道徳教育の理論と実践	2
英語意味論 I	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
英語意味論 II	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
英語音声学・音韻論 I	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
英語音声学・音韻論 II	2	教育相談の理論と方法	2
英語教育特論(1)	2	スクールインターンシップ	2
英語教育特論(2)	2	学校教育文化論(1)	2
英語教育特論(3)	2	学校教育文化論(2)	2
英語教育特論(4)	2	生涯教育計画論	2
英語教育特論(5)	2	多文化共生社会と生涯学習	2
F 群		学校教育図書館論	2
ギリシャ語入門 I	2	読書と豊かな人間性	2
ギリシャ語入門 II	2	生涯学習概論	2
ギリシャ語講読 I	2	図書館情報学概論	2
ギリシャ語講読 II	2	図書館情報技術論	2
ラテン語入門 I	2	情報資源組織論 I	2
ラテン語入門 II	2	情報資源組織論 II	2
ラテン語講読 I	2	学術情報利用教育論	2

図書・図書館史 2

学校図書館サービス論 2

選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目のうち、学科が定める科目から履修する。

外国語科目は、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及び韓国語から1外国語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会話科目は、外国語科目の必要要件には算入しない。

他学科、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学IES科目から履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として卒業単位に算入する。

スポーツ・パフォーマンスは、4単位を上限として卒業単位に算入する。

以上、必修科目60単位、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱ(外国語科目8単位を含む)から64単位以上、合計124単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語1(文法Ⅰ～Ⅴ)、日本語2(アカデミック・ライティング

Ⅲ～Ⅴ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語2(文法Ⅰ～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位は選択科目Ⅱの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論 2

学校図書館メディアの構成 2

学習指導と学校図書館 2

情報メディアの活用 2

図書館制度・経営論 2

図書館情報サービス論Ⅰ 2

図書館情報サービス論Ⅱ 2

児童サービス論 2

情報サービス演習Ⅰ 2

情報サービス演習Ⅱ 2

図書館情報資源概論 2

情報資源組織演習Ⅰ 2

情報資源組織演習Ⅱ 2

図書館情報学特論 2

図書館情報資源特論 2

図書館演習 4

自由科目は卒業単位に算入しない。

哲 学 科

人材養成目的

哲学科は、西洋の哲学、倫理学、宗教などの歴史、思想、意義について、古典の講読、精神史の研究及び現代の諸問題の批判的検討・討論をとおして、基礎的な教養

を土台にして、世界と人間の意味を根本的原則的に考えぬく力や正しく行動する力、さらに社会の問題を的確に把握分析する力を身につけて、教育、文化、メディアをはじめ、公共機関や国際機関など、さらに広く産業界全体において活躍する人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
○必修科目		独書講読 III	2
		独書講読 IV	2
		仏書講読入門 I	1
		仏書講読入門 II	1
		仏書講読 I	2
		仏書講読 II	2
		仏書講読 III	2
		仏書講読 IV	2
人文演習 (1)	2	ラテン語講読 I	2
人文演習 (2)	2	ラテン語講読 II	2
哲学基礎演習 (1)	2	A群から2言語を選択し、ひとつの言語につき2単	
哲学基礎演習 (2)	2	位以上履修したうえで、8単位以上履修すること。	
演習 I (1)	2	B 群(思想史系科目)	
演習 I (2)	2	西洋古代中世哲学史 (1)	2
哲学概論 (1)	2	西洋古代中世哲学史 (2)	2
哲学概論 (2)	2	西洋近世哲学史 (1)	2
倫理学概論 (1)	2	西洋近世哲学史 (2)	2
倫理学概論 (2)	2	西洋倫理学史 (1)	2
演習 II (1)	2	西洋倫理学史 (2)	2
演習 II (2)	2	キリスト教精神史 (1)	2
卒業論文	12	キリスト教精神史 (2)	2
○選択科目 I		B群から8単位以上履修すること。	
A 群(講読系科目)		C 群(領域系科目)	
英書講読入門 I	1	近代哲学 (1)	2
英書講読入門 II	1	近代哲学 (2)	2
英書講読 I	2	現代哲学 (1)	2
英書講読 II	2	現代哲学 (2)	2
英書講読 III	2	科学哲学 (1)	2
英書講読 IV	2	科学哲学 (2)	2
独書講読入門 I	1	歴史哲学 (1)	2
独書講読入門 II	1	歴史哲学 (2)	2
独書講読 I	2	社会哲学 (1)	2
独書講読 II	2		

社会哲学(2)	2	教育原理	2
宗教哲学(1)	2	発達と学習の心理学	2
宗教哲学(2)	2	教育制度と学校経営	2
社会倫理学(1)	2	学校教育社会学	2
社会倫理学(2)	2	人権教育論	2
教育哲学(1)	2	教育課程論	2
教育哲学(2)	2	社会科・地理歴史科教育法	2
哲学特論(1)	2	社会科・公民科教育法	2
哲学特論(2)	2	社会科教育法 1	2
倫理学特論(1)	2	社会科教育法 2	2
倫理学特論(2)	2	地理歴史科教育法	2
宗教学特論(1)	2	公民科教育法	2
宗教学特論(2)	2	道德教育の理論と実践	2
C群から16単位以上履修すること。		特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
D 群(複合領域系科目)		教育方法とICT活用の理論と実践	2
宗教学(1)	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
宗教学(2)	2	教育相談の理論と方法	2
仏教学(1)	2	教育実習指導	1
仏教学(2)	2	教育実習 A	2
東洋哲学思想史(1)	2	教育実習 B	2
東洋哲学思想史(2)	2	教育実習 C	4
東洋倫理思想史(1)	2	教職実践演習(中・高)	2
東洋倫理思想史(2)	2	スクールインターンシップ	2
ラテン語入門 I	2	学校教育文化論(1)	2
ラテン語入門 II	2	学校教育文化論(2)	2
ギリシャ語入門 I	2	生涯教育計画論	2
ギリシャ語入門 II	2	多文化共生社会と生涯学習	2
ギリシャ語講読 I	2	学校教育図書館論	2
ギリシャ語講読 II	2	読書と豊かな人間性	2
D群から4単位以上履修すること。		生涯学習概論	2
○選択科目II		図書館情報学概論	2
教職概論	2	図書館情報技術論	2

情報資源組織論 I	2	人文地理学(2)	2
情報資源組織論 II	2	地理学総論(1)	2
学術情報利用教育論	2	地理学総論(2)	2
図書・図書館史	2	地誌学	2
学校図書館サービス論	2	日本の憲法	2
日本文化史概説(1)	2	社会学概論	4
日本文化史概説(2)	2	経済原論	4
日本史学史(1)	2	心理学概論(1)	2
日本史学史(2)	2	心理学概論(2)	2
日本美術史(1)	2	<p>選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目(「宗教学(1), (2)」を除く)、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目から履修する。</p> <p>○選択科目Ⅲ</p> <p>選択科目Ⅱのうち、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語、ドイツ語、フランス語から2外国語を選択し、各8単位、合計16単位以上を履修すること。</p> <p>以上、必修科目36単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目Ⅰ36単位以上、選択科目Ⅲ16単位以上、合計124単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。</p> <p>上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。</p> <p>○外国人留学生科目</p> <p>外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。</p> <p>外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日</p>	
日本美術史(2)	2		
日本社会史(1)	2		
日本社会史(2)	2		
考古学概論(1)	2		
考古学概論(2)	2		
西洋文化史概説(1)	2		
西洋文化史概説(2)	2		
東洋文化史概説(1)	2		
東洋文化史概説(2)	2		
西洋社会史(1)	2		
西洋社会史(2)	2		
西洋古代史(1)	2		
西洋古代史(2)	2		
西洋中世史(1)	2		
西洋中世史(2)	2		
西洋近代史(1)	2		
西洋近代史(2)	2		
アメリカ史(1)	2		
アメリカ史(2)	2		
東洋美術史(1)	2		
東洋美術史(2)	2		
人文地理学(1)	2		

本語 1(オーラル・コミュニケーションA I・II), 日本語 1(オーラル・コミュニケーションB I～V), 日本語 1(文法 I～V), 日本語 2(アカデミック・ライティング III～V), 日本語 2(オーラル・コミュニケーションA I・II), 日本語 2(オーラル・コミュニケーションB I～V), 日本語 2(文法 I～V), ビジネス日本語A, ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。

履修した単位のうち, 日本語 1, 日本語 2, ビジネス日本語C, ビジネス日本語Dを除く科目の単位は選択科目IIの単位に算入する。日本語 1, 日本語 2, ビジネス日本語C, ビジネス日本語Dの単位は, 8単位を上限として選択科目IIIの外国語教育科目の単位として算入する。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
児童サービス論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

美 学 芸 術 学 科

人材養成目的

美学芸術学科は, 美学・芸術学・芸術史(美術史)の三領域について, 美や芸術の本質や多様性, 様々な芸術ジャンルの原理, 及び作品の歴史を総合的に学ぶことをとおして, 今日的な問題にも対処しうる, 柔軟な思考力と磨き抜かれた感性と豊かな表現力を身につけることによって, マスコミ, 出版, 広告, 画廊, 官公庁等において, さらには大学院を経て美術館や博物館, 大学等において活躍しうる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
美学芸術学基礎演習 I	2
美学芸術学基礎演習 II	2
美学概論(1)	2
美学概論(2)	2
芸術学概論(1)	2
芸術学概論(2)	2
芸術史概論(1)	2
芸術史概論(2)	2
英書講読(1)	2
英書講読(2)	2
演習 I (1)	2
演習 I (2)	2
演習 II (1)	2
演習 II (2)	2
卒業論文	12
○選択科目 I	
A 群	
独書講読(1)	2
独書講読(2)	2

仏書講読(1)	2	美術史特論(4)	2
仏書講読(2)	2	美術史特論(5)	2
漢文講読(1)	2	美術史特論(6)	2
漢文講読(2)	2	文献講読(1)(英)	2
A群から独書, 仏書, 漢文のうちいずれかを選択し, 4		文献講読(2)(英)	2
単位以上履修すること。		文献講読(3)(独)	2
B 群		文献講読(4)(独)	2
西洋美術史概説(1)	2	文献講読(5)(仏)	2
西洋美術史概説(2)	2	文献講読(6)(仏)	2
日本美術史概説(1)	2	文献講読(7)(漢)	2
日本美術史概説(2)	2	文献講読(8)(漢)	2
美学特論(1)	2	文献講読(9)(古)	2
美学特論(2)	2	文献講読(10)(伊)	2
美学特論(3)	2	文献講読(11)(古)	2
美学特論(4)	2	文献講読(12)(伊)	2
美学特論(5)	2	音楽学概論 I	2
美学特論(6)	2	音楽学概論 II	2
芸術学特論(1)	2	文芸学概論 I	2
芸術学特論(2)	2	文芸学概論 II	2
芸術学特論(3)	2	B群から30単位以上履修すること。	
芸術学特論(4)	2	C 群	
芸術学特論(5)	2	芸術学(1)	2
芸術学特論(6)	2	芸術学(2)	2
芸術学特論(7)	2	演劇学概論 I	2
芸術学特論(8)	2	演劇学概論 II	2
芸術学特論(9)	2	映画学概論 I	2
芸術学特論(10)	2	映画学概論 II	2
東洋美術史(1)	2	デザイン理論 I	2
東洋美術史(2)	2	デザイン理論 II	2
美術史特論(1)	2	芸術批評論 I	2
美術史特論(2)	2	芸術批評論 II	2
美術史特論(3)	2	現代芸術論 I	2

現代芸術論 II	2	生涯教育計画論	2
芸術情報論 I	2	多文化共生社会と生涯学習	2
芸術情報論 II	2	学校教育図書館論	2
美学芸術学実地演習 I	2	読書と豊かな人間性	2
美学芸術学実地演習 II	2	生涯学習概論	2
C群から12単位以上履修すること。		図書館情報学概論	2
○選択科目II		図書館情報技術論	2
教職概論	2	情報資源組織論 I	2
教育原理	2	情報資源組織論 II	2
発達と学習の心理学	2	学術情報利用教育論	2
教育制度と学校経営	2	図書・図書館史	2
学校教育社会学	2	学校図書館サービス論	2
人権教育論	2	日本文化史概説(1)	2
教育課程論	2	日本文化史概説(2)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	日本史学史(1)	2
社会科・公民科教育法	2	日本史学史(2)	2
社会科教育法 1	2	日本美術史(1)	2
社会科教育法 2	2	日本美術史(2)	2
地理歴史科教育法	2	日本社会史(1)	2
公民科教育法	2	日本社会史(2)	2
道德教育の理論と実践	2	考古学概論(1)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	考古学概論(2)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	西洋文化史概説(1)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	西洋文化史概説(2)	2
教育相談の理論と方法	2	東洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	東洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	西洋社会史(1)	2
教育実習 B	2	西洋社会史(2)	2
教育実習 C	4	西洋古代史(1)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋古代史(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋中世史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋中世史(2)	2

西洋近代史(1)	2	語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会話科目は選択科目Ⅲには算入しない。
西洋近代史(2)	2	
アメリカ史(1)	2	以上、必修科目40単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目Ⅰ、Ⅱから68単位以上、選択科目Ⅲから16単位以上、合計124単位を履修すること。なお、国際専修
アメリカ史(2)	2	コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。
人文地理学(1)	2	
人文地理学(2)	2	
地理学総論(1)	2	
地理学総論(2)	2	
地誌学	2	
日本の憲法	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。
社会学概論	4	
経済原論	4	
哲学概論(1)	2	○外国人留学生科目
哲学概論(2)	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。
倫理学概論(1)	2	
倫理学概論(2)	2	外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語1(文法Ⅰ～Ⅴ)、日本語2(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語2(文法Ⅰ～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。
心理学概論(1)	2	
心理学概論(2)	2	
東洋哲学思想史(1)	2	
東洋哲学思想史(2)	2	
東洋倫理思想史(1)	2	
東洋倫理思想史(2)	2	
選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目(ただし、「芸術学(1),(2)」を除く)、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IESE科目のうち、学科が定める科目から履修する。		
○選択科目Ⅲ		
選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学科が定める科目から履修すること。		
英語科目から8単位履修すること。更に選択科目Ⅱよりドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1外国		
		語を選択し8単位を履修すること。なお、各外国語の会話科目は選択科目Ⅲには算入しない。
		以上、必修科目40単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目Ⅰ、Ⅱから68単位以上、選択科目Ⅲから16単位以上、合計124単位を履修すること。なお、国際専修
		コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。
		上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。
		○外国人留学生科目
		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。
		外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語1(文法Ⅰ～Ⅴ)、日本語2(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本語2(オーラル・コミュニケーションBⅠ～Ⅴ)、日本語2(文法Ⅰ～Ⅴ)、ビジネス日本語A、ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。
		履修した単位は選択科目Ⅱの単位に算入する。なお、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位は選択科目Ⅲの外国語教育科目の単位に代えることができる。
		○自由科目
		特別ニーズ教育論 2
		スクールインターンシップ 2
		学校図書館メディアの構成 2

学習指導と学校図書館	2	日本文化史演習 II (1)	2
情報メディアの活用	2	日本文化史演習 II (2)	2
図書館制度・経営論	2	演習 A I (1)	2
図書館情報サービス論 I	2	演習 A I (2)	2
図書館情報サービス論 II	2	演習 A II (1)	2
児童サービス論	2	演習 A II (2)	2
情報サービス演習 I	2	西洋・東洋文化史演習 I (1)	2
情報サービス演習 II	2	西洋・東洋文化史演習 I (2)	2
図書館情報資源概論	2	西洋・東洋文化史演習 II (1)	2
情報資源組織演習 I	2	西洋・東洋文化史演習 II (2)	2
情報資源組織演習 II	2	演習 B I (1)	2
図書館情報学特論	2	演習 B I (2)	2
図書館情報資源特論	2	演習 B II (1)	2
図書館演習	4	演習 B II (2)	2
教職コンピュータ基礎	2	卒業論文	12

自由科目は卒業単位に算入しない。

日本文化史演習 I (1)・(2), 日本文化史演習 II (1)・(2), 演習 A I (1)・(2), 演習 A II (1)・(2)は日本文化史コースのみ, 西洋・東洋文化史演習 I (1)・(2), 西洋・東洋文化史演習 II (1)・(2), 演習 B I (1)・(2), 演習 B II (1)・(2)は西洋・東洋文化史コースのみ履修できる。

○選択科目 I

A 群(日本文化史科目)

日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
日本史学史(1)	2
日本史学史(2)	2
日本美術史(1)	2
日本美術史(2)	2
日本思想史(1)	2
日本思想史(2)	2
日本社会史(1)	2

文化史学科

人材養成目的

文化史学科は, 日本や世界の歴史について, 政治・経済・社会・宗教・芸術・日常生活・心性など人間活動の総体を有機的に把握する文化史的研究をとおして, 幅広い歴史的知識や思考能力を身につけて, 社会の諸分野において活躍する人物を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

文化史基礎演習(1)	2
文化史基礎演習(2)	2
文化史学概論(1)	2
文化史学概論(2)	2
日本文化史演習 I (1)	2
日本文化史演習 I (2)	2

日本社会史(2)	2	東アジア史特論(1)	2
考古学概論(1)	2	東アジア史特論(2)	2
考古学概論(2)	2	東アジア史特論(3)	2
民俗学(1)	2	東アジア史特論(4)	2
民俗学(2)	2	東南・南アジア史特論(1)	2
古文書学(1)	2	東南・南アジア史特論(2)	2
古文書学(2)	2	東洋文化史演習(1)	2
日本地域史研究(1)	2	東洋文化史演習(2)	2
日本地域史研究(2)	2	西洋・東洋文化史実地演習	2
B 群(西洋・東洋文化史科目)		C 群(関連・展開科目)	
西洋文化史概説(1)	2	キリスト教精神史(1)	2
西洋文化史概説(2)	2	キリスト教精神史(2)	2
東洋文化史概説(1)	2	東洋美術史(1)	2
東洋文化史概説(2)	2	東洋美術史(2)	2
中東イスラーム史概説(1)	2	文化史特論(1)	2
中東イスラーム史概説(2)	2	文化史特論(2)	2
西洋思想史(1)	2	文化史特論(3)	2
西洋思想史(2)	2	文化史特論(4)	2
西洋社会史(1)	2	文化史特論(5)	2
西洋社会史(2)	2	文化史特論(6)	2
西洋古代史(1)	2	文化史特論(7)	2
西洋古代史(2)	2	文化史特論(8)	2
西洋中世史(1)	2	文化史演習 C(1)	2
西洋中世史(2)	2	文化史演習 C(2)	2
西洋近代史(1)	2	演習 C(1)	2
西洋近代史(2)	2	演習 C(2)	2
アメリカ史(1)	2	考古学実習(1)	2
アメリカ史(2)	2	考古学実習(2)	2
中東イスラーム史特論(1)	2	博物館概論	2
中東イスラーム史特論(2)	2	博物館経営論	2
中東イスラーム史特論(3)	2	博物館資料論	2
中東イスラーム史特論(4)	2	博物館情報メディア論	2

博物館教育論	2	ら 28 単位以上, 更に A・B・C 群及び他学部, 他学科の	
博物館資料保存論	2	歴史関係科目より 12 単位以上, 選択科目 I 合計 40 単位	
博物館展示論	2	以上を履修すること。	
人文地理学(1)	2	西洋・東洋文化史コースは, B 群から 16 単位以上, D	
人文地理学(2)	2	群から 8 単位以上, 更に A・B・C 群及び他学部, 他学	
地理学総論(1)	2	科の歴史関係科目より 16 単位以上, 選択科目 I 合計 40	
地理学総論(2)	2	単位以上を履修すること。	
地誌学	2	○選択科目 II	
英書講読 A(1)	2	教職概論	2
英書講読 A(2)	2	教育原理	2
英書講読 A(1)・(2)は日本文化史コースのみ履修でき		発達と学習の心理学	2
る。		教育制度と学校経営	2
D 群(西洋・東洋文化史外国書講読)		学校教育社会学	2
外国書講読 [英] (1)	2	人権教育論	2
外国書講読 [英] (2)	2	教育課程論	2
外国書講読 [英] (3)	2	社会科・地理歴史科教育法	2
外国書講読 [英] (4)	2	社会科・公民科教育法	2
外国書講読 [独] (1)	2	社会科教育法 1	2
外国書講読 [独] (2)	2	社会科教育法 2	2
外国書講読 [独] (3)	2	地理歴史科教育法	2
外国書講読 [独] (4)	2	公民科教育法	2
外国書講読 [仏] (1)	2	道徳教育の理論と実践	2
外国書講読 [仏] (2)	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読 [仏] (3)	2	教育方法と ICT 活用の理論と実践	2
外国書講読 [仏] (4)	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読 [漢] (1)	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読 [漢] (2)	2	教育実習指導	1
外国書講読 [漢] (3)	2	教育実習 A	2
外国書講読 [漢] (4)	2	教育実習 B	2
D 群の外国書講読は西洋・東洋文化史コースのみ履修		教育実習 C	4
できる。		教職実践演習(中・高)	2
日本文化史コースは, A 群 16 単位を含み A・B 群か		スクールインターンシップ	2

学校教育文化論(1)	2	イタリア語応用1(文化史)	1
学校教育文化論(2)	2	イタリア語応用2(文化史)	1
生涯教育計画論	2	イタリア語応用3(文化史)	1
多文化共生社会と生涯学習	2	イタリア語応用4(文化史)	1
学校教育図書館論	2	選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、学科が定める科目から履修する。	
読書と豊かな人間性	2		
生涯学習概論	2		
図書館情報学概論	2		
図書館情報技術論	2	外国語教育科目は、英語から8単位履修すること。更に日本文化史コースはドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語から1外国語を選択し8単位以上を履修すること。西洋・東洋文化史コースはドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、および上記のイタリア語(文化史)から1外国語を選択し8単位以上を履修すること。	
情報資源組織論 I	2		
情報資源組織論 II	2		
学術情報利用教育論	2		
図書・図書館史	2		
学校図書館サービス論	2		
日本の憲法	2		
社会学概論	4		
経済原論	4		
哲学概論(1)	2		
哲学概論(2)	2	以上、必修科目36単位(卒業論文12単位を含む)、選択科目Ⅰ40単位以上、選択科目Ⅱ(外国語科目)16単位以上、合計124単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から20単位以上(上限30単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱの単位として算入する。	
倫理学概論(1)	2		
倫理学概論(2)	2		
心理学概論(1)	2		
心理学概論(2)	2	上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。	
東洋哲学思想史(1)	2		
東洋哲学思想史(2)	2		
東洋倫理思想史(1)	2		
東洋倫理思想史(2)	2	○外国人留学生科目	
パーソナリティ心理学(感情・人格心理学Ⅱ)	2	外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。	
〈外国語教育科目〉			
イタリア語(文化史)		外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語1(オーラル・コミュニケーションAⅠ・Ⅱ)、日本	
イタリア語入門Ⅰ(文化史)	2		
イタリア語入門Ⅱ(文化史)	2		

語1(オーラル・コミュニケーションB I～V), 日本語1(文法I～V), 日本語2(アカデミック・ライティングIII～V), 日本語2(オーラル・コミュニケーションA I・II), 日本語2(オーラル・コミュニケーションB I～V), 日本語2(文法I～V), ビジネス日本語A, ビジネス日本語Bを除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目IIの単位に算入する。なお、日本語1, 日本語2, ビジネス日本語C, ビジネス日本語Dの単位は選択科目IIの外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
児童サービス論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4
教職コンピュータ基礎	2
博物館実習 I	2
博物館実習 II	1

自由科目は卒業単位に算入しない。

国文学科

人材養成目的

国文学科は、古代から現代に至る幅広い時代の知の結晶である日本文学と日本語について、実証的かつ理論的に探求し、日本文化についての理解を深めることをとおして、精緻な読解力、卓越した自己表現力、知識や情報の創造的な運用能力を備えた、世界と真に対話できる総合的な人間力を身につけて、教育界、マスコミ・出版界をはじめとする、広範な分野で社会に貢献し、国際化にも対応できる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
日本文学基礎演習(1)	2
日本文学基礎演習(2)	2
日本文学研究演習(1)	2
日本文学研究演習(2)	2
演習 I (1)	2
演習 I (2)	2
演習 II (1)	2
演習 II (2)	2
卒業論文	12
○選択科目 I	
A 群(講読科目)	
日本文学講読(上代A)	2
日本文学講読(上代B)	2
日本文学講読(上代C)	2
日本文学講読(上代D)	2
日本文学講読(中古A)	2
日本文学講読(中古B)	2
日本文学講読(中古C)	2
日本文学講読(中古D)	2
日本文学講読(中世A)	2

日本文学講読(中世B)	2	日本文学特殊講義(中世D)	2
日本文学講読(中世C)	2	日本文学特殊講義(近世A)	2
日本文学講読(中世D)	2	日本文学特殊講義(近世B)	2
日本文学講読(近世A)	2	日本文学特殊講義(近世C)	2
日本文学講読(近世B)	2	日本文学特殊講義(近世D)	2
日本文学講読(近世C)	2	日本文学特殊講義(近現代A)	2
日本文学講読(近世D)	2	日本文学特殊講義(近現代B)	2
日本文学講読(近現代A)	2	日本文学特殊講義(近現代C)	2
日本文学講読(近現代B)	2	日本文学特殊講義(近現代D)	2
日本文学講読(近現代C)	2	日本文学特殊講義(総合A)	2
日本文学講読(近現代D)	2	日本文学特殊講義(総合B)	2
日本文学講読(広域A)	2	日本文学特殊講義(総合C)	2
日本文学講読(広域B)	2	日本文学特殊講義(総合D)	2
日本文学講読(広域C)	2	日本語学特殊講義(A)	2
日本文学講読(広域D)	2	日本語学特殊講義(B)	2
日本語学講読(A)	2	日本語学特殊講義(C)	2
日本語学講読(B)	2	日本語学特殊講義(D)	2
日本語学講読(C)	2	B群から10単位以上履修すること。	
日本語学講読(D)	2	C群(基礎・教職系科目)	
A群から14単位以上履修すること。		日本文学概論(1)	2
B群(特殊講義科目)		日本文学概論(2)	2
日本文学特殊講義(上代A)	2	日本文学史(1)	2
日本文学特殊講義(上代B)	2	日本文学史(2)	2
日本文学特殊講義(上代C)	2	日本語学概論(1)	2
日本文学特殊講義(上代D)	2	日本語学概論(2)	2
日本文学特殊講義(中古A)	2	日本語史(1)	2
日本文学特殊講義(中古B)	2	日本語史(2)	2
日本文学特殊講義(中古C)	2	日本語文法(1)	2
日本文学特殊講義(中古D)	2	日本語文法(2)	2
日本文学特殊講義(中世A)	2	漢文(1)	2
日本文学特殊講義(中世B)	2	漢文(2)	2
日本文学特殊講義(中世C)	2	言語学概論(1)	2

言語学概論(2)	2	多文化共生社会と生涯学習	2
書道(1)	2	学校教育図書館論	2
書道(2)	2	読書と豊かな人間性	2
漢文学概論(1)	2	生涯学習概論	2
漢文学概論(2)	2	図書館情報学概論	2
国語科教育法 A1	2	図書館情報技術論	2
国語科教育法 A2	2	情報資源組織論 I	2
国語科教育法 B	2	情報資源組織論 II	2
国語科教育法 C	2	学術情報利用教育論	2
教育実習指導	1	図書・図書館史	2
教育実習 A	2	学校図書館サービス論	2
教育実習 B	2	選択科目Ⅱは、上記の科目のほか、全学共通教養教育	
教育実習 C	4	科目、他学部・他学科科目、同志社女子大学単位互換科	
教職実践演習(中・高)	2	目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ	
スクールインターンシップ	2	ンゲン大学 I E S 科目のうち、学科が定める科目から履	
C群から12単位以上履修すること。		修する。	

○選択科目Ⅱ

教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2
教育課程論	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2

全学共通教養教育科目(保健体育科目)4単位以上履修すること。

全学共通教養教育科目(複合領域科目)は8単位を上限として卒業単位に算入する。

全学共通教養教育科目のドイツ文学、フランス文学、中国文学、スペイン文学、ラテンアメリカ文学、ロシア文学は4単位を上限として卒業単位に算入する。比較言語文化論、地域言語文化論、メタ言語文化論は4単位を上限として卒業単位に算入する。

○選択科目Ⅲ

選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学科が定める科目から履修する。

選択科目Ⅲから8単位以上履修すること。ただし、英語科目から4単位を履修すること。

各外国語の会話科目は2単位を上限に卒業単位に算入する。

以上、必修科目 28 単位(卒業論文 12 単位を含む)、選択科目 I 36 単位以上、保健体育科目 4 単位以上、選択科目 III 8 単位以上(英語 4 単位以上を含む)、さらに選択科目 I・II・III から 48 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。なお、国際専修コースについては、別途定めた国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上(上限 30 単位)を履修すること。履修した単位は、選択科目 II の単位として算入する。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語 1(オーラル・コミュニケーション A I・II)、日本語 1(オーラル・コミュニケーション B I～Ⅴ)、日本語 1(文法 I～Ⅴ)、日本語 2(アカデミック・ライティングⅢ～Ⅴ)、日本語 2(オーラル・コミュニケーション A I・II)、日本語 2(オーラル・コミュニケーション B I～Ⅴ)、日本語 2(文法 I～Ⅴ)、ビジネス日本語 A、ビジネス日本語 B を除く科目から選択履修すること。

履修した単位は選択科目 II の単位に算入する。なお、日本語 1、日本語 2、ビジネス日本語 C、ビジネス日本語 D の単位は選択科目 III の外国語教育科目の単位に代えることができる。

○自由科目

特別ニーズ教育論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2

図書館制度・経営論	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
児童サービス論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館情報学特論	2
図書館情報資源特論	2
図書館演習	4
教職コンピュータ基礎	2

自由科目は卒業単位に算入しない。

○副専攻履修者用科目 (国文学科生は履修不可)

演習 I (1)	2
演習 I (2)	2

社 会 学 部

人材養成目的

社会学部は家族、職場、地域、国際社会に生起する生活、労働、コミュニケーション、人間形成の諸課題について、少人数教育を核とした議論と発表、文献研究、フィールドワーク、計量調査の学習をとおして、客観的で良識に基づく判断力、他者に共感し協力できる感受性、日々の努力を怠らない自制心、難題に向かう気概を身に付けて、企業、行政、マスコミ、福祉等の分野でなくてはならない人材を養成することを目的とする。

社 会 学 科

人材養成目的

社会学科は、家族・地域・組織・階層・移動・社会意識・異文化・国際社会・ネットワークについて、社会学や人類学の理論に広く深く学びつつ、計量調査やフィールドワークといった社会調査の方法論と実習を核とするカリキュラムをとおして、さまざまな社会的現実に関する情報の収集と分析の能力を身に付けて、行政や民間の各機関における立案・調査・研究といった部門等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
○必修科目		仕事の社会学	2
		災害社会学	2
		比較社会学	4
		社会調査実習 I	2
		社会調査実習 II	2
		社会統計学 I	2
		社会統計学 II	2
		社会学説史	2
		社会問題	2
		文化社会学	4
		ジェンダーの社会学	4
ファーストイヤーセミナー	2	現代社会論	2
社会学概論	4	社会学特講 I	4
社会調査入門	2	社会学特講 II	4
社会学理論	4	現代社会学特論 I	2
社会学演習 I	2	現代社会学特論 II	2
社会学演習 II (1)	2	現代社会学特論 III	2
社会学演習 II (2)	2	情報行動論	2
社会学演習 III (1)	2	産業社会学(1)	2
社会学演習 III (2)	2	産業社会学(2)	2
卒業論文	8	外国書講読(ドイツ語) I	2
○選択科目 I		外国書講読(ドイツ語) II	2
専門科目群		外国書講読(フランス語) I	2
エリアスタディ概論	2	外国書講読(フランス語) II	2
社会学研究法 A	2	外国書講読(中国語) I	2
社会学研究法 B	2	外国書講読(中国語) II	2
家族社会学	4	外国書講読(韓国語) I	2
地域社会学	4	外国書講読(韓国語) II	2
国際社会学	4	学部共通科目群	
社会心理学	4	社会問題論	2
社会人類学	4	マス・コミュニケーション論	2
教育社会学	2	現代社会と労働	2
情報社会学	2		

多文化共生社会と教育文化	2	学校教育図書館論	2
選択科目Ⅰは、専門科目群から40単位以上、学部 共通科目群から4単位以上を履修すること。なお、専門 科目群からは社会学研究法Aまたは社会学研究法Bのい ずれか2単位を履修すること。		読書と豊かな人間性	2
		生涯学習概論	2
		図書館情報学概論	2
		図書館情報技術論	2
○選択科目Ⅱ		情報資源組織論Ⅰ	2
教職概論	2	情報資源組織論Ⅱ	2
教育原理	2	学術情報利用教育論	2
教育課程論	2	図書・図書館史	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(1)	2
教育制度と学校経営	2	哲学概論(2)	2
学校教育社会学	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	人文地理学(1)	2
社会科教育法1	2	人文地理学(2)	2
社会科教育法2	2	地理学総論(1)	2
公民科教育法	2	地理学総論(2)	2
道徳教育の理論と実践	2	地誌学	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	日本文化史概説(1)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	日本文化史概説(2)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	東洋文化史概説(1)	2
教育相談の理論と方法	2	東洋文化史概説(2)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	西洋文化史概説(2)	2
教育実習A	2	日本社会史(1)	2
教育実習B	2	日本社会史(2)	2
教育実習C	4	考古学概論(1)	2
人権教育論	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(2)	2
生涯教育計画論	2	アメリカ史(1)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	アメリカ史(2)	2

近代ヨーロッパ政治史	2
現代ヨーロッパ政治史	2
経済原論	4
日本経済史 1	2
日本経済史 2	2
世界経済史 1	2
世界経済史 2	2
日本の憲法	2
心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2

選択科目Ⅱは上記科目、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、日本語・日本文化教育科目、他学部・他学科科目、テュービンゲン大学 I E S 科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目から履修することができる。

○選択科目Ⅲ

Contemporary Japanese Culture and Society	4
Principles of Sociology	4

選択科目Ⅲは上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目から、英語 12 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 16 単位以上を履修すること。ただし、イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX)、日

本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX)、ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目 30 単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 94 単位以上(選択科目Ⅰ 44 単位以上、選択科目Ⅲ 16 単位以上を含む)、合計 124 単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8 単位を上限として選択科目Ⅰ B 群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2

学習指導と学校図書館	2	社会福祉学科	
情報メディアの活用	2	人材養成目的	
学校図書館サービス論	2	社会福祉学科は、現代社会における様々な生活問題に	
特別ニーズ教育論	2	焦点をあてて、個人や家族への援助活動を中心とするミ	
スクールインターンシップ	2	クロレベルから、地域を対象とするメゾレベル、制度や政	
科学技術概論 I	2	策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルからの	
科学技術概論 II	2	思想的・理論的かつ実践的な探求を行い、社会福祉専門	
アウトリーチ実習	2	職（ソーシャルワーカー）に必要な価値・知識・技術を	
サイエンスライティング	2	身に付け、様々な社会福祉の分野で活躍し、21世紀福	
サイエンス・ナウ 1	2	祉社会に貢献する人材を養成することを目的とする。	
サイエンス・ナウ 2	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 3	2	○必修科目	
サイエンス・ナウ 4	2	ファーストイヤーセミナー	2
サイエンス・ナウ 5	2	社会問題論	2
サイエンス・ナウ 6	2	福祉と人権	2
サイエンス・ナウ 7	2	社会福祉入門	2
サイエンスとインテリジェンス	2	社会福祉学基礎演習 I	2
ビジネスワークショップ	2	社会福祉学基礎演習 II	2
メディカルワークショップ	2	社会福祉学基礎演習 III	2
取材・インタビュー実践講座	2	社会福祉学専門演習 I	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2	社会福祉学専門演習 II	2
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学		社会福祉学専門演習 III	2
技術概論 I，科学技術概論 II，アウトリーチ実習，サイ		社会福祉学専門演習 IV	2
エンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエン		ソーシャルワーク基礎実習 I	2
ス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ		ソーシャルワーク基礎実習 II	2
4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエン		卒業論文	8
ス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネス		○選択科目 I	
ワークショップ，メディカルワークショップ，取材・イ		A 群	
ンタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショッ		社会福祉の歴史と思想	2
プの中から 12 単位以上を履修した場合は，選択科目 II		国際社会福祉	4
の単位に算入する。		社会保障論	4
		社会福祉政策	2

社会福祉施設経営論	2	医療福祉論	2
権利擁護と成年後見	2	司法福祉論	2
B 群		D 群	
ソーシャルワーク論 I	4	心理学と心理的支援	2
ソーシャルワーク論 II	4	社会学と社会システム	2
ソーシャルワーク論 III	4	ジェンダーと社会福祉	2
ソーシャルワーク演習 I	4	医学概論	2
ソーシャルワーク演習 II	4	介護概論	2
ソーシャルワーク基礎実習 III	2	精神医学と精神医療	4
ソーシャルワーク専門実習 I	3	精神障害リハビリテーション論	2
ソーシャルワーク専門実習 II	3	精神保健福祉制度論	2
ソーシャルワーク専門実習 III	2	現代の精神保健の課題と支援	4
ソーシャルワーク専門実習 IV	2	社会統計学 I	2
精神保健福祉の原理	4	社会統計学 II	2
精神保健福祉ソーシャルワーク論 I	2	社会福祉調査	2
精神保健福祉ソーシャルワーク論 II	2	社会福祉特講 I	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習 I	2	社会福祉特講 II	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習 II	2	社会福祉特講 III	2
精神保健福祉ソーシャルワーク演習 III	2	外国書講読(英語) I	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習 I	2	外国書講読(英語) II	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習 II	2	外国書講読(ドイツ語) I	2
精神保健福祉ソーシャルワーク実習 III	2	外国書講読(ドイツ語) II	2
社会問題実習	4	外国書講読(フランス語) I	2
国際社会福祉実習	4	外国書講読(フランス語) II	2
C 群		外国書講読(中国語) I	2
NPO・ボランティア活動論	2	外国書講読(中国語) II	2
児童・家庭福祉論	2	外国書講読(コリア語) I	2
障害者福祉論	2	外国書講読(コリア語) II	2
高齢者福祉論	2	学部共通科目群	
地域福祉論	4	現代社会論	2
家族福祉論	2	マス・コミュニケーション論	2
公的扶助	2	現代社会と労働	2

多文化共生社会と教育文化	2	生涯教育計画論	2
選択科目Ⅰは、A～D群から各4単位以上を含めて24単位以上、学部共通科目群から4単位以上を履修すること。		多文化共生社会と生涯学習	2
		学校教育図書館論	2
		読書と豊かな人間性	2
○選択科目Ⅱ		生涯学習概論	2
社会学概論	4	図書館情報学概論	2
学校教育社会学	2	図書館情報技術論	2
福祉科教育法 A	2	情報資源組織論Ⅰ	2
福祉科教育法 B	2	情報資源組織論Ⅱ	2
教職概論	2	学術情報利用教育論	2
教育原理	2	図書・図書館史	2
教育課程論	2	哲学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2
社会科・公民科教育法	2	人文地理学(1)	2
社会科教育法 1	2	人文地理学(2)	2
社会科教育法 2	2	地理学総論(1)	2
公民科教育法	2	地理学総論(2)	2
道德教育の理論と実践	2	地誌学	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	日本文化史概説(1)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	日本文化史概説(2)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	東洋文化史概説(1)	2
教育相談の理論と方法	2	東洋文化史概説(2)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋文化史概説(1)	2
教育実習指導	1	西洋文化史概説(2)	2
教育実習 A	2	日本社会史(1)	2
教育実習 B	2	日本社会史(2)	2
教育実習 C	4	考古学概論(1)	2
人権教育論	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(1)	2	西洋社会史(1)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(2)	2

アメリカ史(1)	2	本語 2(アカデミック・リーディング AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ), ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を履修した場合は, 選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。
アメリカ史(2)	2	
近代ヨーロッパ政治史	2	
現代ヨーロッパ政治史	2	
経済原論	4	
日本経済史 1	2	
日本経済史 2	2	
世界経済史 1	2	
世界経済史 2	2	
日本の憲法	2	
心理学概論(1)	2	以上, 必修科目 34 単位, 選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 90 単位以上(選択科目Ⅰ 28 単位以上, 選択科目Ⅱ 12 単位以上, 選択科目Ⅲ 12 単位以上を含む), 合計 124 単位以上を履修すること。 なお, 国際専修コースについては, 国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は, 選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし, 専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は, 8 単位を上限として選択科目Ⅰ D 群の単位に算入することができる。 上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。
心理学概論(2)	2	
選択科目Ⅱから 12 単位以上履修すること。		
なお, 選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目, 保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目からも履修することができる。		
○選択科目Ⅲ		
選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目から, 英語 8 単位, 英語以外の外国語 4 単位, 計 12 単位以上を履修すること。ただし, イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。		
○日本語・日本文化教育科目		
日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1(アカデミック・リーディング AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ), 日		
教職コンピュータ基礎	2	
図書館情報サービス論Ⅰ	2	
図書館情報サービス論Ⅱ	2	
図書館情報資源概論	2	
図書館情報資源特論	2	
図書館制度・経営論	2	
児童サービス論	2	
図書館情報学特論	2	
情報サービス演習Ⅰ	2	
情報サービス演習Ⅱ	2	
情報資源組織演習Ⅰ	2	
情報資源組織演習Ⅱ	2	
図書館演習	4	

学校図書館メディアの構成	2	メディア学科	
学習指導と学校図書館	2	人材養成目的	
情報メディアの活用	2	メディア学科は、「メディアとジャーナリズム」「情報と社会」「コミュニケーションと文化」について、1年次からの少人数ゼミと多様な講義などをおして、メディアの社会的機能を知り、報道機関・ネットなどからの情報を的確に読み解く能力や、一市民として自ら情報をどう発信するかなどの知識を身に付けて、マスコミ業界、専門研究職、情報広告関連会社を含む一般企業などにおいて活躍する人材を養成することを目的とする。	
学校図書館サービス論	2		
特別ニーズ教育論	2		
スクールインターンシップ	2		
科学技術概論 I	2		
科学技術概論 II	2		
アウトリーチ実習	2		
サイエンスライティング	2		
サイエンス・ナウ 1	2	科 目	履修単位
サイエンス・ナウ 2	2	○必修科目	
サイエンス・ナウ 3	2	ファーストイヤーセミナー	2
サイエンス・ナウ 4	2	メディア学実習	2
サイエンス・ナウ 5	2	メディア学基礎演習 I	2
サイエンス・ナウ 6	2	メディア学基礎演習 II	2
サイエンス・ナウ 7	2	メディア学演習 I	2
サイエンスとインテリジェンス	2	メディア学演習 II	2
ビジネスワークショップ	2	メディア学演習 III	2
メディカルワークショップ	2	メディア学演習 IV	2
取材・インタビュー実践講座	2	卒業論文	8
未知型探索ビジネスワークショップ	2	○選択科目 I	
自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論 I, 科学技術概論 II, アウトリーチ実習, サイエンスライティング, サイエンス・ナウ 1, サイエンス・ナウ 2, サイエンス・ナウ 3, サイエンス・ナウ 4, サイエンス・ナウ 5, サイエンス・ナウ 6, サイエンス・ナウ 7, サイエンスとインテリジェンス, ビジネスワークショップ, メディカルワークショップ, 取材・インタビュー実践講座, 未知型探索ビジネスワークショップの中から 12 単位以上を履修した場合は、選択科目 II の単位に算入する。		A 群	
		ジャーナリズム史	2
		メディア史	2
		メディア・リテラシー概論	2
		比較メディア論	2
		ジャーナリズム論 I	2
		ジャーナリズム論 II	2
		B 群	
		ジェンダーとメディア	2
		情報行動論	2

環境情報学	2	外国書講読(韓国語) I	2
映像情報学	2	外国書講読(韓国語) II	2
メディア社会論	2	学部共通科目群	
広報情報論	2	現代社会論	2
世論と社会	2	社会問題論	2
メディア産業論	2	マス・コミュニケーション論	2
メディア法制倫理	2	現代社会と労働	2
C 群		多文化共生社会と教育文化	2
コミュニケーション論	2	選択科目 I は、A～D群から 36 単位以上、学部共通	
メディア文化史	2	科目群から 4 単位以上を履修すること。	
メディア心理学 I	2	○選択科目 II	
メディア心理学 II	2	学校教育社会学	2
現代文化論	2	教職概論	2
広告論	2	教育原理	2
デジタルメディア論	2	教育課程論	2
国際コミュニケーション論	2	発達と学習の心理学	2
放送論	2	教育制度と学校経営	2
メディア学社会調査法 I	2	社会科・地理歴史科教育法	2
メディア学社会調査法 II	2	社会科・公民科教育法	2
D 群		社会科教育法 1	2
社会統計学 I	2	社会科教育法 2	2
社会統計学 II	2	公民科教育法	2
社会学概論	4	道徳教育の理論と実践	2
社会思想史	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読(英語) I	2	教育方法と ICT 活用の理論と実践	2
外国書講読(英語) II	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) I	2	教育相談の理論と方法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	教職実践演習(中・高)	2
外国書講読(フランス語) I	2	教育実習指導	1
外国書講読(フランス語) II	2	教育実習 A	2
外国書講読(中国語) I	2	教育実習 B	2
外国書講読(中国語) II	2	教育実習 C	4

人権教育論	2	考古学概論(1)	2
学校教育文化論(1)	2	考古学概論(2)	2
学校教育文化論(2)	2	西洋社会史(1)	2
生涯教育計画論	2	西洋社会史(2)	2
多文化共生社会と生涯学習	2	アメリカ史(1)	2
学校教育図書館論	2	アメリカ史(2)	2
読書と豊かな人間性	2	近代ヨーロッパ政治史	2
生涯学習概論	2	現代ヨーロッパ政治史	2
図書館情報学概論	2	経済原論	4
図書館情報技術論	2	日本経済史 1	2
情報資源組織論 I	2	日本経済史 2	2
情報資源組織論 II	2	世界経済史 1	2
学術情報利用教育論	2	世界経済史 2	2
図書・図書館史	2	日本の憲法	2
哲学概論(1)	2	心理学概論(1)	2
哲学概論(2)	2	心理学概論(2)	2
倫理学概論(1)	2	選択科目Ⅱから24単位以上履修すること。	
倫理学概論(2)	2	なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科	
人文地理学(1)	2	目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ	
人文地理学(2)	2	ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自	
地理学総論(1)	2	然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,	
地理学総論(2)	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他	
地誌学	2	学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子	
エリアスタディ概論	2	大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換	
日本文化史概説(1)	2	科目からも履修することができる。	
日本文化史概説(2)	2	○選択科目Ⅲ	
東洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅲは全学共通教養教育科目の外国語教育科目	
東洋文化史概説(2)	2	から, 英語8単位, 英語以外の外国語8単位, 計16単位	
西洋文化史概説(1)	2	以上を履修すること。ただし, イタリア語は選択科目Ⅱ	
西洋文化史概説(2)	2	の履修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2単位を	
日本社会史(1)	2	上限として卒業必要単位に算入する。	
日本社会史(2)	2	○日本語・日本文化教育科目	

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。

以上、必修科目24単位、選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから100単位以上(選択科目Ⅰ40単位以上、選択科目Ⅱ24単位以上、選択科目Ⅲ16単位以上を含む)、合計124単位以上を履修すること。

なお、国際専修コースについては、国際教育インスティテュート科目から20単位以上を履修すること。履修した単位は、選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし、専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8単位を上限として選択科目ⅠD群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論Ⅰ	2
図書館情報サービス論Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習Ⅰ	2

情報サービス演習Ⅱ	2
情報資源組織演習Ⅰ	2
情報資源組織演習Ⅱ	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論Ⅰ	2
科学技術概論Ⅱ	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ1	2
サイエンス・ナウ2	2
サイエンス・ナウ3	2
サイエンス・ナウ4	2
サイエンス・ナウ5	2
サイエンス・ナウ6	2
サイエンス・ナウ7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ、科学技術概論Ⅱ、アウトリーチ実習、サイエンスライティング、サイエンス・ナウ1、サイエンス・ナウ2、サイエンス・ナウ3、サイエンス・ナウ4、サイエンス・ナウ5、サイエンス・ナウ6、サイエンス・ナウ7、サイエンスとインテリジェンス、ビジネス

ワークショップ，メディカルワークショップ，取材・インタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップの中から12単位以上を履修した場合は，選択科目Ⅱの単位に算入する。

産業関係学科

人材養成目的

産業関係学科は，雇用と労働に関する実際的問題の分析とその解決方法の探求について，学際的な専任教員体制に基づく，現場に根ざした実証的・実践的な教育・研究を遂行することをとおして，「答えがまだ見つからない問題」に対処するために課題発見力，読解力，思考力，文書作成力，ヒアリング力，プレゼンテーション力を身に付けて，企業，政府・自治体，学校，労働組合等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

ファーストイヤーセミナー	2
現代社会と労働	2
産業関係基礎論	2
産業関係文献演習Ⅰ	2
産業関係文献演習Ⅱ	2
産業関係学基礎論文	2
産業関係論(1)	2
産業関係論(2)	2
基礎経済学(1)	2
基礎経済学(2)	2
産業関係学演習Ⅰ	2
産業関係学演習Ⅱ	2
産業関係学演習Ⅲ	2
産業関係学演習Ⅳ	2
卒業論文	4

○選択科目Ⅰ

学科専門科目群

労働問題(1)	2
労働問題(2)	2
産業社会学(1)	2
産業社会学(2)	2
社会政策(1)	2
社会政策(2)	2
産業関係論特講 A	2
産業関係論特講 B	2
産業関係論特講 C	2
産業調査統計論(1)	2
産業調査統計論(2)	2
社会保障法	2
産業技術論(1)	2
産業技術論(2)	2
労働科学論(1)	2
労働科学論(2)	2
労務管理論(1)	2
労務管理論(2)	2
労働市場論(1)	2
労働市場論(2)	2
比較産業関係論(1)	2
比較産業関係論(2)	2
産業関係実習Ⅰ	2
産業関係実習Ⅱ	2
産業調査実習Ⅰ	2
産業調査実習Ⅱ	2
外国書基礎講読(英語)Ⅰ	2
外国書基礎講読(英語)Ⅱ	2
外国書講読(英語)Ⅰ	2
外国書講読(英語)Ⅱ	2

外国書講読(ドイツ語) I	2	社会科・公民科教育法	2
外国書講読(ドイツ語) II	2	社会科教育法 1	2
外国書講読(フランス語) I	2	社会科教育法 2	2
外国書講読(フランス語) II	2	公民科教育法	2
外国書講読(中国語) I	2	道德教育の理論と実践	2
外国書講読(中国語) II	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
外国書講読(韓国語) I	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
外国書講読(韓国語) II	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
組織行動学(1)	2	教育相談の理論と方法	2
組織行動学(2)	2	教職実践演習(中・高)	2
労働法(1)	2	教育実習指導	1
労働法(2)	2	教育実習 A	2
グローバル人的資源管理論(1)	2	教育実習 B	2
グローバル人的資源管理論(2)	2	教育実習 C	4
実践キャリア演習	2	人権教育論	2
学部共通科目群		学校教育文化論(1)	2
現代社会論	2	学校教育文化論(2)	2
社会問題論	2	生涯教育計画論	2
マス・コミュニケーション論	2	多文化共生社会と生涯学習	2
多文化共生社会と教育文化	2	学校教育図書館論	2
選択科目 I は、学科専門科目群及び全学共通教養教育		読書と豊かな人間性	2
科目の「働くということ」から 34 単位以上、学部共通		生涯学習概論	2
科目群から 4 単位以上を履修すること。		図書館情報学概論	2
○選択科目 II		図書館情報技術論	2
社会学概論	4	情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
教職概論	2	学術情報利用教育論	2
教育原理	2	図書・図書館史	2
教育課程論	2	哲学概論(1)	2
発達と学習の心理学	2	哲学概論(2)	2
教育制度と学校経営	2	倫理学概論(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	倫理学概論(2)	2

人文地理学(1)	2	国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目, 保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他学科科目, テュービンゲン大学 I E S 科目, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目からも履修することができる。
人文地理学(2)	2	
地理学総論(1)	2	
地理学総論(2)	2	
地誌学	2	
日本文化史概説(1)	2	
日本文化史概説(2)	2	
東洋文化史概説(1)	2	
東洋文化史概説(2)	2	
西洋文化史概説(1)	2	
西洋文化史概説(2)	2	
日本社会史(1)	2	
日本社会史(2)	2	
考古学概論(1)	2	
考古学概論(2)	2	
西洋社会史(1)	2	
西洋社会史(2)	2	
アメリカ史(1)	2	
アメリカ史(2)	2	
近代ヨーロッパ政治史	2	
現代ヨーロッパ政治史	2	
経済原論	4	
日本経済史 1	2	
日本経済史 2	2	
世界経済史 1	2	
世界経済史 2	2	
日本の憲法	2	
心理学概論(1)	2	
心理学概論(2)	2	
選択科目Ⅱから 20 単位以上履修すること。		
なお, 選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目(「働くということ」を除く),		○選択科目Ⅲ Industrial Relations in English I 2 Industrial Relations in English II 2 選択科目Ⅲは上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目から, 英語 12 単位, 英語以外の外国語 8 単位, 計 20 単位以上を履修すること。ただし, イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は, 2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。 ○日本語・日本文化教育科目 日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語 1(アカデミック・リーディング AⅥ)～日本語 1(文法Ⅸ), 日本語 2(アカデミック・リーディング AⅥ)～日本語 2(文法Ⅸ), ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を履修した場合は, 選択科目Ⅲの英語以外の外国語の単位に算入する。 以上, 必修科目 32 単位, 選択科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから 92 単位以上(選択科目Ⅰ 38 単位以上, 選択科目Ⅱ 20 単位以上, 選択科目Ⅲ 20 単位以上を含む), 合計 124 単位以上を履修すること。 なお, 国際専修コースについては, 国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は, 選択科目Ⅱ又は選択科目Ⅲの英語の単位として算入する。ただし, 専門領域科目の Japanese

Society and Global Culture Concentration から履修した単位は、8 単位を上限として選択科目 I 学科専門科目群の単位に算入することができる。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論 I	2
科学技術概論 II	2
アウトリーチ実習	2
サイエンスライティング	2
サイエンス・ナウ 1	2
サイエンス・ナウ 2	2

サイエンス・ナウ 3	2
サイエンス・ナウ 4	2
サイエンス・ナウ 5	2
サイエンス・ナウ 6	2
サイエンス・ナウ 7	2
サイエンスとインテリジェンス	2
ビジネスワークショップ	2
メディカルワークショップ	2
取材・インタビュー実践講座	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論 I，科学技術概論 II，アウトリーチ実習，サイエンスライティング，サイエンス・ナウ 1，サイエンス・ナウ 2，サイエンス・ナウ 3，サイエンス・ナウ 4，サイエンス・ナウ 5，サイエンス・ナウ 6，サイエンス・ナウ 7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネスワークショップ，メディカルワークショップ，取材・インタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップの中から 12 単位以上を履修した場合は、選択科目 II の単位に算入する。

教育文化学科

人材養成目的

教育文化学科は、多文化共生社会における教育文化による人間形成に着目し、異なる文化背景を持つ人間が交わる際に生じる諸問題を学際的な方法を用いて究明し、問題解決へ至る道筋を追求する活動をつうじて、学生が異文化間の相互理解を促進する能力を養い、多様な文化の中で生活し、学び、働く人々に的確な援助と指導ができる人材の養成を目的とする。

科 目 履修単位

○コア科目

X 群		西洋教育文化論(1)	2
ファーストイヤーセミナー I	2	西洋教育文化論(2)	2
ファーストイヤーセミナー II	2	アジア教育文化論(1)	2
多文化共生社会と人間形成	2	アジア教育文化論(2)	2
基礎演習 I	2	比較教育文化論(1)	2
基礎演習 II A	2	比較教育文化論(2)	2
基礎演習 II B	2	Education and World Culture(1)	2
基礎演習 II C	2	Education and World Culture(2)	2
基礎演習 II D	2	言語教育文化論(1)	2
基礎演習 II E	2	言語教育文化論(2)	2
基礎演習 II F	2	市民教育文化論(1)	2
基礎演習 II G	2	市民教育文化論(2)	2
基礎演習 II H	2	B 群	
教育文化学演習 I	2	キリスト教と人間形成	2
教育文化学演習 II	2	ジェンダーと人間形成	2
コア科目X群から14単位を履修すること。ただし、		家族と人間形成	2
基礎演習II A～II Hから2単位を超えて履修した単位は、		Topics in Character Formation and	2
メジャー科目の単位に算入する。		Education	
Y 群		Topics in Multiculturalism and	2
教育文化学演習 III	2	Education	
教育文化学演習 IV	2	Topics in Education and Development	2
卒業論文	8	多文化共生社会と海外教育事情	2
卒業研究	4	多文化共生社会と教育思想	2
卒業論文または卒業研究のいずれかを履修しなければ		多文化共生社会と教育史	2
ならない。なお、卒業論文を履修する場合は教育文化学演		多文化共生社会と生涯学習	2
習III及びIVを履修すること。		多文化共生社会と人間形成特論(1)	2
○メジャー科目		多文化共生社会と人間形成特論(2)	2
A 群		多文化共生社会と移民教育文化(1)	2
キリスト教教育文化論(1)	2	多文化共生社会と移民教育文化(2)	2
キリスト教教育文化論(2)	2	学校教育文化論(1)	2
日本教育文化論(1)	2	学校教育文化論(2)	2
日本教育文化論(2)	2	学校教育制度論	2

生涯教育計画論	2	独書講読 I	2
教育哲学	2	独書講読 II (1)	2
教育心理学	2	独書講読 II (2)	2
教育行政学	2	仏書講読 I	2
教育人間学	2	仏書講読 II (1)	2
教育社会学	2	仏書講読 II (2)	2
C 群		漢文古文講読 I	2
体験教育実習	2	漢文古文講読 II (1)	2
異文化体験実習	2	漢文古文講読 II (2)	2
サービスマーケティング実習	2	メジャー科目は、A群 20 単位、B群 20 単位、C群 2	
I C T教育実習	2	単位、D群 4 単位を含めてA~D群から 46 単位以上(卒	
ホリスティック教育実習	2	業研究を履修する場合は 54 単位以上)を履修すること。	
冒険教育実習	2	外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目のうち、	
Field Research Practicum Kyoto	2	日本の教育の単位を履修した場合は、メジャー科目B群	
Field Research Practicum Shanghai	2	の履修単位に算入する。	
D 群		○選択科目 I	
英書講読 I A (1)	2	現代社会論	2
英書講読 I A (2)	2	社会問題論	2
英書講読 I B (1)	2	マス・コミュニケーション論	2
英書講読 I B (2)	2	現代社会と労働	2
英書講読 I C (1)	2	多文化共生社会と教育文化	2
英書講読 I C (2)	2	選択科目 I から 4 単位以上を履修すること。	
英書講読 II A (1)	2	○選択科目 II	
英書講読 II A (2)	2	社会学概論	4
英書講読 II B (1)	2	エリアスタディ概論	2
英書講読 II B (2)	2	社会人類学	4
英書講読 II C (1)	2	学校教育社会学	2
英書講読 II C (2)	2	教職概論	2
英書講読 III A (1)	2	教育原理	2
英書講読 III A (2)	2	教育課程論	2
英書講読 III B (1)	2	発達と学習の心理学	2
英書講読 III B (2)	2	教育制度と学校経営	2

社会科・地理歴史科教育法	2	日本文化史概説(1)	2
社会科・公民科教育法	2	日本文化史概説(2)	2
社会科教育法 1	2	東洋文化史概説(1)	2
社会科教育法 2	2	東洋文化史概説(2)	2
地理歴史科教育法	2	西洋文化史概説(1)	2
公民科教育法	2	西洋文化史概説(2)	2
道徳教育の理論と実践	2	日本社会史(1)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	日本社会史(2)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	考古学概論(1)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	考古学概論(2)	2
教育相談の理論と方法	2	西洋社会史(1)	2
教職実践演習(中・高)	2	西洋社会史(2)	2
教育実習指導	1	アメリカ史(1)	2
教育実習 A	2	アメリカ史(2)	2
教育実習 B	2	ジャーナリズム史	2
教育実習 C	4	メディア史	2
人権教育論	2	近代ヨーロッパ政治史	2
読書と豊かな人間性	2	現代ヨーロッパ政治史	2
生涯学習概論	2	経済原論	4
図書・図書館史	2	日本経済史 1	2
情報資源組織論 I	2	日本経済史 2	2
情報資源組織論 II	2	世界経済史 1	2
図書館情報技術論	2	世界経済史 2	2
哲学概論(1)	2	日本の憲法	2
哲学概論(2)	2	心理学概論(1)	2
倫理学概論(1)	2	心理学概論(2)	2
倫理学概論(2)	2	選択科目Ⅱから20単位以上履修すること。	
人文地理学(1)	2	なお、選択科目Ⅱは全学共通教養教育科目(同志社科	
人文地理学(2)	2	目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ	
地理学総論(1)	2	ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自	
地理学総論(2)	2	然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目,	
地誌学	2	保健体育科目), 日本語・日本文化教育科目, 他学部・他	

学科科目，テュービンゲン大学 I E S 科目，同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目からも履修することができる。

○選択科目Ⅲ

全学共通教養教育科目の外国語教育科目から 8 単位以上履修すること。ただし，イタリア語は選択科目Ⅱの履修単位に算入する。各外国語の会話科目は，2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は，外国人留学生に限る。履修した単位は選択科目Ⅱの単位として算入する。なお，日本語・日本文化教育科目のうち，日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX)，日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX)，ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を履修した場合は，選択科目Ⅲの単位に算入する。

以上，コア科目 26 単位(卒業研究を履修する場合は 18 単位)に加えて，メジャー科目 46 単位以上(卒業研究を履修する場合は 54 単位以上)，選択科目 I 4 単位以上，選択科目Ⅱ 20 単位以上，選択科目Ⅲ 8 単位以上を含めてメジャー科目及び選択科目 I ～Ⅲから合計 98 単位以上(卒業研究を履修する場合は 106 単位以上)，合計 124 単位以上を履修すること。

なお，国際専修コースについては，国際教育インスティテュート科目から 20 単位以上を履修すること。履修した単位は，選択科目Ⅲの卒業に必要な単位数を満たしていない場合は選択科目Ⅲの単位として，選択科目Ⅲの卒業に必要な単位数を満たしている場合はメジャー科目 D 群の単位として算入され，メジャー科目 D 群の卒業に必要な単位数を満たしている場合は選択科目Ⅱの単位として算入する。ただし，専門領域科目の Japanese Society and Global Culture Concentration から履修

した単位は，メジャー科目 B 群の卒業に必要な単位数を満たしていない場合は，8 単位を上限としてメジャー科目 B 群の単位に算入する。

上記にかかわらず，国際教養コースについては，国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
図書館情報サービス論 I	2
図書館情報サービス論 II	2
図書館情報資源概論	2
図書館情報資源特論	2
図書館制度・経営論	2
児童サービス論	2
図書館情報学特論	2
情報サービス演習 I	2
情報サービス演習 II	2
情報資源組織演習 I	2
情報資源組織演習 II	2
図書館演習	4
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
情報メディアの活用	2
学術情報利用教育論	2
学校教育図書館論	2
図書館情報学概論	2
学校図書館サービス論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
科学技術概論 I	2
科学技術概論 II	2
アウトリーチ実習	2

サイエンスライティング	2	の研究職などにおいて活躍する人材を育成することを
サイエンス・ナウ 1	2	目的とする。
サイエンス・ナウ 2	2	
サイエンス・ナウ 3	2	
サイエンス・ナウ 4	2	
サイエンス・ナウ 5	2	
サイエンス・ナウ 6	2	
サイエンス・ナウ 7	2	
サイエンスとインテリジェンス	2	
ビジネスワークショップ	2	
メディカルワークショップ	2	
取材・インタビュー実践講座	2	
未知型探索ビジネスワークショップ	2	

自由科目は卒業必要単位に算入しない。ただし、科学技術概論Ⅰ，科学技術概論Ⅱ，アウトリーチ実習，サイエンスライティング，サイエンス・ナウ1，サイエンス・ナウ2，サイエンス・ナウ3，サイエンス・ナウ4，サイエンス・ナウ5，サイエンス・ナウ6，サイエンス・ナウ7，サイエンスとインテリジェンス，ビジネスワークショップ，メディカルワークショップ，取材・インタビュー実践講座，未知型探索ビジネスワークショップの中から12単位以上を履修した場合は，選択科目Ⅱの単位に算入する。

法 学 部

人材養成目的

法学部は，法学及び政治学について，体系的・専門的な知識の伝達と実践的・双方向的な教育をとおして，法学・政治学に関する幅広く深い専門知識を身に付けて，法曹三者，法律専門職，企業の法務部門・企画・総務部門，ジャーナリスト，公務員，大学・シンクタンクなど

法 律 学 科

人材養成目的

法律学科は，法学について，体系的・専門的な知識の伝達と，実践的・双方向的な教育をとおして，法学の専門的知識と，それを活用して法的問題の妥当な解決を図る能力（いわゆるリーガルマインド）を身に付けて，法曹三者，企業の法務・知的財産・人事・総務部門，公務員，法律専門職，研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科 目 履修単位

○1 類

リーガル・リサーチ 2

○2 類

民法概論 2

国際社会と民事法 2

民事手続法概論 2

商法概論 2

知的財産法概論 2

雇用と法 2

基本的人権概論 2

行政法概論 2

刑法概論 2

刑事手続法概論 2

国際社会と法 2

法と社会 2

上記2類科目中から，18単位以上を選択履修すること。

○3 類

A 群

民法 I a(総則①) 2

民法 I b (総則②)	2	労使関係法	2
民法 II (物権)	2	社会保障法 I	2
民法 IIIa (債権総論①)	2	社会保障法 II	2
民法 IIIb (契約)	2	雇用政策法	2
民法 IVa (担保物権)	2	統治の原理 I	2
民法 IVb (債権総論②)	2	統治の原理 II	2
民法 V (不法行為)	2	人権保障の原理 I	2
民法 VIa (親族)	2	人権保障の原理 II	2
民法 VIb (相続)	2	比較憲法	2
国際財産法	2	憲法訴訟	2
国際家族法	2	行政法総論 I	2
国際民事手続法	2	行政法総論 II	2
国際取引法	2	行政救済法 I	2
民事訴訟法	4	行政救済法 II	2
ADR・仲裁法	2	環境法	2
民事執行・保全法	2	地方自治法	2
倒産処理法 I (破産法)	2	税法 I	2
倒産処理法 II (民事再生法・会社更生法)	2	税法 II	2
会社法 I	2	刑法総論 I	2
会社法 II	2	刑法総論 II	2
会社法 III	2	刑法各論 I	2
商法総則・商行為法 I	2	刑法各論 II	2
商法総則・商行為法 II	2	刑事訴訟法 I	2
経済法 I	2	刑事訴訟法 II	2
経済法 II	2	犯罪学	2
金融商品取引法	2	刑事政策	2
保険法	2	犯罪対策各論	2
知的財産法 A	2	国際法総論 I	2
知的財産法 B	2	国際法総論 II	2
知的財産法 C	2	領域の国際法	2
雇用関係法 I	2	国際紛争と法	2
雇用関係法 II	2	国際組織法	2

国際人権法	2	4年次演習 3	2
国際経済・環境法	2	D 群	
西洋法史 I	2	アリゾナ大学科目 1	1
西洋法史 II	2	アリゾナ大学科目 2	2
日本法史 I	2	アリゾナ大学科目 3	3
日本法史 II	2	アリゾナ大学科目 4	4
西洋法思想史	2	E 群	
近代法思想の展開	2	会社法特講 I	2
東洋法史 I	2	会社法特講 II	2
東洋法史 II	2	憲法特講 I	2
法社会学	2	憲法特講 II	2
現代法社会学の展開	2	行政法特講	2
法哲学	2	上記3類科目中から、52単位以上を選択履修すること。ただし、2類で最低必要単位数以上を履修した場合は、3類の履修単位に算入する。	
現代法哲学の展開	2		
英米法総論	2		
アメリカ法	2	法学文献研究、政治学文献研究は8単位まで3類の必要単位に算入し、8単位を超えて履修した科目の単位は、7類の履修単位に算入する。	
イギリス法	2		
ドイツ法	2		
フランス法	2	C群の演習科目は合計10単位まで卒業必要単位に算入する。	
B 群			
法学文献研究	2	アリゾナ大学における履修科目はアリゾナ大学科目	
政治学文献研究	2	1～4として、他の大学における履修科目の単位認定と合わせて60単位まで卒業必要単位に算入する。	
C 群			
2年次演習	2	○4 類	
3年次演習 1	2	国際関係入門	2
3年次演習 2	2	日本外交論	2
3・4年次合同演習 1	2	国際関係史	2
3・4年次合同演習 2	2	国際関係理論	2
3・4年次合同演習 3	2	国際政治経済論	2
3・4年次合同演習 4	2	国際安全保障論	2
4年次演習 1	2	東アジア国際関係論	2
4年次演習 2	1	日本アジア関係論	2

アメリカ政治外交論	2	中国政治史	2
EU政治論	2	政治指導論	2
中国政治論	2	現代の政治思想	2
国際開発協力論	2	近代日本政治思想史	2
国際統合論	2	現代日本政治思想史	2
グローバルガバナンス論	2	公共経済 1	2
東南アジア地域研究	2	公共経済 2	2
南アジア地域研究	2	地域経済	2
中東地域研究	2	都市経済	2
ロシア・東欧地域研究	2	経営学	2
アフリカ地域研究	2	本学部が副専攻科目と認めるものにより、副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履修した場合、当該科目の単位のうち、法律学科設置科目は設置されている類の単位とし、その他の科目は4類の単位に算入する。	
中南米地域研究	2		
日本政治入門	2		
歴史・思想入門	2		
政治参加と選挙	2	○5 類	
現代民主主義論	2	A 群	
政党政治論	2	社会調査概論	2
近代日本政治史	2	政治データ分析	2
近代ヨーロッパ政治史	2	国際関係特殊講義	2
近代の政治思想	2	行政学	2
政治思想の源流	2	地方自治論	2
比較政治	2	政策過程論	2
官僚制と政治	2	現代政治特殊講義	2
議会政治論	2	政治史特殊講義	2
地方政府論	2	政治思想特殊講義	2
福祉国家と政治	2	経済原論	4
利益集団論	2	B 群	
政治経済学	2	特殊講義 A	2
政治行動論	2	特殊講義 B	2
現代日本政治史	2	特殊演習	2
現代ヨーロッパ政治史	2	C 群	
アメリカ政治史	2	司法特講 I	2

司法特講 II	2	1(アカデミック・リーディングA VI)～日本語1(文法IX),
司法特講 III	2	日本語2(アカデミック・リーディングA VI)～日本語2
司法特講 IV	2	(文法IX), ビジネス日本語C, ビジネス日本語Dの単位
D 群		を履修した場合は, 6類B群の履修単位に算入する。
大学院共通科目 I	2	○7 類
大学院共通科目 II	4	社会保障論
上記5類科目中から選択履修すること。ただし, 5類		労働問題(1)
B群は8単位まで卒業必要単位に算入する。		労働問題(2)
○6 類		社会思想史
A 群		古代イスラエル宗教史 1
原典講読 A	1	古代イスラエル宗教史 2
上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)		NPO・ボランティア活動論
の英語のうち, 卒業必要単位と認められるものから8単		日本文化史概説(1)
位以上を選択履修すること。		日本文化史概説(2)
ただし, TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験, 国際		東洋文化史概説(1)
連合公用語英語検定試験, IELTS で一定水準以上の成果		東洋文化史概説(2)
を修めた者は, 4単位を限度として, 6類A群の単位に認		西洋文化史概説(1)
定する。		西洋文化史概説(2)
B 群		人文地理学(1)
原典講読 B	1	人文地理学(2)
上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)		地誌学
の英語及びイタリア語以外の外国語のうち, 卒業必要単		地理学総論(1)
位と認められるものから8単位以上を選択履修するこ		地理学総論(2)
と。		哲学概論(1)
全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語,		哲学概論(2)
フランス語, 中国語, ロシア語, スペイン語及びコリア		倫理学概論(1)
語の各外国語入門 I は, 2単位のみ6類B群の履修単位		倫理学概論(2)
に算入し, 各外国語入門 II は, 履修した外国語入門 I と		心理学概論(1)
同一の外国語の科目2単位のみ6類B群の履修単位に算		心理学概論(2)
入する。		社会学概論
外国人留学生のうち, 外国人留学生入学試験により入		上記7類科目のほか, 全学共通教養教育科目(同志社
学した者が, 日本語・日本文化教育科目のうち, 日本語		科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイテ

イブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目)及び日本語・日本文化教育科目のうち、卒業必要単位と認められる科目、同志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京都単位互換科目から、42単位以上を選択履修すること。ただし、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目は、合計12単位まで、7類の履修単位に算入する。

なお、日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が履修することができる。

また、学則第27条の2に定める留学及び早稲田大学への学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として7類の単位に認定することがある。

1類科目、4類科目及び5類科目の履修単位、並びに3類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位(2類科目で最低必要単位数以上を履修し、3類の履修単位に算入したものを含む)、及び6類で最低必要単位数を超えて履修した科目の単位(全学共通教養教育科目[外国語教育科目]のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰ・Ⅱで、6類の履修単位に算入されないものを含む)は、7類の履修単位に算入する。

以上1類～7類のそれぞれの最低必要単位数以上を履修し、合計128単位以上を履修すること。

法曹養成プログラムを置く。法曹養成プログラムの修了に必要な要件は、別に定める。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
教職概論	2
教育原理	2

発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
地理歴史科教育法	2
公民科教育法	2
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
人権教育論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

学校図書館サービス論 2

自由科目は、卒業必要単位に算入しない。

希望者は、他学部の科目であっても、当該学部が認めた科目は、これを履修することができる。履修した他学部の科目(本学部が副専攻科目と認めるものは除く)は、卒業に必要な単位数に算入しない。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

政治学科

人材養成目的

政治学科は、政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育をとおして、政治学の専門的知識と、問題発見・解決能力を身に付けて、公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

科目

履修単位

○1 類

政治学入門	2
国際関係入門	2
日本政治入門	2
歴史・思想入門	2

○2 類

政治学基礎 A	2
政治学基礎 B	2
日本外交論	2
国際関係史	2
国際関係理論	2
国際政治経済論	2
国際安全保障論	2

政治参加と選挙	2
現代民主主義論	2
政党政治論	2
近代日本政治史	2
近代ヨーロッパ政治史	2
近代の政治思想	2
政治思想の源流	2
政治学への誘い	2
社会調査概論	2
政治データ分析	2
基本的人権概論	2

上記1類及び2類から合計20単位以上を選択履修すること。

○3 類

A 群

東アジア国際関係論	2
日本アジア関係論	2
アメリカ政治外交論	2
EU政治論	2
中国政治論	2
国際開発協力論	2
国際統合論	2
グローバルガバナンス論	2
東南アジア地域研究	2
南アジア地域研究	2
中東地域研究	2
ロシア・東欧地域研究	2
アフリカ地域研究	2
中南米地域研究	2
国際関係特殊講義	2

B 群

比較政治	2
------	---

官僚制と政治	2	さらに 10 単位以上を選択履修すること。	
議会政治論	2	○ 4 類	
地方政府論	2	統治の原理 I	2
福祉国家と政治	2	統治の原理 II	2
利益集団論	2	人権保障の原理 I	2
政治経済学	2	人権保障の原理 II	2
政治行動論	2	比較憲法	2
行政学	2	憲法訴訟	2
地方自治論	2	行政法概論	2
政策過程論	2	行政法総論 I	2
現代政治特殊講義	2	行政法総論 II	2
C 群		行政救済法 I	2
現代日本政治史	2	行政救済法 II	2
現代ヨーロッパ政治史	2	環境法	2
アメリカ政治史	2	地方自治法	2
中国政治史	2	税法 I	2
政治指導論	2	税法 II	2
現代の政治思想	2	国際法総論 I	2
近代日本政治思想史	2	国際法総論 II	2
現代日本政治思想史	2	領域の国際法	2
西洋法思想史	2	国際紛争と法	2
近代法思想の展開	2	国際組織法	2
法哲学	2	国際人権法	2
現代法哲学の展開	2	国際経済・環境法	2
政治史特殊講義	2	経済原論	4
政治思想特殊講義	2	経済数学 I	2
国際関係特殊講義，現代政治特殊講義，政治史特殊講義及び政治思想特殊講義は，各 6 単位まで 3 類の必要単位に算入し，6 単位を超えて履修した単位は，7 類の単位に算入する。		経済数学 II	2
		公共経済 1	2
		公共経済 2	2
		統計 I	2
上記 3 類の各群から，それぞれ 4 単位以上を選択履修し，かつ A 群，B 群又は C 群のいずれか 1 つの群から，		統計 II	2
		○ 5 類	

A 群		上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)
2年次演習	2	の英語及びイタリア語以外の外国語のうち、卒業必要単位と認められるものから8単位以上を選択履修すること。
3年次演習 1	2	
3年次演習 2	2	
3・4年次合同演習 1	2	全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰは、2単位のみ6類B群の履修単位に算入し、各外国語入門Ⅱは、履修した外国語入門Ⅰと同一の外国語の科目2単位のみ6類B群の履修単位に算入する。
3・4年次合同演習 2	2	
3・4年次合同演習 3	2	
3・4年次合同演習 4	2	
4年次演習 1	2	
4年次演習 2	1	
4年次演習 3	2	外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履修した場合は、6類B群の履修単位に算入する。

B 群

法学文献研究 2

政治学文献研究 2

上記1類～5類から合計70単位以上を選択履修すること。ただし、A群の演習科目は合計10単位まで卒業必要単位に算入する。

法学文献研究、政治学文献研究は8単位まで5類の必要単位に算入し、8単位を超えて履修した科目の単位は、7類の履修単位に算入する。

○6 類

A 群

原典講読 A 1

上記科目及び全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、卒業必要単位と認められるものから8単位以上を選択履修すること。

ただし、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験、国際連合公用語英語検定試験、IELTSで一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、6類A群の単位に認定する。

B 群

原典講読 B 1

○7 類

A 群

民法概論	2
国際社会と民事法	2
民事手続法概論	2
商法概論	2
知的財産法概論	2
雇用と法	2
刑法概論	2
刑事手続法概論	2
国際社会と法	2
法と社会	2
民法 I a(総則①)	2
民法 I b(総則②)	2
民法 II(物権)	2
民法 IIIa(債権総論①)	2

民法 IIIb(契約)	2	雇用政策法	2
民法 IVa(担保物権)	2	刑法総論 I	2
民法 IVb(債権総論②)	2	刑法総論 II	2
民法 V(不法行為)	2	刑法各論 I	2
民法 VIa(親族)	2	刑法各論 II	2
民法 VIb(相続)	2	刑事訴訟法 I	2
国際財産法	2	刑事訴訟法 II	2
国際家族法	2	犯罪学	2
国際民事手続法	2	刑事政策	2
国際取引法	2	犯罪対策各論	2
民事訴訟法	4	西洋法史 I	2
ADR・仲裁法	2	西洋法史 II	2
民事執行・保全法	2	日本法史 I	2
倒産処理法 I(破産法)	2	日本法史 II	2
倒産処理法 II(民事再生法・会社更生法)	2	東洋法史 I	2
会社法 I	2	東洋法史 II	2
会社法 II	2	法社会学	2
会社法 III	2	現代法社会学の展開	2
商法総則・商行為法 I	2	英米法総論	2
商法総則・商行為法 II	2	アメリカ法	2
経済法 I	2	イギリス法	2
経済法 II	2	ドイツ法	2
金融商品取引法	2	フランス法	2
保険法	2	B 群	
知的財産法 A	2	特殊講義 A	2
知的財産法 B	2	特殊講義 B	2
知的財産法 C	2	特殊演習	2
雇用関係法 I	2	7 類B 群は、8 単位まで卒業必要単位に算入する。	
雇用関係法 II	2	C 群	
労使関係法	2	大学院共通科目 I	2
社会保障法 I	2	大学院共通科目 II	4
社会保障法 II	2	D 群	

中級ミクロ経済学 1	2	経済思想史 1	2
中級ミクロ経済学 2	2	経済思想史 2	2
中級マクロ経済学 1	2	現代経済思想史	2
中級マクロ経済学 2	2	日本経済思想史	2
計量経済学 1	2	アジア経済	2
計量経済学 2	2	アジア経済史	2
経済予測 1	2	中国経済	2
経済予測 2	2	中国経済史	2
金融 1	2	アメリカ経済	2
金融 2	2	アメリカ経済史	2
労働経済 1	2	社会政策 1	2
労働経済 2	2	社会政策 2	2
福祉経済 1	2	現代資本主義 1	2
福祉経済 2	2	現代資本主義 2	2
地域経済	2	宗教経済 1	2
都市経済	2	宗教経済 2	2
経済政策 1	2	文化経済 1	2
経済政策 2	2	文科経済 2	2
開発経済 1	2	エネルギー経済 1	2
開発経済 2	2	エネルギー経済 2	2
企業経済 1	2	国際経済	2
企業経済 2	2	国際マクロ経済学	2
産業組織 1	2	政治経済学 1	2
産業組織 2	2	政治経済学 2	2
日本経済史 1	2	環境政策 1	2
日本経済史 2	2	環境政策 2	2
京都経済史 1	2	NPO・ボランティア活動論	2
京都経済史 2	2	社会保障論	4
世界経済史 1	2	労働問題(1)	2
世界経済史 2	2	労働問題(2)	2
比較社会経済	2	地域社会学	4
比較社会経済史	2	産業社会学(1)	2

産業社会学(2)	2	心理学概論(1)	2
社会心理学	4	心理学概論(2)	2
コミュニケーション論	2	社会学概論	4
情報行動論	2	上記7類科目のほか、全学共通教養教育科目(同志社	
現代哲学(1)	2	科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイテ	
現代哲学(2)	2	ィブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目,	
社会思想史	2	自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科	
日英文化比較(1)	2	目, 外国語教育科目, 保健体育科目)及び日本語・日本文	
日英文化比較(2)	2	化教育科目のうち, 卒業必要単位と認められる科目, 同	
西洋社会史(1)	2	志社女子大学単位互換科目並びに大学コンソーシアム京	
西洋社会史(2)	2	都単位互換科目から, 42 単位以上を選択履修すること。	
商業史	2	ただし, 同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソー	
経済学	2	シアム京都単位互換科目は, 合計 12 単位まで, 7 類の履	
メディア文化史	2	修単位に算入する。	
古代イスラエル宗教史 1	2	なお, 日本語・日本文化教育科目は外国人留学生のう	
古代イスラエル宗教史 2	2	ち, 外国人留学生入学試験により入学した者が履修する	
日本文化史概説(1)	2	ことができる。	
日本文化史概説(2)	2	また, 学則第 27 条の 2 に定める留学及び早稲田大学へ	
東洋文化史概説(1)	2	の学生交流による履修科目を留学等単位認定科目として	
東洋文化史概説(2)	2	7 類の単位に認定することがある。	
西洋文化史概説(1)	2	1 類~3 類, 4 類並びに 5 類で最低必要単位数を超えて	
西洋文化史概説(2)	2	履修した科目の単位, 及び 6 類で最低必要単位数を超え	
人文地理学(1)	2	て履修した科目の単位(全学共通教養教育科目[外国語教	
人文地理学(2)	2	育科目]のドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, ス	
地誌学	2	ペイン語及びコリア語の各外国語入門Ⅰ・Ⅱで, 6 類の	
地理学総論(1)	2	履修単位に算入されないものを含む)は, 7 類の履修単位	
地理学総論(2)	2	に算入する。	
社会人類学	4	上記科目, 並びに, 本学部が副専攻科目と認めるもの	
哲学概論(1)	2	により, 副専攻パッケージを構成する。副専攻科目を履	
哲学概論(2)	2	修した場合, 当該科目の単位のうち, 政治学科設置科目	
倫理学概論(1)	2	は設置されている類の単位とし, その他の科目は 7 類の	
倫理学概論(2)	2	単位に算入する。	

以上1類～7類のそれぞれの最低必要単位数以上を履修し、合計128単位以上を履修すること。

○自由科目

教職コンピュータ基礎	2
教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
地理歴史科教育法	2
公民科教育法	2
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
人権教育論	2
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2

多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
学校図書館サービス論	2

自由科目は、卒業必要単位数に算入しない。

希望者は、他学部の科目であっても、当該学部が認めた科目は、これを履修することができる。履修した他学部の科目(本学部が副専攻科目と認めるものは除く)は、卒業に必要な単位数に算入しない。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

経済学部

経済学科

人材養成目的

経済学部経済学科は、長い歴史に培われてきた教育研究環境の下で、幅広い教養を身に付けるための科目、経済学の系統的・段階的理解をはかる科目、及び問題発見と問題解決能力の強化をはかる科目を提供し、主体的な学修を促すことにより、国際化する経済・社会の状況に対応し、広く社会のために行動しうる、自治自立の人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
-----	------

○1 類

導入科目

経済理論入門	2
日本経済入門	2

経済学の歴史	2	企業経済 1	2
I T 基礎論 1	2	企業経済 2	2
基礎演習	2	産業組織 1	2
基礎科目		産業組織 2	2
初級ミクロ経済学 I	2	宗教経済 1	2
初級ミクロ経済学 II	2	宗教経済 2	2
初級マクロ経済学 I	2	文化経済 1	2
初級マクロ経済学 II	2	文化経済 2	2
経済数学 I	2	公共経済 1	2
経済数学 II	2	公共経済 2	2
統計 I	2	金融 1	2
統計 II	2	金融 2	2
経済史	2	財政 1	2
環境と資源の基礎	2	財政 2	2
I T 基礎論 2	2	労働経済 1	2
データ処理基礎論	2	労働経済 2	2
基幹科目		福祉経済 1	2
中級ミクロ経済学 1	2	福祉経済 2	2
中級ミクロ経済学 2	2	社会政策 1	2
ゲーム理論	2	社会政策 2	2
中級マクロ経済学 1	2	経済政策 1	2
中級マクロ経済学 2	2	経済政策 2	2
応用マクロ経済学	2	環境政策 1	2
数理経済 1	2	環境政策 2	2
数理経済 2	2	エネルギー経済 1	2
国際経済	2	エネルギー経済 2	2
国際マクロ経済学	2	エコロジー経済 1	2
中級経済数学 1	2	エコロジー経済 2	2
中級経済数学 2	2	計量経済学 1	2
行動経済学	2	計量経済学 2	2
地域経済	2	計量分析実習 1	2
都市経済	2	計量分析実習 2	2

経済予測 1	2	データベースシステム論	2
経済予測 2	2	システムモデリング論	2
統計実習	2	プログラミング 1	2
経済思想史 1	2	プログラミング 2	2
経済思想史 2	2	プログラミング 3	2
現代経済思想史	2	スクリプティング	2
日本経済思想史	2	情報システム論	2
国際政治経済 1	2	ビジネスシステム論	2
国際政治経済 2	2	演習	
現代資本主義 1	2	2 年次演習	2
現代資本主義 2	2	3 年次演習 1	2
政治経済学 1	2	3 年次演習 2	2
政治経済学 2	2	卒業研究	6
日本経済史 1	2	演習関連科目	
日本経済史 2	2	2 年次演習関連科目	2
京都経済史 1	2	3 年次演習関連科目 1	2
京都経済史 2	2	3 年次演習関連科目 2	2
アジア経済	2	エコノミクス・ワークショップ	
アジア経済史	2	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 1	2
中国経済	2	エコノミクス・ワークショップ・プライマリ 2	2
中国経済史	2	エコノミクス・ワークショップ・アドバンスト	2
世界経済史 1	2	基礎科目から 18 単位以上、このうちグレードⅡ（初級	
世界経済史 2	2	ミクロ経済学Ⅱ，初級マクロ経済学Ⅱ，経済数学Ⅱ，統計	
比較社会経済	2	Ⅱ）から 4 単位以上，基幹科目から 24 単位以上を選択	
比較社会経済史	2	履修し，かつ 1 類から 66 単位以上を選択履修すること。	
アメリカ経済	2	○ 2 類	
アメリカ経済史	2	オフィス ICT スキルズ I	2
ヨーロッパ経済	2	オフィス ICT スキルズ II	2
ヨーロッパ経済史	2	ビジネス ICT スキルズ I	2
開発経済 1	2	ビジネス ICT スキルズ II	2
開発経済 2	2	上記科目のほか，全学共通教養教育科目の外国語教育	
ネットワークシステム論	2	科目および日本語・日本文化教育科目のうち，卒業必要	

単位と認められる科目から選択履修すること。ただし、イタリア語は3類科目の履修単位に算入する。

英語8単位または日本語8単位を履修し、英語8単位を履修した場合は、これに加えて、英語以外の種類の外国語を選択し8単位以上またはオフィスICTスキルズⅠ・Ⅱ、ビジネスICTスキルズⅠ・Ⅱ（以下、コンピュータ言語）の8単位を選択履修すること。また、日本語8単位を履修した場合は、これに加えて、種類の外国語を選択し8単位以上またはコンピュータ言語の8単位を選択履修すること。もしくは、英語12単位または日本語12単位を履修し、英語12単位を履修した場合は、これに加えて、英語以外の種類の外国語を選択し4単位以上またはコンピュータ言語の4単位以上を選択履修すること。また、日本語12単位を履修した場合は、これに加えて、種類の外国語を選択し4単位以上またはコンピュータ言語の4単位以上を選択履修すること。

なお、英語を履修する場合は、8単位履修、12単位履修のいずれの場合においても経済学部が定めた科目から8単位を履修すること。

ただし、日本語・日本文化教育科目の履修は外国人留学生のうち、外国人留学生入学試験により入学した者に限る。

以上のとおり履修し、2類から合計16単位以上を選択履修すること。

なお、TOEIC、TOEFL、IELTS、実用英語技能検定試験、国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として2類の単位に認定する。

また、外国人留学生が2類科目から母語を履修しても卒業必要単位に算入しない。

○3 類

文化と社会	2
科学と技術	2

企業分析	2
日本の憲法	2
民法 1	2
民法 2	2
商法 1	2
商法 2	2
労働法 1	2
労働法 2	2
労働法 3	2
労働法 4	2
経済法 1	2
経済法 2	2
簿記学 I	2
簿記学 II	2
会計学	2
経営学	2
原価計算論	2
テュービンゲン大学 I E S 科目	2

上記科目のほか、全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目のイタリア語、保健体育科目）のうち卒業必要単位と認められる科目から16単位以上を選択履修すること。

外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dを除く科目から単位を履修した場合は、3類の履修単位に算入する。

○4 類

教職概論	2
人権教育論	2

教育原理	2	西洋文化史概説(2)	2
心理学概論(1)	2	人文地理学(1)	2
心理学概論(2)	2	人文地理学(2)	2
発達と学習の心理学	2	地理学総論(1)	2
学校教育社会学	2	地理学総論(2)	2
教育制度と学校経営	2	地誌学	2
道徳教育の理論と実践	2	哲学概論(1)	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	哲学概論(2)	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	倫理学概論(1)	2
教育相談の理論と方法	2	倫理学概論(2)	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	社会学概論	4
教育課程論	2	近代日本政治史	2
学校教育文化論(1)	2	現代日本政治史	2
学校教育文化論(2)	2	近代ヨーロッパ政治史	2
生涯教育計画論	2	現代ヨーロッパ政治史	2
多文化共生社会と生涯学習	2	日本社会史(1)	2
学校教育図書館論	2	日本社会史(2)	2
学校図書館メディアの構成	2	日本地域史研究(1)	2
学習指導と学校図書館	2	日本地域史研究(2)	2
読書と豊かな人間性	2	西洋社会史(1)	2
情報メディアの活用	2	西洋社会史(2)	2
社会科教育法 1	2	商業史	2
社会科教育法 2	2	日本商業史	2
地理歴史科教育法	2	生涯学習概論	2
公民科教育法	2	日本美術史概説(1)	2
社会科・地理歴史科教育法	2	日本美術史概説(2)	2
社会科・公民科教育法	2	西洋美術史概説(1)	2
日本文化史概説(1)	2	西洋美術史概説(2)	2
日本文化史概説(2)	2	日本美術史(1)	2
東洋文化史概説(1)	2	日本美術史(2)	2
東洋文化史概説(2)	2	東洋美術史(1)	2
西洋文化史概説(1)	2	東洋美術史(2)	2

西洋近代史(1)	2	上記4類科目は、卒業に必要な単位とは別に独自に履修することができる。
西洋近代史(2)	2	
考古学概論(1)	2	○5 類 1 類科目, 3 類科目, 4 類科目, 法学部設置科目, サイエンスコミュニケーター養成に関わる科目及び国際教育
考古学概論(2)	2	
民俗学(1)	2	インスティテュートに示された科目のうち, 本学部が副専攻科目と認めるものにより, 副専攻パッケージを構成する。
民俗学(2)	2	
図書館情報学概論	2	選択した副専攻パッケージの科目は, それぞれ 20 単位を限度として卒業必要単位に算入する。20 単位を超えて
図書館情報サービス論 I	2	
図書館情報サービス論 II	2	修得した単位は 6 類の履修単位に算入する。ただし, 1 類の科目は 1 類の, 3 類の科目は 3 類の, 4 類の科目は 4 類の卒業必要単位に算入する。
情報資源組織論 I	2	
情報資源組織論 II	2	○6 類 他学部設置科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目, 同志社女子大学単位互換科目は 6 類の履修単位に算入する。6 類科目は 12 単位を限度として卒業必要単位に算入する。
児童サービス論	2	
図書・図書館史	2	以上卒業に必要な単位として 1 類~6 類から合計 124 単位以上を履修すること。
図書館情報資源概論	2	
図書館情報資源特論	2	○自由科目 教職実践演習(中・高) 2
図書館情報技術論	2	
図書館情報学特論	2	教育実習指導 1
情報サービス演習 I	2	教育実習 A 2
情報サービス演習 II	2	教育実習 B 2
情報資源組織演習 I	2	教育実習 C 4
情報資源組織演習 II	2	特別ニーズ教育論 2
図書館演習	4	スクールインターンシップ 2
学術情報利用教育論	2	上記科目のほか, 全学共通教養教育科目(社会科学系科目)の経済学 1, 経済学 2 を履修することができる。
学校図書館サービス論	2	
博物館概論	2	自由科目は, 卒業必要単位に算入しない。
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	上記にかかわらず, 国際教養コースについては, 国際
博物館情報メディア論	2	
博物館教育論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	

教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

商 学 部

商 学 科

人材養成目的

商学部商学科は、現代産業社会の経済活動について、基礎的な知識の修得をはかるとともに豊かな教養を培い、専門領域の体系的かつ系統的な教育方針に基づく学習と実践的能力の育成をとおして、企業や産業に関わる諸問題を的確に分析し、その解決のための判断能力を身に付け、国内外の各分野において「良心を手腕に運用する」有為の人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
1 類 導入科目	
アカデミック・リテラシー I	2
アカデミック・リテラシー II	2
ビジネス・トピックス	2
2 類 入門科目	
基本統計学	2
現代ビジネス	2
簿記学 I	2
簿記学 II	2
上記2類入門科目から6単位以上を履修すること。	
3 類 学系基礎科目	
学系基礎科目 I	
経済・歴史学系	
経済学	2
商業・金融学系	
商業学	2
貿易・国際学系	

国際経済学	2
企業・経営学系	
経営学	2
簿記・会計学系	
会計学	2
上記学系基礎科目 I から8単位以上を履修すること。	
学系基礎科目 II	
経済・歴史学系	
ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2
計量経済学	2
商業史	2
商業・金融学系	
流通論	2
マーケティング論	2
金融論	2
証券論	2
貿易・国際学系	
貿易論	2
貿易業務論	2
国際金融論	2
国際商取引論	2
企業・経営学系	
経営管理論	2
経営組織論	2
経営戦略論	2
経営史	2
簿記・会計学系	
簿記学 III	2
工業簿記 I	2
財務会計論	2
監査論	2

上記学系基礎科目Ⅱから各学系2単位以上,計10単位	欧米経済論	2	
以上を履修すること。	発展途上国経済論	2	
4 類 学系展開科目	アジア経済論	2	
経済・歴史学系	国際ビジネス・コミュニケーション論	2	
経済変動論	2	国際電子商取引論	2
市場と人間	2	貿易契約論	2
経済統計分析	2	貿易外国語(英語)	2
戦略の経済学	2	貿易外国語(中国語)	2
日本商業史	2	特講	2
現代商業史	2	企業・経営学系	
オペレーションズ・リサーチ	2	労務管理論	2
特講	2	生産管理論	2
商業・金融学系		現代企業論	2
商品学	2	ソーシャル・マネジメント論	2
観光論	2	中小企業論	2
交通論	2	経営分析論	2
物流システム論	2	経営統計論	2
消費者行動論	2	ビジネス・リサーチ	2
マーケティング・リサーチ	2	国際経営論	2
貨幣論	2	技術経営論	2
銀行論	2	事業システム論	2
金融政策論	2	コーポレート・ガバナンス論	2
ファイナンス論	2	特講	2
企業金融論	2	簿記・会計学系	
保険論	2	簿記学Ⅳ	2
リスクマネジメント	2	工業簿記Ⅱ	2
金融システム論	2	財務諸表論	2
特講	2	制度会計論	2
貿易・国際学系		情報会計論	2
世界経済論	2	管理会計論	2
現代国際金融	2	原価計算論	2
経済統合論	2	税務会計論	2

国際会計論	2	経済政策 2	2
財務諸表監査	2	財政学 1	2
財務諸表分析	2	財政学 2	2
特講	2	民法 II (物権)	2
5 類 実践科目		民法 IIIa(債権総論①)	2
実践科目 I	1	民法 IVa(担保物権)	2
実践科目 II	2	民法 IVb(債権総論②)	2
実践科目 III	4	会社法 I	2
6 類 専門外国語科目		会社法 II	2
外国書講読(英語)	2	会社法 III	2
外国書講読(ドイツ語)	2	比較憲法	2
外国書講読(フランス語)	2	国際法総論 I	2
外国書講読(中国語)	2	領域の国際法	2
外国書講読(スペイン語)	2	国際関係理論	2
外国書講読(ロシア語)	2	国際政治経済論	2
外国書講読(コリア語)	2	商学総合コースでは主学系、副学系の二つの学系を選択し、4 類学系展開科目のうち選択した学系からそれぞれ最低 4 単位以上、合計 20 単位以上を履修すること。	
Business English	2	フレックス複合コースでは主学系を選択し、4 類学系展開科目のうち選択した学系から 10 単位以上を履修すること。フレックス複合コースのうち専門特化型を選択した場合は、さらに 4 類学系展開科目のうち主学系の科目及び 5 類実践科目と 6 類専門外国語科目の関連する科目から 10 単位以上を履修すること。	
専門外国語特講	2	上記を含め、1~8 類から、商学総合コースでは 80 単位以上、フレックス複合コースでは 70 単位以上を履修すること。	
上記 6 類専門外国語科目から 2 単位以上を履修すること。		9 類 教養科目	
7 類 演習科目		全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目, 保健体育科目)か	
演習 I	2		
演習 II	2		
演習 III	2		
卒業研究演習 I	2		
卒業研究演習 II	2		
卒業研究演習 III	2		
8 類 隣接科目			
社会学概論	4		
統計 I	2		
統計 II	2		
経済政策 1	2		

ら12単位以上を履修すること。

ただし、商学は履修できない。

なお、外国人留学生が、クリエイティブ・ジャパン科目のうち、日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を履修する場合は、12類外国人留学生科目を履修すること。

10 類 外国語科目

実践英語 A	2
実践英語 B	2
実践英語 C	2

商学総合コースでは、全学共通教養教育科目の外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、ロシア語）から二つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目各8単位、計16単位以上を履修すること。

フレックス複合コースでは、同外国語教育科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、ロシア語）から一つの外国語を選択し、卒業に必要と認められる科目8単位以上を履修すること。

TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、6単位を限度として、10類外国語科目の英語の単位として認定する。

11 類 自主選択科目

哲学概論(1)	2
哲学概論(2)	2
倫理学概論(1)	2
倫理学概論(2)	2
心理学概論(1)	2
心理学概論(2)	2
日本思想史(1)	2
日本思想史(2)	2

人文地理学(1)	2
人文地理学(2)	2
地理学総論(1)	2
地理学総論(2)	2
地誌学	2
日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2
東洋文化史概説(2)	2
西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
日本社会史(1)	2
日本社会史(2)	2
日本地域史研究(1)	2
日本地域史研究(2)	2
西洋思想史(1)	2
西洋思想史(2)	2
西洋社会史(1)	2
西洋社会史(2)	2
近代ヨーロッパ政治史	2
現代ヨーロッパ政治史	2
近代日本政治史	2
現代日本政治史	2
アメリカ政治外交論	2
日本外交論	2
商業科教育法 A	2
商業科教育法 B	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4

職業指導 I	2	学校教育図書館論	2
職業指導 II	2	学校図書館メディアの構成	2
教職情報処理実習	2	学習指導と学校図書館	2
博物館概論	2	読書と豊かな人間性	2
博物館経営論	2	情報メディアの活用	2
博物館資料論	2	生涯学習概論	2
博物館情報メディア論	2	図書館情報学概論	2
博物館資料保存論	2	図書館制度・経営論	2
博物館展示論	2	図書館情報技術論	2
博物館教育論	2	図書館情報サービス論 I	2
博物館実習 I	2	図書館情報サービス論 II	2
博物館実習 II	1	児童サービス論	2
教職概論	2	情報サービス演習 I	2
教育原理	2	情報サービス演習 II	2
発達と学習の心理学	2	図書館情報資源概論	2
教育制度と学校経営	2	情報資源組織論 I	2
学校教育社会学	2	情報資源組織論 II	2
教育課程論	2	情報資源組織演習 I	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	情報資源組織演習 II	2
社会科・地理歴史科教育法	2	図書館情報学特論	2
社会科・公民科教育法	2	学術情報利用教育論	2
社会科教育法 1	2	図書館情報資源特論	2
社会科教育法 2	2	図書・図書館史	2
地理歴史科教育法	2	図書館演習	4
公民科教育法	2	学校図書館サービス論	2
道徳教育の理論と実践	2	外国留学科目 (1科目各 1~8 単位)	
生徒・進路指導の理論と方法	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目, 他学部設置	
教育相談の理論と方法	2	科目及び国際教育インスティテュート科目 (副専攻パッ	
人権教育論	2	ケージ科目を含む), 同志社女子大学単位互換科目及び	
スクールインターンシップ	2	大学コンソーシアム京都単位互換科目は, 11 類科目の単	
特別ニーズ教育論	2	位として卒業必要単位に算入できる。	
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	以上卒業に必要な単位として 1~11 類から合計 126 単	

位以上を修得すること。

ただし、フレックス複合コースで副専攻型を選択した場合は、選択した副専攻パッケージ科目から10単位以上を履修すること。

12 類 外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。

日本語・日本文化教育科目の、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dから8単位を修得した場合は、10類外国語科目の一つの外国語8単位に代えることができる。

日本語・日本文化教育科目のうち、日本語1、日本語2、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dを除く科目から単位を修得した場合は、9類教養科目の単位に代えることができる。

なお、外国人留学生が10類外国語科目から母語を履修しても卒業必要単位に算入しない。

上記にかかわらず、国際教養コースについては、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

自由科目

大学院科目 2

大学院科目の履修は、5年一貫教育プログラムにおける履修資格者に限る。

自由科目は卒業必要単位に算入しない。

政 策 学 部

政 策 学 科

人材養成目的

政策学部政策学科は、現代社会が求める高度な問題発見・解決能力について、問題発見の基礎となる、個別の学問分野にとどまらない社会諸科学相互の連携による学際

的な知識や方法を学び、公共政策、企業政策、国際政策に関わる問題発見・解決の実践をとおして、時・場所を問わず、問題解決の中心で活躍できる基礎力を身に付けて、公的機関や民間企業などの政策や戦略の立案等において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○選択科目 I

選択科目 I-1

科 目	履修単位
オリエンテーション科目	
First Year Experience	2
政策学入門	2
基礎能力養成科目	
アカデミック・スキル 1	2
アカデミック・スキル 2	2
基礎科目	
行政学入門	2
政治学入門	2
公法入門	2
現代経済入門	2
経済学入門	2
組織論入門	2
統計学入門	2
国際教育インスティテュートA群-I	
Introduction to the Japanese Economy	2
Macroeconomics	2
Microeconomics	2
Introduction to Business	2
Administration	2
Introduction to Japanese Law	2
Power and Politics in Japan	2
導入科目	
A 群	

政策過程論	2	卒業研究演習 II	2
憲法 1	2	卒業論文	2
私法入門	2	アカデミック・ライティング	2
ミクロ経済学と人間行動	2	B 群	
マクロ経済指標	2	フィールド・リサーチ	2
政策思想	2	リサーチ・ペーパー	2
社会政策	2	プロジェクト演習	2
人と組織	2	展開科目	
企業組織論	2	A 群	
社会調査入門	2	公共性論	2
国際教育インスティテュートA群-II		政策形成論	2
Winners and Losers: Introduction to	2	政策分析	2
Political Theory		政治行動学	4
Introduction to Comparative	2	地方自治論	2
Policymaking		政府体系論	2
Political Behavior, Campaigns and	2	国際政治学	2
Elections		国際法	2
Introduction to Globalization	2	地域政策	2
選択科目 I - 2		行政法 1(総論)	2
導入科目		行政法 2(救済)	2
B 群		憲法 2	2
キャリアデザイン 1	2	立法過程論	2
キャリアデザイン 2	2	国際貿易	2
政策トピックス	2	国際金融入門	2
○選択科目 II		公共経済学	2
選択科目 II - 1		開発政策	2
卒業研究プロジェクト		社会保障政策	2
A 群		現代社会と組織	2
演習 I	2	経営組織論	2
演習 II	2	意思決定論	2
演習 III	2	人的資源管理	2
卒業研究演習 I	2	ミクロ経済学と政策	2

マクロ経済政策	2	雇用関係法	2
現代国際政治	2	資本市場政策	2
B 群		金融政策	2
政策実施論	2	金融制度	2
政策評価論	2	ベンチャー政策	2
応用政策分析	2	外書講読(英)	2
行政管理論	2	E 群	
国際政治史	2	国際教育インスティテュートB群	
グローバル経済論	2	Social Inequalities in Japan	2
国際金融市場政策	2	Ecology and Economy in Japan	2
国際協力政策	2	The Financial System in Japan	2
国際機構	2	Economic Growth	2
行政組織論	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
NGO・NPO論	2	International Relations in East Asia	2
現代組織論	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
政策法務	2	The Politics of Growth in Developing	2
環境法	2	Countries	2
環境政策	2	Peace and Conflict	2
文化政策	2	International Human Rights Law	2
観光政策	2	Topics in Public Policy	2
京都観光論	2	Mass Media in the Policymaking	2
環境マネジメント	2	Process	2
ジェンダーと社会構造	2	International Law and Organizations	2
ジェンダー政策	2	International Political Economy	2
スポーツ法政策	2	What Makes Countries Poor?	2
国際平和政策論	2	Development and Law	2
比較政治学	2	Topics in Japan' s Contemporary	2
C 群		International Relations	2
コミュニティ創造政策	2	World Civilizations	2
行政責任論	2	Asian Civilizations	2
比較政策論	2	Migration and Transnationalism	2
公共経営論	2	Civic Engagement	2

Public Opinion and Political Psychology	2	日本社会史(2)	2
Politics through Film	2	日本地域史研究(1)	2
選択科目Ⅱ－2		日本地域史研究(2)	2
展開科目		西洋社会史(1)	2
D 群		西洋社会史(2)	2
政策特殊講義Ⅰ	2	日本商業史	2
政策特殊講義Ⅱ	4	生涯学習概論	2
○選択科目Ⅲ		図書館情報学概論	2
日本文化史概説(1)	2	図書館制度・経営論	2
日本文化史概説(2)	2	図書館情報技術論	2
東洋文化史概説(1)	2	図書館情報サービス論Ⅰ	2
東洋文化史概説(2)	2	図書館情報サービス論Ⅱ	2
西洋文化史概説(1)	2	児童サービス論	2
西洋文化史概説(2)	2	情報サービス演習Ⅰ	2
人文地理学(1)	2	情報サービス演習Ⅱ	2
人文地理学(2)	2	図書館情報資源概論	2
地理学総論(1)	2	情報資源組織論Ⅰ	2
地理学総論(2)	2	情報資源組織論Ⅱ	2
地誌学	2	情報資源組織演習Ⅰ	2
哲学概論(1)	2	情報資源組織演習Ⅱ	2
哲学概論(2)	2	図書館情報学特論	2
倫理学概論(1)	2	学術情報利用教育論	2
倫理学概論(2)	2	図書館情報資源特論	2
心理学概論(1)	2	図書・図書館史	2
心理学概論(2)	2	図書館演習	4
社会学概論	4	学校図書館サービス論	2
近代日本政治史	2	上記の他，他学部設置科目，チュービンゲン大学 I E	
現代日本政治史	2	S 科目，大学コンソーシアム京都単位互換科目，同志社	
近代ヨーロッパ政治史	2	女子大学単位互換科目及び日本語・日本文化教育科目の	
現代ヨーロッパ政治史	2	うち，卒業必要単位と認められる科目から，選択履修す	
日本社会史(1)	2	ること。	
		国際専修コースは，上記に加えて国際教育インスティ	

テュートA群－Ⅰ，A群－Ⅱ，B群を除く国際教育イン
スティテュート設置科目のうち，卒業必要単位と認めら
れる科目から，選択履修すること。

ただし，日本語・日本文化教育科目は，外国人留学生
のみ履修することができる。

また，外国人留学生が日本語・日本文化教育科目のう
ち，日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本
語1(文法Ⅸ)，日本語2(アカデミック・リーディングA
Ⅵ)～日本語2(文法Ⅸ)，ビジネス日本語C，ビジネス日
本語Dの単位を履修した場合は，全学共通教養教育科目
の外国語教育科目のうち，学部が定める科目の単位に代
えることができる。

なお，外国人留学生が全学共通教養教育科目の外国語
教育科目から母国語を履修しても卒業単位に算入しな
い。

○全学共通教養教育科目

卒業必要単位と認められる科目から，選択履修するこ
と。なお，TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定
水準以上の成果を修めた者は，8単位を限度として，全
学共通教養教育科目の外国語教育科目(英語)のうち，学
部が定める科目の単位に認定する。また，スポーツ・パ
フォーマンス1は2単位まで卒業必要単位に算入する。

○自由科目

免許・資格関係科目

教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2
発達と学習の心理学	2
特別ニーズ教育論	2
教育課程論	2

道徳教育の理論と実践	2
社会科・地理歴史科教育法	2
社会科・公民科教育法	2
社会科教育法 1	2
社会科教育法 2	2
公民科教育法	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
スクールインターンシップ	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
学校教育文化論(1)	2
学校教育文化論(2)	2
生涯教育計画論	2
多文化共生社会と生涯学習	2
学校教育図書館論	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
日本の憲法	2
教職コンピュータ実習	2

自由科目は卒業必要単位に算入しない。

履修方法

1. 選択科目Ⅰから32単位以上，選択科目Ⅱから60単
位以上，全学共通教養教育科目から14単位以上，合計
124単位以上を履修すること。ただし，選択科目Ⅰに

については、オリエンテーション科目のうち「政策学入門」及び基礎能力養成科目のうち「アカデミック・スキル1」を履修し、基礎科目10単位以上を含めて同Ⅰー1から20単位以上、選択科目Ⅱについては、同Ⅱー1から60単位以上、全学共通教養教育科目については、外国語教育科目のうち、学部が定める科目から英語8単位以上、英語以外の外国語4単位以上、同志社科目のうち「建学の精神とキリスト教」を履修すること。

国際専修コースは、選択科目Ⅰから32単位以上、選択科目Ⅱから60単位以上、全学共通教養教育科目から14単位以上、合計124単位以上を履修すること。ただし、選択科目Ⅰについては、オリエンテーション科目のうち「政策学入門」及び基礎能力養成科目のうち「アカデミック・スキル1」を履修し、基礎科目10単位以上（国際教育インスティテュートA群ーⅠから4単位以上を含む）を含めて同Ⅰー1から20単位以上、選択科目Ⅱについては、国際教育インスティテュートB群から16単位以上を含めて同Ⅱー1から60単位以上、全学共通教養教育科目については、外国語科教育のうち、学部が定める科目から英語8単位以上、英語以外の外国語4単位以上、同志社科目のうち「建学の精神とキリスト教」を履修すること。

2. 国際教養コースは、上記にかかわらず、国際教育インスティテュートに示された履修方法に従って履修すること。

文化情報学部

文化情報学科

人材養成目的

文化情報学部文化情報学科は、文化に関する確かな情

報が社会問題の解決において枢要であることを理解し、課題の解決のために実践的にデータを利活用する学問としての「データサイエンス」の方法論に基づいて、新たな価値を析出・創造できる人物を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
文化情報学 1	2
文化情報学 2	2
文化情報学 3	2
文化情報学 4	2
ジョイント・リサーチ	2
リサーチ・セミナー	2
リサーチ・プロジェクトⅠ	4
リサーチ・プロジェクトⅡ	4
○選択科目Ⅰ（文化情報学専門科目）	
A 群（文化科学系科目群）	
現代文化概論	2
美術史学	2
ことばと文化	2
世界の諸言語	2
文化論入門	2
文献講読	2
文化・社会人類学	2
ことばの科学	2
認知科学入門	2
社会調査入門	2
コーパス言語学	2
言語研究の方法Ⅰ	2
言語類型論	2
計量社会学	2
図像学	2

統辞論	2	数値シミュレーション	2
比較文化論	2	データベースシステム	2
身体メディア論	2	インターネット技術	2

A群は、12単位以上を選択履修すること。

B群は、12単位以上を選択履修すること。

B 群(データ科学系科目群)

C 群(先端・融合系科目群)

統計学入門	2	文化の計量分析入門	2
離散数学入門	2	身体論 5.0	2
数理モデル入門	2	社会システム論	2
プログラミング入門	2	A I ・情報倫理	2
統計学	2	デジタル・ヒストリー入門	2
統計学演習	2	文献解析	2
線形代数	2	デジタル・ヒストリー概説	2
コンピュータ概論	2	時空間情報科学	2
プログラミング基礎	2	社会調査法	2
多変量解析	2	認知情報学	2
多変量解析演習	2	計量文化解析	2
微分積分	2	映像情報解析論	2
プログラミング応用	2	言語研究の方法 2	2
機械学習基礎	2	会話情報学	2
離散数学	2	情報グラフィックス論	2
確率解析	2	社会調査演習	4
最適化法	2	言語と脳科学	2
情報セキュリティ	2	行動データ科学実習	2
アルゴリズムとデータ構造	2	ヒューマンコンピュータインタラクション	2
機械学習応用	2	先端文化情報学 1	2
数理統計	2	先端文化情報学 2	2
数理モデル	2		
情報理論	2	C群は、12単位以上を選択履修すること。	
情報アクセス技術	2	○選択科目Ⅱ(文化情報学教養科目)	
ベイズ統計	2	D 群	
因果推論	2	文化情報学トピックス	2
時系列解析	2	D群は、文化情報学トピックス、全学共通教養教育科目(クリエイティブ・ジャパン科目)のうち、学部が卒業	

必要単位と認める科目から、6単位以上選択履修すること。

E 群

E群は、全学共通教養教育科目のうち同志社データサイエンス・A I 教育プログラム(リテラシーレベル)を構成する科目から、「データサイエンス概論」を含む計6単位以上を選択履修すること。

F 群

F群は、全学共通教養教育科目(クリエイティブ・ジャンク科目、同志社データサイエンス・A I 教育プログラム(リテラシーレベル)を構成する科目、外国語教育科目以外の科目)のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、14単位以上選択履修すること。

○選択科目Ⅲ(外国語教育科目)

G 群

G群は、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)の英語のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、8単位以上選択履修すること。

TOEIC® LISTENING AND READING TEST, TOEFL iBT テスト, 実用英語技能検定, 国際連合公用語英語検定において、一定水準以上の成果を修めた者は、8単位を限度としてG群の単位として認定する。

H 群

H群は、全学共通教養教育科目 外国語教育科目 英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目「日本語1(アカデミック・リーディングA VI)」～「日本語2(文法IX)」, 「ビジネス日本語C」, 「ビジネス日本語D」のうち、学部が卒業必要単位と認める科目から、4単位以上選択履修すること。

日本語・日本文化教育科目「日本語1(アカデミック・リーディングA VI)」～「日本語2(文法IX)」, 「ビジネス日本語C」, 「ビジネス日本語D」は、外国人留学生のみ

履修することができる。

○I 群

情報処理演習	1
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
スクールインターンシップ	2
人権教育論	2
日本文化史概説(1)	2
日本文化史概説(2)	2
西洋文化史概説(1)	2
西洋文化史概説(2)	2
東洋文化史概説(1)	2
東洋文化史概説(2)	2
生涯学習概論	2
日本の憲法	2

I群は、上記科目並びに他学部設置科目、同志社女子

大学単位互換科目，大学コンソーシアム京都単位互換科目，早稲田大学交流協定科目，外国協定大学における履修科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち，学部が卒業必要単位と認める科目から履修すること。

○自由科目

情報メディア	2
コンピュータと数学	2
コンピュータグラフィックス	2
情報メディア実習	1
情報と社会	2
特別ニーズ教育論	2
学校図書館サービス論	2

自由科目は，卒業必要単位に算入しない。

履修方法

必修科目 20 単位，選択科目Ⅰは 50 単位以上，選択科目Ⅱは 32 単位以上，選択科目Ⅲは 12 単位以上，合計 124 単位以上を履修すること。

理 工 学 部

人材養成目的

理工学部は，同志社建学の精神を尊重しつつ各学科独自に実践される固有の教育内容について，それぞれの学問領域の真髄の修得を目指して設置された学科目とそれらを体系的に編成した履修課程をとおして，本学部学生が科学と工学の基礎及び応用理論を広く身に付けて，一国の良心として各界において活躍する人材を養成することを目的とする。

インテリジェント情報工学科

人材養成目的

インテリジェント情報工学科は，情報処理について，

その「インテリジェント化」，「ネットサーク化」，「ユビキタス化」，「サービス化」を指向した教育カリキュラムをとおして，情報システム開発の各領域・分野における専門性の高い技術的課題の解決を担い得る能力，ならびに企画・立案を他者と交わりながら実施できる技能を身に付けて，情報技術分野等において活躍できる人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○必修科目

情報工学概論Ⅰ	1
情報工学概論Ⅱ	1
情報工学実験Ⅰ	2
情報工学実験Ⅱ	2
情報工学応用論	1
卒業論文Ⅰ	2
卒業論文Ⅱ	2

○選択科目

A群Ⅰ類

A I - 1 a	
情報工学実験Ⅲ	2
特別演習実習	2
A I - 1 b	
解析学Ⅰ	2
線形代数学Ⅰ	2
情報数学Ⅰ	2
数理統計学	2
A I - 1 c	
CプログラミングⅠ	2
CプログラミングⅡ	2
J a v aプログラミングⅠ	2
J a v aプログラミングⅡ	2
A I - 1 d	

コンピュータネットワーク	2	学外実習 2	2
コンピュータグラフィックス	2	知識情報処理	2
オペレーティングシステム	2	パターン認識	2
言語理論	2	自然言語処理	2
通信ネットワーク	2	情報システム工学	2
計算機ハードウェア	2	符号理論	2
データベースシステム	2	情報セキュリティ	2
コンピュータ基礎実習	1	デジタル信号処理	2
A I - 2		不規則信号論	2
運動学の基礎	2	ワイヤレス通信	2
知的財産権	2	情報メディア	2
Cプログラミング III	1	応用数理統計学	2
技術英語 I	1	メカトロニクス基礎	2
技術英語 II	1	センシング制御工学	2
解析学 II	2	ロボティクス	2
微分方程式 I	2	ソフトウェア工学	2
線形代数学 II	2	J a v aプログラミング III	1
電気の基礎	2	機械学習	2
微分方程式 II	2	音声処理	2
画像処理	2	A群II類	
フーリエ解析	2	ネットワーク応用	2
応用数理解析	2	ヒューマンインタフェース	2
情報数学 II	2	コラボレーション工学	2
複素解析	2	数値解析	2
情報理論	2	ネットワークシステム構成論	2
情報メディア実習	1	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
アルゴリズムとデータ構造	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
計算機アーキテクチャ	2	ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として	
数値計算法	2	卒業必要単位に算入される。	
特別講義 A	2	B群I類	
特別講義 B	2	第一外国語科目	
学外実習 1	2	Academic English for Science 1	1

Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群 I 類の単位に認定する。

B 群 II 類

第二外国語科目

選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B 群 III 類

選択科目 B 群 III 類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C 群

情報と社会	2
情報システム実習	1

情報通信ネットワーク実習	1
--------------	---

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群 II 類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群 III 類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 11 単位、選択科目 117 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A 群は I 類から 77 単位以上(うち A I - 1 a から 2 単位、A I - 1 b から 4 単位以上、A I - 1 c から 4 単位以上、A I - 1 d から 10 単位以上)を含めて 86 単位以上、B 群は I 類から 8 単位以上、II 類から 4 単位以上、III 類から 10 単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
電気設備・法規	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
物理学の基礎	1
生物学概論 I	2
生物学概論 II	2
地学概論 I	2

地学概論 II	2	人間と情報システム II	1
人権教育論	2	情報ネットワーク	2
教育課程論	2	プログラミングC言語 I	2
教科教育法 A(情報)	2	アルゴリズムとデータ構造入門	2
教科教育法 B(情報)	2	情報システム演習実験 I	2
教育教育法 A1(数学)	2	情報システム演習実験 II	2
教育教育法 A2(数学)	2	データ工学	2
教育教育法 B(数学)	2	情報システム応用	2
教育教育法 C(数学)	2	情報システム演習実験 III	2
教育実習指導	1	ソフトウェア工学	2
教育実習 A	2	画像工学	2
教育実習 B	2	オペレーティングシステム	2
教育実習 C	4	社会情報システム	2
教職実践演習(中・高)	2	技術英語	2
特別ニーズ教育論	2	マルチメディア信号処理	2

情報システムデザイン学科

人材養成目的

情報システムデザイン学科は、情報システム設計について、情報科学・情報工学を基礎から発展へと体系的に学ぶことができる教育カリキュラムをとおして、社会や生活に役立つ新しい情報システムを設計・開発するために必要な知識・技術を身に付けて、企画・設計・開発ができる技能を有し、幅広い分野で活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

計算機構成論	2
論理回路	2
プログラミング J a v a I	2
プログラミング J a v a II	2
人間と情報システム I	1

卒業論文 I	2
卒業論文 II	2

○選択科目

A群 I 類

A I - 1 a	
数理統計学	2
線形代数学 I	2
解析学 I	2
情報数学の基礎	2

A I - 1 b

システムと制御の数理	2
応用数理解析	2
数値解析	2
多変量解析	2
A I - 2	
物理学の基礎	2

数学の基礎 I	2	システム情報学 II	2
数学の基礎 II	2	知的財産権	2
線形代数学 II	2	学外実習 1	2
解析学 II	2	学外実習 2	2
論理表現	2	A群II類	
シミュレーション基礎演習	2	メカトロニクス基礎	2
情報科学基礎	2	センシング制御工学	2
情報システム概論	2	フーリエ解析	2
情報表現	2	情報理論	2
システム情報学基礎	2	ロボティクス	2
ソフトウェア設計技法	2	不規則信号論	2
連続表現	2	情報セキュリティ	2
電気の基礎	2	ワイヤレス通信	2
プログラミング J a v a III	2	符号理論	2
マルチエージェント工学	2	データベースシステム	2
ヒューマンインタフェース	2	知識情報処理	2
コラボレーション工学	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
情報システムと文化	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
システム情報学 I	2	ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として	
情報システム実習	1	卒業必要単位に算入される。	
特別演習実習	2	B群I類	
プログラミングC言語 II	2	第一外国語科目	
プログラミングC言語 III	2	Academic English for Science 1	1
ネットワーク応用	2	Academic English for Science 2	1
ネットワークシステム構成論	2	Academic English for Science 3	1
インテリジェントアルゴリズム	2	Academic English for Science 4	1
人工知能	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
自然言語処理	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
画像処理	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
システムプログラミング	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	
特別講義	2	準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B群	
e-ラーニング	2	I類の単位に認定する。	

B群Ⅱ類

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

情報と社会	2
情報メディア実習	1
情報通信ネットワーク実習	1

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目

B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目44単位、選択科目84単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はⅠ類から44単位以上(うちAⅠ-1aから2単位以上、AⅠ-1bから2単位以上、AⅠ-2から40単位以上)を含めて54単位以上履修しなければならない。B群はⅠ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

人権教育論	2
教育課程論	2
通信ネットワーク	2
情報メディア	2
代数学	2
幾何学Ⅰ	2
幾何学Ⅱ	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A(情報)	2
教科教育法 B(情報)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

電 気 工 学 科

人材養成目的

電気工学科は、電気工学に関連する基礎知識及び最先端技術について、実験を重視した体験的な学修をとおして、電気工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において独創的で高度な課題解決能力を有するエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		単 位
〇必修科目		複素解析	2
		フーリエ解析	2
		数値解析	2
		数理統計学	2
		基礎物理学 I	2
		基礎物理学 II	2
		基礎物理学 II 演習	1
		振動と波動	2
		A I - 1 b	
		電子回路	2
		電気・電子計測 I	2
		電気エネルギー工学 I	2
		パワーエレクトロニクス	2
		過渡現象論	2
		分布定数回路論	2
		電気電子材料	2
		A I - 2	
		高電圧工学	2
		電気機器学 I	2
		電気機器学 II	2
		電気エネルギー工学 II	2
		アナログ電子回路	2
		デジタル電子回路	2
		コンピュータプログラミング II	1
〇選択科目		電気・電子計測 II	2
A 群 I 類		コンピュータ応用解析	2
A I - 1 a		コンピュータシステム入門	2
解析学 I	2	応用力学	2
解析学 II	2	熱統計力学	2
線形代数学	2	量子力学	2
ベクトル幾何	2	デジタル制御	2
微分方程式	2	プラズマ工学	2

電気設備・法規	2	ただし、協定校単位互換科目は、10単位を限度として
電気機器設計法	2	卒業必要単位に算入される。
制御工学	2	B群Ⅰ類
環境電磁工学	2	第一外国語科目
メカトロニクス	2	Academic English for Science 1 1
インフラストラクチャ概論	2	Academic English for Science 2 1
電気電子工学入門	2	Academic English for Science 3 1
特別講義 A	2	Academic English for Science 4 1
特別講義 B	2	選択科目B群Ⅰ類(第一外国語科目)は、上記科目及び
学外実習 1	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、
学外実習 2	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。
A群Ⅱ類		なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水
電磁波論	2	準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群
超音波エレクトロニクスⅠ	2	Ⅰ類の単位に認定する。
超音波エレクトロニクスⅡ	2	B群Ⅱ類
アンテナ工学	2	第二外国語科目
情報理論	2	選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養
通信方式	2	教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリ
マイクロ波工学	2	ア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から
光通信工学	2	選択履修すること。
光エレクトロニクス	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を
シグナルプロセッシング	2	上限として卒業必要単位に算入する。
伝送線路論	2	B群Ⅲ類
電子デバイスⅠ	2	選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科
電子デバイスⅡ	2	目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティ
固体物性論	2	ブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自
電子工学実験Ⅰ	2	然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、
電子工学実験Ⅱ	2	保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互
放射線科学	2	換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュ
知的財産権	2	ービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認め
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必		られる科目から選択履修すること。
要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス

1 から 4 単位, その他の保健体育科目から 4 単位, 計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は, 外国人留学生に限る。外国人留学生科目は, 日本語・日本文化教育科目から選択履修し, 日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX), 日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX), ビジネス日本語 C, D のうち 4 単位を, 選択科目 B 群 II 類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は, 選択科目 B 群 III 類の単位として, 卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 30 単位, 選択科目 98 単位以上, 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし, 選択科目については, A 群は I 類から 60 単位以上(うち A I-1 a から 20 単位以上, A I-1 b から 10 単位以上), B 群は I 類から 8 単位以上, II 類から 4 単位以上, III 類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2

教科教育法 C(数学)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
特別ニーズ教育論	2

電 子 工 学 科

人材養成目的

電子工学科は, 電子工学に関連する基礎知識及び最先端技術について, 実験を重視した体験的な学修をとおし、電子工学の基本的知識とそれを応用・展開する能力を身に付けて, 民間企業や官民の研究機関, 教育機関等においてダイナミックな技術革新に柔軟に対応できるエンジニアとして活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
電気磁気学 I	3
電気磁気学 II	3
電気回路学 I	3
電気回路学 II	3
コンピュータプログラミング I	1
基礎演習実験	2
電気基礎実験 I	2
電気基礎実験 II	2
電気基礎実験 III	2
電子工学実験 I	2
電子工学実験 II	2
ゼミ演習	1
卒業論文 I	2
卒業論文 II	2

○選択科目		電気・電子計測 II	2
A群 I 類		アナログ電子回路	2
A I - 1 a		デジタル電子回路	2
解析学 I	2	光エレクトロニクス	2
解析学 II	2	コンピュータシステム入門	2
線形代数学	2	応用力学	2
ベクトル幾何	2	熱統計力学	2
微分方程式	2	光通信工学	2
複素解析	2	通信方式	2
フーリエ解析	2	情報理論	2
数値解析	2	過渡現象論	2
数理統計学	2	固体物性論	2
基礎物理学 I	2	電子デバイス II	2
基礎物理学 II	2	インフラストラクチャ概論	2
基礎物理学 II 演習	1	電気電子工学入門	2
振動と波動	2	特別講義 A	2
A I - 1 b		特別講義 B	2
電子回路	2	学外実習 1	2
電気・電子計測 I	2	学外実習 2	2
伝送線路論	2	A群 II 類	
電磁波論	2	電気機器学 I	2
電子デバイス I	2	電気機器学 II	2
シグナルプロセッシング	2	電気エネルギー工学 I	2
電気電子材料	2	電気エネルギー工学 II	2
A I - 2		制御工学	2
アンテナ工学	2	デジタル制御	2
超音波エレクトロニクス I	2	パワーエレクトロニクス	2
超音波エレクトロニクス II	2	高電圧工学	2
マイクロ波工学	2	プラズマ工学	2
量子力学	2	メカトロニクス	2
コンピュータ応用解析	2	環境電磁工学	2
コンピュータプログラミング II	1	電気工学実験 I	2

電気工学実験 II	2	ブ・ジャパン科目, 人文科学系科目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科目, プロジェクト科目, 保健体育科目), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち, 卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。
電気設備・法規	2	
電気機器設計法	2	
放射線科学	2	
知的財産権	2	

上記の科目に加え, 協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし, 協定校単位互換科目は, 10 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

B 群 I 類

第一外国語科目

Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は, 上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち, 卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお, TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は, 4 単位を限度として, B 群 I 類の単位に認定する。

B 群 II 類

第二外国語科目

選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は, 全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち, 卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし, 英語以外の各外国語の会話科目は, 2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B 群 III 類

選択科目 B 群 III 類は, 全学共通教養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際教養科目, クリエイティ

ただし, 保健体育科目は, スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位, その他の保健体育科目から 4 単位, 計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は, 外国人留学生に限る。外国人留学生科目は, 日本語・日本文化教育科目から選択履修し, 日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX), 日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX), ビジネス日本語 C, D のうち 4 単位を, 選択科目 B 群 II 類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は, 選択科目 B 群 III 類の単位として, 卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 30 単位, 選択科目 98 単位以上, 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし, 選択科目については, A 群は I 類から 60 単位以上(うち A I - 1 a から 20 単位以上, A I - 1 b から 10 単位以上), B 群は I 類から 8 単位以上, II 類から 4 単位以上, III 類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上を含めて 22 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
幾何学 I	2

幾何学 II	2	確率・統計 I	2
人権教育論	2	物理学 I	2
教育課程論	2	工業材料 I	2
代数学	2	力学 I	2
教科教育法 A1(数学)	2	材料力学 I	2
教科教育法 A2(数学)	2	材料加工 I	2
教科教育法 B(数学)	2	熱力学 I・同演習	2
教科教育法 C(数学)	2	流れ学 I・同演習	2
教育実習指導	1	機械力学 I・同演習	2
教育実習 A	2	制御工学 I・同演習	2
教育実習 B	2	機械物理実験	2
教育実習 C	4	機械工学実験	2
教職実践演習(中・高)	2	製図学	2
特別ニーズ教育論	2	機械製作法	2

機 械 シ ス テ ム 工 学 科

人材養成目的

機械システム工学科は、ものづくりを原点とする最先端技術に必要な機械システムの構築と創成に関わる技術分野について、講義と実習をとおして、それらの基礎を十分に学習し、次世代の機械とシステムの技術開発や問題解決を行う技術者としての能力と、それらを自らの良心に基づき運用できる技術者としての倫理観を身に付けて、安全・安心な社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

科 目

履修単位

○必修科目

機械工学概論	2
線形代数学 I	2
線形代数学 II	2
解析学 I	2
解析学 II	2

機械製図学	2
機械設計製作	2
機械設計製図	2
機械設計法 I	2
英書講読	1
卒業論文 I	2
卒業論文 II	2
○選択科目	
A群 I 類	
必修選択科目	
応用数学 I	2
コンピュータプログラミング	2
力学 II	2
材料力学 II	2
熱力学 II・同演習	2
流れ学 II・同演習	2
機械力学 II・同演習	2
制御工学 II・同演習	2

機械設計法 II	2	工業材料 II	2
選択科目 A 群 I 類については、上記に掲げるすべての科目を登録し、授業を受けなければならない。		材料加工 II	2
A 群 II 類		材料力学 I 演習	2
専門系共通選択科目		材料力学 II 演習	2
A II - 1		材料力学 III	2
工学共通科目		連続体力学	2
数学基礎 1	1	流体工学	2
数学基礎 2	1	伝熱工学	2
物理基礎 1	1	流れ学 III	2
物理基礎 2	1	熱力学 III	2
管理工学	2	デジタル制御・同演習	2
電気回路基礎	2	機械力学 III	2
電子回路基礎	2	制御工学 III	2
機械工学基礎科目		弾性力学	2
数値計算・同演習	2	塑性力学	2
数値シミュレーション	2	エネルギー変換工学	2
コンピュータ支援設計	2	移動現象論	2
計測工学	2	知的財産権	2
機械設計法演習	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 1	2	ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
学外実習 2	2		
特別機械工学実験	2	B 群 I 類	
A II - 2		第一外国語科目	
機械工学専門科目		Academic English for Science 1	1
応用数学 II	2	Academic English for Science 2	1
フーリエ・ラプラス解析	2	Academic English for Science 3	1
物理学 II	2	Academic English for Science 4	1
複素解析	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
解析力学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
確率・統計 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
統計力学	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	

準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群I類の単位に認定する。

B群II類

第二外国語科目

選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群III類

選択科目B群III類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びティュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

教職選択科目

数理統計学	2
生物学概論 I	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
コンピュータと数学	2

地学実験	1
物理実験	2
生物学実験	1
化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群II類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群III類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目51単位、選択科目77単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群I類から10単位以上、A群II類から36単位以上(うちAⅡ-1から8単位以上)、B群(うちI類から8単位以上、II類から4単位以上、III類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)及びC群から18単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
有機化学 I	2
有機化学 II	2
有機化学 III	2
有機化学 IV	2
生物学概論 II	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2

教科教育法 C (数学)	2	解析学 II	2
代数学 III	2	確率・統計 I	2
応用幾何学	2	物理学 I	2
人権教育論	2	工業材料 I	2
教育課程論	2	力学 I	2
教科教育法 A1(理科)	2	材料力学 I	2
教科教育法 A2(理科)	2	材料加工 I	2
教科教育法 B (理科)	2	熱力学 I・同演習	2
教科教育法 C (理科)	2	流れ学 I・同演習	2
教育実習指導	1	機械力学 I・同演習	2
教育実習 A	2	制御工学 I・同演習	2
教育実習 B	2	機械物理実験	2
教育実習 C	4	機械工学実験	2
教職実践演習(中・高)	2	製図学	2
特別ニーズ教育論	2	機械製作法	2
		機械製図学	2
		機械設計製作	2
		機械設計製図	2
		機械設計法 I	2
		英書講読	1
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群I類	
		必修選択科目	
		応用数学 I	2
		コンピュータプログラミング	2
		力学 II	2
		材料力学 II	2
		熱力学 II・同演習	2
		流れ学 II・同演習	2
		機械力学 II・同演習	2
教科教育法 C (数学)	2		
代数学 III	2		
応用幾何学	2		
人権教育論	2		
教育課程論	2		
教科教育法 A1(理科)	2		
教科教育法 A2(理科)	2		
教科教育法 B (理科)	2		
教科教育法 C (理科)	2		
教育実習指導	1		
教育実習 A	2		
教育実習 B	2		
教育実習 C	4		
教職実践演習(中・高)	2		
特別ニーズ教育論	2		
機 械 理 工 学 科			
人材養成目的			
機械理工学科は、自然科学の原理を理解しその応用を可能とする技術分野について、講義と実習をとおし、それらの基礎を十分に学習し、地球資源の有効利用や環境に優しい機械に関する技術を開発する技術者としての能力と、それらを自らの良心に基づき運用できる技術者としての倫理観を身に付けて、理工学の視点を有し、持続可能な社会の構築に貢献する人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
機械工学概論	2		
線形代数学 I	2		
線形代数学 II	2		
解析学 I	2		

制御工学 II・同演習	2	統計力学	2
機械設計法 II	2	工業材料 II	2
選択科目 A 群 I 類については、上記に掲げるすべての科目を登録し、授業を受けなければならない。		材料加工 II	2
A 群 II 類		材料力学 I 演習	2
専門系共通選択科目		材料力学 II 演習	2
A II - 1		材料力学 III	2
工学共通科目		連続体力学	2
数学基礎 1	1	流体工学	2
数学基礎 2	1	伝熱工学	2
物理基礎 1	1	流れ学 III	2
物理基礎 2	1	熱力学 III	2
管理工学	2	デジタル制御・同演習	2
電気回路基礎	2	機械力学 III	2
電子回路基礎	2	制御工学 III	2
機械工学基礎科目		弾性力学	2
数値計算・同演習	2	塑性力学	2
数値シミュレーション	2	エネルギー変換工学	2
コンピュータ支援設計	2	移動現象論	2
計測工学	2	知的財産権	2
機械設計法演習	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 1	2	ただし、協定校単位互換科目は、8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
学外実習 2	2		
特別機械工学実験	2	B 群 I 類	
A II - 2		第一外国語科目	
機械工学専門科目		Academic English for Science 1	1
応用数学 II	2	Academic English for Science 2	1
フーリエ・ラプラス解析	2	Academic English for Science 3	1
物理学 II	2	Academic English for Science 4	1
複素解析	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
解析力学	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
確率・統計 II	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	

なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群 I 類の単位に認定する。

B 群 II 類

第二外国語科目

選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B 群 III 類

選択科目 B 群 III 類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C 群

教職選択科目

数理統計学	2
生物学概論 I	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
代数学	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2

コンピュータと数学	2
地学実験	1
物理実験	2
生物学実験	1
化学実験	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX)、ビジネス日本語 C、D のうち 4 単位を、選択科目 B 群 II 類のうち種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目 B 群 III 類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 51 単位、選択科目 77 単位以上、合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A 群 I 類から 10 単位以上、A 群 II 類から 36 単位以上(うち A II-1 から 8 単位以上)、B 群(うち I 類から 8 単位以上、II 類から 4 単位以上、III 類のうち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上)及び C 群から 18 単位以上履修しなければならない。

○自由科目

環境経済学	2
生物学概論 II	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
人権教育論	2
教育課程論	2

教科教育法 A1(理科)	2	線形代数学 I	2
教科教育法 A2(理科)	2	線形代数学 II	2
教科教育法 B(理科)	2	物理学 I	2
教科教育法 C(理科)	2	物理学 II	2
教育実習指導	1	物理化学 I	2
教育実習 A	2	物理化学 II	2
教育実習 B	2	物理化学 III	2
教育実習 C	4	物理化学 IV	2
教職実践演習(中・高)	2	物理化学 V	2
代数学 III	2	分析化学 I	2
応用幾何学	2	分析化学 II	2
有機化学 I	2	無機化学 I	2
有機化学 II	2	無機化学 II	2
有機化学 III	2	有機化学 I	2
有機化学 IV	2	有機化学 II	2
特別ニーズ教育論	2	有機化学 III	2
		有機化学 IV	2
		物理実験	2
		基礎化学実験 I	3
		基礎化学実験 II	3
		化学実験 I	3
		化学実験 II	3
		高分子化学 I	2
		生命化学 I	2
		生命化学 II	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
機能分子・生命化学科			
人材養成目的			
機能分子・生命化学科は、化学と化学技術について、			
教育と先端的な研究をとおして、また、本学の教育理念			
(自由主義・キリスト教主義・国際主義)に基づき、環境			
や生命を意識したナノ・バイオを含む化学の基礎と応用			
に関する幅広い学術的な知識・技術を身に付けて、「機能			
分子創成及び生命現象解明の化学」に関連する工学・薬			
学・医学に貢献できる独創性にあふれ、問題解決能力を備			
えた人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位	○選択科目	
○必修科目		A群I類	
工学倫理	2	A I - 1	
解析学 I	2	無機構造論	2
解析学 II	2	高分子化学 II	2

分子分光學 I	2	特別講義 II	2
分子分光學 II	2	特別講義 III	2
機能分子計測学	2	特別講義 IV	2
有機反応論 I	2	応用数学 I	2
有機反応論 II	2	応用数学 II	2
タンパク質化学	2	学外実習 1	2
遺伝子工学	2	学外実習 2	2
高分子化学 III	2	界面・コロイド工学	2
錯体化学	2	拡散分離工学 I	2
A I - 2		電気電子材料	2
化学工学 I	2	プロセス設計	2
化学工学 II	2	プロセス制御	2
A I - 3		知的財産権	2
物理学演習	2	生物学概論 I	2
物理化学演習 I	2	生物学概論 II	2
物理化学演習 II	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必 要単位と認められる科目から選択履修すること。	
有機化学演習 I	2	ただし、協定校単位互換科目は、12 単位を限度として 卒業必要単位に算入される。	
有機化学演習 II	2		
A 群 II 類		B 群 I 類	
プログラミング演習	2	第一外国語科目	
外国書講読(英)	2	Academic English for Science 1	1
無機反応論	2	Academic English for Science 2	1
無機応用化学 I	2	Academic English for Science 3	1
無機応用化学 II	2	Academic English for Science 4	1
無機機能物質化学	2	選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び 全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、 卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。 なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水 準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群 I 類の単位に認定する。	
統計力学	2		
高分子化学 IV	2		
有機機能物質化学	2		
SDGs と化学	2		
生物無機化学	2		
環境科学	2		
特別講義 I	2	B 群 II 類	

第二外国語科目

選択科目B群Ⅱ類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群Ⅲ類

選択科目B群Ⅲ類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群Ⅲ類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目64単位、選択科目64単位以上(ただし、A群はAⅠ-1から16単位以上、AⅠ-2から2単位以上、AⅠ-3から6単位以上を含めて42単位以上、B群はI

Ⅱ類から8単位以上、Ⅱ類から4単位以上、Ⅲ類から4単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上)、合計128単位以上を履修しなければならない。

○自由科目

基礎物理	2
数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
数理統計学	2
製図学	2
生物学実験	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
幾何学 I	2
幾何学 II	2
確率・統計 I	2
確率・統計 II	2
コンピュータと数学	2
教育実習指導	1
教職実践演習(中・高)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
人権教育論	2
教育課程論	2
工業数学演習 II	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1

特別ニーズ教育論	2	拡散分離工学 I	2
		機械的分離工学	2
化学システム創成工学科		化学システム創成工学概論	2
人材養成目的		物理実験	2
化学システム創成工学科は、持続可能な社会・環境づくりに貢献していく化学技術について、本学の教育理念であるキリスト教主義・自由主義・国際主義をとおして、化学及び化学工学を基盤とする工学全般にわたる幅広い学術的な知識・技術を身に付けて、地球環境、資源・エネルギー、バイオテクノロジーなどが関わる諸問題を解決することができる「新しい化学システムの創成」に貢献する人材を養成することを目的とする。		化学工学量論 I	2
		化学工学量論 II	2
		基礎化学実験 I	3
		基礎化学実験 II	3
		化学システム工学実験 I	3
		化学システム工学実験 II	3
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
科 目	履修単位	○選択科目	
○必修科目		A群 I 類	
線形代数学 I	2	工学倫理	2
線形代数学 II	2	プログラミング法 II	2
解析学 I	2	拡散分離工学 II	2
解析学 II	2	工業数学演習 I	2
物理学 I	2	工業数学演習 II	2
物理学 II	2	工業数学演習 III	2
プログラミング法 I および演習	2	物理化学 IV	2
無機化学 I	2	物理化学 V	2
無機化学 II	2	生物化学	2
物理化学 I	2	機器分析 I	2
物理化学 II	2	機器分析 II	2
物理化学 III	2	化学工学演習	2
分析化学 I	2	科学英語	2
分析化学 II	2	特別講義 I	2
有機化学 I	2	特別講義 II	2
有機化学 II	2	高分子化学	2
反応工学 I	2	移動現象論 II	2
移動現象論 I	2	材料力学	2

反応工学 II	2	I 類の単位に認定する。	
粉体工学	2	B 群 II 類	
生物化学工学	2	第二外国語科目	
プロセス制御	2	選択科目 B 群 II 類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
界面・コロイド工学	2		
プロセス設計	2		
材料プロセス工学	2		
物理化学演習	2	ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2 単位を上限として卒業必要単位に算入する。	
A 群 II 類			
電子工学概論	2	B 群 III 類	
数理統計学	2	選択科目 B 群 III 類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
製図学	2		
学外実習 1	2		
学外実習 2	2		
電子デバイス I	2		
高分子化学 III	2		
無機反応論	2		
上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス 1 から 4 単位、その他の保健体育科目から 4 単位、計 8 単位を限度として卒業必要単位に算入される。	
ただし、協定校単位互換科目は、6 単位を限度として卒業必要単位に算入される。			
B 群 I 類			
第一外国語科目		C 群	
Academic English for Science 1	1	生物学概論 I	2
Academic English for Science 2	1	生物学概論 II	2
Academic English for Science 3	1	確率・統計 I	2
Academic English for Science 4	1	確率・統計 II	2
		コンピュータと数学	2
選択科目 B 群 I 類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。		○外国人留学生科目	
なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4 単位を限度として、B 群		外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 1(文法 IX)、日本語 2(アカデミック・リーディン	

グAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ), ビジネス日本語C, Dのうち4単位を, 選択科目B群Ⅱ類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は, 選択科目B群Ⅲ類の単位として, 卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目 64 単位, 選択科目 64 単位以上(ただし, A群はⅠ類から 34 単位以上を含めて 42 単位以上, B群はⅠ類から 8 単位以上, Ⅱ類から 4 単位以上, Ⅲ類から 4 単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目 2 単位以上), C群を含めて 22 単位以上), 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

○自由科目

基礎物理	2
数学基礎 1	1
数学基礎 2	1
環境経済学	2
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
幾何学 I	2
幾何学 II	2
人権教育論	2
教育課程論	2
代数学 III	2
応用幾何学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2

教科教育法 C(理科)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2
代数学	2
生物学実験	1
特別ニーズ教育論	2

環境システム学科

人材養成目的

環境システム学科は, 環境科学について, 自然科学分野の横断的な知識をもとにシステムとしての環境の特質を理解することをとおして, 問題を発見し, 論理的な思考と豊かな発想を持って科学的に分析する能力, そして学際的な素養をもとに問題を解決する能力を身に付けて, 各種産業界や研究・教育機関等において貢献する人材を養成することを目的とする。

科目 履修単位

○必修科目

線形代数学 I	2
線形代数学 II	2
解析学 I	2
解析学 II	2
物理学 I	2
物理学 II	2
無機化学	2
有機化学 I	2
生物学 I	2
生物学 II	2
地球科学 I	2

地球科学 II	2	プログラミング II	2
環境システム学概論	2	地圏環境科学	2
環境システム基礎実験 A	1	動物行動学	2
環境システム基礎実験 B	2	人間環境科学	2
環境システム基礎実験 C	1	地域環境学	2
科学技術論	2	都市環境学	2
環境システム応用実験 A	2	数理統計学 I	2
環境システム応用実験 B	2	数理統計学 II	2
卒業論文 I	2	数値計算	2
卒業論文 II	2	環境シミュレーション	2
○選択科目		化学熱力学	2
A群 I 類		電気化学	2
必修選択科目		環境経済学	2
環境物質科学 I	2	地球システム科学	2
環境物質科学 II	2	地球環境変動論	2
地球環境科学 I	2	地球ダイナミクス	2
地球環境科学 II	2	地球観測技術	2
環境地球化学	2	環境影響評価	2
資源・エネルギー学 I	2	自然災害論	2
資源・エネルギー学 II	2	防災科学	2
生命環境科学	2	エネルギー環境学	2
地球物質科学	2	エネルギー反応論	2
生態学	2	保全生態学	2
A群 II 類		生物資源学	2
A II - 1		A II - 2	
環境系選択科目		工学系選択科目	
物理学基礎	2	移動現象論 I	2
生物学基礎	2	アナログ電子回路	2
有機化学 II	2	分析化学 I	2
応用数学 I	2	分析化学 II	2
応用数学 II	2	熱統計力学	2
プログラミング I	2	応用力学	2

電気電子材料	2
デジタル電子回路	2
超音波エレクトロニクス II	2
移動現象論 II	2
生物化学工学	2
知的財産権	2
学外実習 1	2
学外実習 2	2

上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、協定校単位互換科目は、8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

B群I類

第一外国語科目

Academic English for Science 1	1
Academic English for Science 2	1
Academic English for Science 3	1
Academic English for Science 4	1

選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。なお、TOEIC等外国語能力に関する判定試験で一定の水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群I類の単位に認定する。

B群II類

第二外国語科目

選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群III類

選択科目B群III類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修し、日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群II類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群III類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目40単位、選択科目88単位以上、合計128単位以上を履修すること。

ただし、選択科目については、A群はI類から16単位以上、AⅡ-1から36単位以上を含めて56単位以上、B群はI類から8単位以上、II類から4単位以上、III類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

数学基礎 1

1

数学基礎 2	1	数学演習 II	1
人権教育論	2	確率・統計基礎	2
教育課程論	2	数理システム演習 I	2
物理実験	2	数理システム演習 II	2
教科教育法 A1(理科)	2	数理システム演習 III	2
教科教育法 A2(理科)	2	数理システム演習 IV	2
教科教育法 B(理科)	2	コンピュータ入門	2
教科教育法 C(理科)	2	情報処理入門	2
教育実習指導	1	コンピュータプログラミング I	2
教育実習 A	2	コンピュータプログラミング II	2
教育実習 B	2	数理ゼミナール I	2
教育実習 C	4	数理ゼミナール II	2
教職実践演習(中・高)	2	卒業論文 I	2
特別ニーズ教育論	2	卒業論文 II	2

○選択科目

数 理 シ ス テ ム 学 科

A群I類

人材養成目的

物理学 I 2

数理システム学科は、数理科学について、講義、問題演習及び、コンピュータ実習をとおして、数学を中心とする理学的素養及びコンピュータを用いて様々な問題を具体的に解く能力と統計処理能力を身に付けて、情報・金融関連産業など高度な数学的能力を必要とする企業や、次世代の高度な理数能力の養成を担う教育機関、または数理科学の研究機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

物理学 II 2

複素解析 2

フーリエ・ラプラス解析 2

集合と位相 2

微分方程式 2

ベクトル解析 2

代数学 I 2

代数学 II 2

代数学 III 2

幾何学 I 2

幾何学 II 2

数学演習 III 1

数学演習 IV 1

数理モデル 2

離散数理 2

科 目 履修単位

○必修科目

解析学 I 4

解析学 II 4

線形代数学 I 2

線形代数学 II 2

数学演習 I 1

確率・統計	2	言語理論	2
数理統計	2	情報理論	2
応用微分方程式	2	電気磁気学 I	3
積分論	2	電気磁気学 II	3
応用解析学	2	応用力学	2
応用代数学	2	化学工学 I	2
応用幾何学	2	環境物質科学 I	2
数学史	2	生命環境科学	2
数値解析 I	2	地球環境科学 II	2
数値解析 II	2	デジタル信号処理	2
データサイエンス I	2	不規則信号論	2
データサイエンス II	2	符号理論	2
金融・投資の統計科学	2	画像処理	2
数理計画法	2	統計力学	2
計算代数 I	2	工業材料 II	2
計算代数 II	2	管理工学	2
応用数学 I	2	量子力学	2
応用数学 II	2	化学工学 II	2
数理システム特別講義	2	上記の科目に加え、協定校単位互換科目のうち卒業必	
学外実習 1	2	要単位と認められる科目から選択履修すること。	
学外実習 2	2	ただし、協定校単位互換科目は、10 単位を限度として	
A群II類		卒業必要単位に算入される。	
コンピュータグラフィックス	2	B群I類	
工業材料 I	2	第一外国語科目	
有機化学 I	2	Academic English for Science 1	1
有機化学 II	2	Academic English for Science 2	1
無機化学 I	2	Academic English for Science 3	1
無機化学 II	2	Academic English for Science 4	1
基礎物理	2	選択科目B群I類(第一外国語科目)は、上記科目及び	
電気回路基礎	2	全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語のうち、	
電子回路基礎	2	卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
代数構造	2	なお、TOEIC 等外国語能力に関する判定試験で一定の水	

準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、B群I類の単位に認定する。

B群II類

第二外国語科目

選択科目B群II類(第二外国語科目)は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語以外の外国語(イタリア語を除く)のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、英語以外の各外国語の会話科目は、2単位を上限として卒業必要単位に算入する。

B群III類

選択科目B群III類は、全学共通教養教育科目(同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目)、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち、卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。

ただし、保健体育科目は、スポーツ・パフォーマンス1から4単位、その他の保健体育科目から4単位、計8単位を限度として卒業必要単位に算入される。

C群

情報と社会	2
コンピュータネットワーク	2
情報セキュリティ	2
情報通信ネットワーク実習	1
ネットワーク応用	2
ワイヤレス通信	2

○外国人留学生科目

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択

履修し、日本語1(アカデミック・リーディングAVI)～日本語1(文法IX)、日本語2(アカデミック・リーディングAVI)～日本語2(文法IX)、ビジネス日本語C、Dのうち4単位を、選択科目B群II類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は、選択科目B群III類の単位として、卒業必要単位に算入される。

履修方法

必修科目40単位、選択科目88単位以上、合計128単位以上を履修しなければならない。

ただし、選択科目については、A群はI類から40単位以上を含めて52単位以上、B群はI類から8単位以上、II類から4単位以上、III類から10単位以上(うち全学共通教養教育科目の同志社科目及びその関連科目2単位以上)を含めて22単位以上履修しなければならない。

○自由科目

情報メディア	2
情報メディア実習	1
人権教育論	2
デジタル制御・同演習	2
計算機ハードウェア	2
計算機アーキテクチャ	2
通信ネットワーク	2
Cプログラミング III	1
情報システム実習	1
教育課程論	2
コンピュータと数学	2
情報システム工学	2
ネットワークシステム構成論	2
環境経済学	2
教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2

	2	科 目	履修単位
教科教育法 C (数学)	2		
教科教育法 A (情報)	2	○必修科目	
教科教育法 B (情報)	2	微分積分学 I	2
教育実習指導	1	微分積分学 II	2
教育実習 A	2	代数学 I	2
教育実習 B	2	代数学 II	2
教育実習 C	4	化学	2
教職実践演習(中・高)	2	生物学	2
特別ニーズ教育論	2	物理学基礎	2
知識情報処理	2	力学	2
データベースシステム	2	生命医科学概論	2
		製図学基礎	2
		コンピュータプログラミング	2
生 命 医 科 学 部		医工・医情報学概論	2
人材養成目的		材料力学 I	2
生命医科学部は、生命現象の本質を科学的に理解すると同時に、その制御機能を多角的な視点から明らかにする教育研究活動をとおして、生命医科学に関連するさまざまな課題に対して、工学ならびに理学を基盤とする総合的な知識と関連する技術を身に付けて、健康・医療に関する様々な社会的要請に対応できる人材を養成することを目的とする。		物理学 I	2
		人体の構造と機能 I	2
		材料力学 II	2
		応用数理 I	2
		医工学基礎実験	2
		医用設計工学実習 I	2
		材料工学 I	2
		生化学	2
		制御工学 I	2
医 工 学 科		制御工学 II	2
人材養成目的		医工学応用実験	2
医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。		医用設計工学実習 II	2
		卒業論文 I	2
		卒業論文 II	2
		○選択科目	
		A群 I 類	
		A群 I 類-1	

数学基礎	2	臨床医学概論	2
応用数理 II	2	内科学概論	2
物理学 II	2	特別講義	2
コンピュータ演習	2	A群II類-2	
電気回路・電子回路	2	放射線科学	2
電磁気学	2	超音波エレクトロニクス	2
計測工学	2	医用情報処理	2
医用機械設計法	2	医用画像工学	2
基礎数理統計学	2	生物情報	2
応用数理統計学	2	バイオインフォマティクス	2
材料工学 II	2	アンチエイジング	2
熱力学	2	機能的食品医学	2
A群I類-2		神経科学	2
材料力学演習 I	2	脳神経機構学	2
材料力学演習 II	2	ストレス適応科学	2
流体力学	2	バイオマーカー解析学	2
バイオマテリアル	2	解析力学	2
バイオメカニクス	2	統計力学	2
医用ロボット	2	複素解析	2
メカトロニクス	2	B群I類	
BioMEMS	2	選択科目B群I類は、全学共通教養教育科目の外国語	
再生医科学	2	教育科目の英語から選択履修すること。	
外科学概論（病態生理学）	2	なお、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験及び国際	
臨床解剖学概論	2	連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた	
A群II類		者は、4単位を限度として、選択科目B群I類の単位に	
A群II類-1		認定する。	
スポーツ運動学	2	B群II類	
公衆衛生学	2	選択科目B群II類は、全学共通教養教育科目の英語以	
ケア倫理学	2	外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修	
スポーツ・バイオメカニクス	2	すること。	
リハビリテーション医学	2	B群III類	
人体の構造と機能 II	2	日本の憲法	2

教職概論	2	限る。日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語1(文法Ⅸ)，日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)，ビジネス日本語C，ビジネス日本語Dのうち4単位を，選択科目B群Ⅱ類のうち種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は，選択科目B群Ⅲ類の単位として，卒業必要単位に算入される。	
教育原理	2		
発達と学習の心理学	2		
教育制度と学校経営	2		
学校教育社会学	2		
人権教育論	2		
教育課程論	2		
道德教育の理論と実践	2		
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2		
教育方法とICT活用の理論と実践	2		
生徒・進路指導の理論と方法	2		
教育相談の理論と方法	2		
選択科目B群Ⅲ類は，上記の科目に加え，全学共通教養教育科目(同志社科目，キャリア形成支援科目，国際教養科目，クリエイティブ・ジャパン科目，人文科学系科目，社会科学系科目，自然・人間科学系科目，複合領域科目，プロジェクト科目，外国語教育科目，保健体育科目)，他学部設置科目，同志社女子大学単位互換科目，大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。			
C 群			
計算機代数	2		
幾何学Ⅰ	2		
幾何学Ⅱ	2		
応用微分方程式	2		
代数学Ⅲ	2		
ベクトル解析	2		
集合と位相	2		
代数構造	2		
○日本語・日本文化教育科目			
日本語・日本文化教育科目の履修は，外国人留学生に			
		○自由科目	
		教科教育法 A1(数学)	2
		教科教育法 A2(数学)	2
		教科教育法 B(数学)	2
		教科教育法 C(数学)	2
		教科教育法 A1(理科)	2
		教科教育法 A2(理科)	2
		教科教育法 B(理科)	2
		教科教育法 C(理科)	2
		教職実践演習(中・高)	2
		教育実習指導	1
		教育実習 A	2
		教育実習 B	2
		教育実習 C	4
		地学概論Ⅰ	2
		地学概論Ⅱ	2
		地学実験	1
		化学実験	3
		特別ニーズ教育論	2
		スクールインターンシップ	2
		学校図書館サービス論	2
		特別講義アドバンス	2
		医生命基礎実験	2
		ニューロサイエンス入門 1	2
		ニューロサイエンス入門 2	2

科学技術概論 I	2	ツと自然科学基礎, 電子・情報工学, 生体情報, 脳科学	
科学技術概論 II	2	に関する講義や演習, 実験, 卒業研究をとおして, 自発的	
アウトリーチ実習	2	に問題発見・解決を行い, それを伝えることのできる創造	
サイエンスライティング	2	力を身に付けて, 企業や研究所等において活躍する人材を	
サイエンスとインテリジェンス	2	養成することを目的とする。	
サイエンス・ノウ 1	2	科 目	履修単位
サイエンス・ノウ 2	2	○必修科目	
サイエンス・ノウ 3	2	微分積分学 I	2
サイエンス・ノウ 4	2	微分積分学 II	2
サイエンス・ノウ 5	2	線形代数学 I	2
サイエンス・ノウ 6	2	生物学	2
サイエンス・ノウ 7	2	物理科学実験 I	2
ビジネスワークショップ	2	物理学基礎	2
メディカルワークショップ	2	生命医科学概論	2
取材・インタビュー実践講座	2	医工・医情報学概論	2
未知型探索ビジネスワークショップ	2	化学	2
履修方法		知覚情報システム論	2
必修科目 54 単位, 選択科目 74 単位以上, 合計 128 単		エレクトロニクス I	4
位以上を履修しなければならない。		物理科学実験 II	2
ただし, 選択科目については, A群 I 類-1 から 12		エレクトロニクス II	4
単位, I 類-2 から 14 単位を含め A群 I 類から 26 単位		情報処理工学	2
以上, A群 II 類-1 から 8 単位以上を含め A群 II 類から		物理学 I	2
16 単位以上, A群全体から 42 単位以上, B群 I 類から 8		医情報応用実験 I	2
単位以上, B群 II 類から 4 単位以上, B群 III 類から 8 単		医情報応用実験 II	2
位以上を含め B群及び C群から 20 単位以上を履修しな		生化学	2
ければならない。		フーリエ・ラプラス解析	2
		プログラミング I	4
医 情 報 学 科		人体の構造と機能 I	2
人材養成目的		医情報応用実験 III	2
医情報学科は, 生体情報の取得・制御に関する知識や		卒業論文 I	2
技能と, 生体情報処理機構を次世代高度情報システムの		卒業論文 II	2
構築へと展開できる応用力について, 幅広いリベラルアー		○選択科目	

A群Ⅰ類		量子力学	2
A群Ⅰ類-1 a		分析化学	2
医用機器概論	2	A群Ⅱ類	
生物情報概論	2	A群Ⅱ類-1	
複素解析	2	公衆衛生学	2
デジタル信号処理	2	スポーツ運動学	2
知覚認知	2	ケア倫理学	2
計測システム	2	スポーツ・バイオメカニクス	2
プログラミングⅡ	2	人体の構造と機能Ⅱ	2
基礎数理統計学	2	システム生物科学	2
システム思考	2	臨床医学概論	2
構造有機化学	2	内科学概論	2
A群Ⅰ類-1 b		外科学概論(病態生理学)	2
医情報応用実験Ⅳ	2	再生医科学	2
特別演習実習 A	2	アンチエイジング	2
特別演習実習 B	2	薬理学	2
A群Ⅰ類-2		神経科学	2
線形代数学Ⅱ	2	リハビリテーション医学	2
電磁気学	2	臨床解剖学概論	2
電子回路	2	神経情報伝達制御学	2
物理学Ⅱ	2	遺伝情報医学(病態生理学)	2
応用微分方程式	2	脳神経機構学	2
放射線科学	2	特別講義	2
医用情報処理	2	ニューロサイエンス入門 1	2
特別講義 A	2	ニューロサイエンス入門 2	2
特別講義 B	2	A群Ⅱ類-2	
生物情報	2	アナログ電子回路	2
バイオインフォマティクス	2	画像処理	2
応用数理統計学	2	バイオメカニクス	2
超音波エレクトロニクス	2	メカトロニクス	2
プロジェクト実習	2	パターン認識	2
医用画像工学	2	バイオマテリアル	2

BioMEMS	2	教職概論	2
医用ロボット	2	教育原理	2
コンピュータグラフィックス	2	発達と学習の心理学	2
科学技術概論 I	2	教育制度と学校経営	2
科学技術概論 II	2	学校教育社会学	2
アウトリーチ実習	2	人権教育論	2
サイエンスライティング	2	教育課程論	2
サイエンスとインテリジェンス	2	道德教育の理論と実践	2
サイエンス・ナウ 1	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
サイエンス・ナウ 2	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
サイエンス・ナウ 3	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
サイエンス・ナウ 4	2	教育相談の理論と方法	2
サイエンス・ナウ 5	2	選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教養教育科目（同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、複合領域科目、プロジェクト科目、外国語教育科目、保健体育科目）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びチュービンゲン大学IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選択履修すること。	
サイエンス・ナウ 6	2		
サイエンス・ナウ 7	2		
ビジネスワークショップ	2		
メディカルワークショップ	2		
取材・インタビュー実践講座	2		
未知型探索ビジネスワークショップ	2		

B群I類

選択科目B群I類は、全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語から選択履修すること。

なお、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定試験及び国際連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた者は、4単位を限度として、選択科目B群I類の単位に認定する。

B群II類

選択科目B群II類は、全学共通教養教育科目の英語以外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修すること。

B群III類

日本の憲法 2

C群

計算機代数	2
幾何学 I	2
幾何学 II	2
代数学 III	2
ベクトル解析	2
集合と位相	2
代数構造	2

○日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目の履修は、外国人留学生に限る。日本語1(アカデミック・リーディングAVI)～日本

語 1(文法IX), 日本語 2(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法IX), ビジネス日本語 C, ビジネス日本語 Dのうち 4 単位を, 選択科目 B 群 II 類のうち一種類の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は, 選択科目 B 群 III 類の単位として, 卒業必要単位に算入される。

○自由科目

教科教育法 A1(数学)	2
教科教育法 A2(数学)	2
教科教育法 B(数学)	2
教科教育法 C(数学)	2
教科教育法 A1(理科)	2
教科教育法 A2(理科)	2
教科教育法 B(理科)	2
教科教育法 C(理科)	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
地学概論 I	2
地学概論 II	2
地学実験	1
化学実験	3
特別ニーズ教育論	2
スクールインターンシップ	2
学校図書館サービス論	2
製図学基礎	2
特別講義アドバンス	2
医療情報学	2
生物センシング工学	2
生物物理学	2

自己組織化の科学	2
医用画像システム	2
有機合成	2
有機反応 1	2
有機反応 2	2
臨床医学開発	2
神経行動科学	2
応用化学	2
超音波医科学	2
生体情報アルゴリズム	2
バイオメディカルコンピューティング	2
生物音響工学	2
超音波計測	2
データサイエンス	2
スポーツ医学の未来	2

履修方法

必修科目 54 単位, 選択科目 74 単位以上, 合計 128 単位以上を履修しなければならない。

ただし, 選択科目については, A 群 I 類-1 a から 12 単位以上, 1 b から 2 単位以上を含め A 群 I 類から 26 単位以上, A 群 II 類-1 から 8 単位以上, これらを含め A 群全体から 42 単位以上, B 群 I 類から 8 単位以上, B 群 II 類から 4 単位以上, B 群 III 類から 8 単位以上を含め B 群及び C 群から 20 単位以上を履修しなければならない。

医 生 命 シ ス テ ム 学 科

人材養成目的

医生命システム学科は, ヒトをひとつの生命システムと捉え, それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構, さらにはその治療・予防について, 生命科学, 薬学, 基礎医学, 臨床医学に関する講義, ならび

にこれらと密接に関連した実験実習をとおして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
卒業論文 I			2
卒業論文 II			2
○選択科目			
A群 I 類			
		細胞生物学 II	2
		分子生物学 II	2
○必修科目		内科学概論	2
生命医科学概論	2	特別講義 A	2
生物学	2	特別講義 B	2
化学	2	分子創薬科学	2
微生物学	2	バイオマーカー解析学	2
細胞生物学 I	2	アンチエイジング	2
公衆衛生学	2	機能性食品医学	2
医生命基礎実験	2	神経科学	2
医工・医情報学概論	2	神経情報伝達制御学	2
臨床医学概論	2	脳神経機構学	2
人体の構造と機能 I	2	ストレス適応科学	2
ケミカルバイオロジー	2	遺伝情報医学(病態生理学)	2
分子生物学 I	2	外科学概論 (病態生理学)	2
生体物質分析化学	2	再生医科学	2
システム生物科学	2	創薬化学	2
ケア倫理学	2	ニューロサイエンス入門 1	2
ヒトの病理と防御システム I	2	ニューロサイエンス入門 2	2
ヒトの病理と防御システム II	2	スポーツ医学の未来	2
生化学	2	発生遺伝学概論	2
物理学基礎	2	神経機能学	2
コンピュータプログラミング	2	生体データ解析	2
分子生物学実験	2		
人体の構造と機能 II	2	A群 II 類	
人体の構造と機能 III	2	線形代数学 I	2
人体の構造と機能実験	2	線形代数学 II	2
薬理学	2	知覚情報システム論	2
基礎数理統計学	2	数学基礎	2

微分積分学 I	2	科学技術概論 I	2
微分積分学 II	2	科学技術概論 II	2
スポーツ運動学	2	アウトリーチ実習	2
生物情報概論	2	サイエンスライティング	2
電気回路・電子回路	2	サイエンスとインテリジェンス	2
医用機器概論	2	サイエンス・ナウ 1	2
計測工学	2	サイエンス・ナウ 2	2
スポーツ・バイオメカニクス	2	サイエンス・ナウ 3	2
リハビリテーション医学	2	サイエンス・ナウ 4	2
医用情報処理	2	サイエンス・ナウ 5	2
制御工学 I	2	サイエンス・ナウ 6	2
バイオマテリアル	2	サイエンス・ナウ 7	2
バイオメカニクス	2	ビジネスワークショップ	2
BioMEMS	2	メディカルワークショップ	2
放射線科学	2	取材・インタビュー実践講座	2
生物情報	2	未知型探索ビジネスワークショップ	2
バイオインフォマティクス	2	海外キャリアリサーチ	2
応用数理統計学	2	B群I類	
電磁気学	2	選択科目B群I類は、全学共通教養教育科目の外国語	
画像処理	2	教育科目の英語から選択履修すること。	
医用画像工学	2	なお、TOEIC, TOEFL, 実用英語技能検定試験及び国際	
医用機械設計法	2	連合公用語英語検定試験で一定水準以上の成果を修めた	
流体力学	2	者は、4単位を限度として、選択科目B群I類の単位に	
医用ロボット	2	認定する。	
メカトロニクス	2	B群II類	
デジタル信号処理	2	選択科目B群II類は、全学共通教養教育科目の英語以	
知覚認知	2	外の外国語のうちドイツ語又はフランス語から選択履修	
計測システム	2	すること。	
超音波エレクトロニクス	2	B群III類	
臨床解剖学概論	2	日本の憲法	2
電磁気と生命体	2	教職概論	2
特別講義	2	教育原理	2

発達と学習の心理学	2	教科教育法 C(理科)	2
教育制度と学校経営	2	教職実践演習(中・高)	2
学校教育社会学	2	教育実習指導	1
人権教育論	2	教育実習 A	2
教育課程論	2	教育実習 B	2
道德教育の理論と実践	2	教育実習 C	4
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	地学概論 I	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2	地学概論 II	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	地学実験	1
教育相談の理論と方法	2	物理実験	2
選択科目B群Ⅲ類は、上記の科目に加え、全学共通教		化学実験	3
養教育科目(同志社科目, キャリア形成支援科目, 国際		特別ニーズ教育論	2
教養科目, クリエイティブ・ジャパン科目, 人文科学系科		スクールインターンシップ	2
目, 社会科学系科目, 自然・人間科学系科目, 複合領域科		学校図書館サービス論	2
目, プロジェクト科目, 外国語教育科目, 保健体育科目),		特別講義アドバンス	2
他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コ		履修方法	
ンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学		必修科目 56 単位, 選択科目 72 単位以上, 合計 128 単	
IES科目のうち卒業必要単位と認められる科目から選		位以上を履修しなければならない。ただし, 選択科目に	
択履修すること。		ついては, A群からI類 20 単位以上を含め 40 単位以上,	
○日本語・日本文化教育科目		B群I類から 8 単位以上, B群II類から 4 単位以上, B	
日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に		群Ⅲ類から 8 単位以上を含めB群から 20 単位以上を履	
限る。日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本		修しなければならない。	
語1(文法Ⅸ), 日本語2(アカデミック・リーディングA		スポーツ健康科学部	
Ⅵ)～日本語2(文法Ⅸ), ビジネス日本語C, ビジネス日		スポーツ健康科学科	
本語Dのうち4単位を, 選択科目B群Ⅱ類のうち一種類		人材養成目的	
の外国語の単位に代えることができる。その他の科目は,		スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科は, 健康とス	
選択科目B群Ⅲ類の単位として, 卒業必要単位に算入さ		ポーツ活動及び, それらを取り巻く社会環境に関する知	
れる。		見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の知識と理論を総	
○自由科目		合的・体系的に修得し, 地域・社会, 学校教育, スポー	
教科教育法 A1(理科)	2	ツ関連産業及びヘルスケア産業等の現場で, 専門的な立場	
教科教育法 A2(理科)	2		
教科教育法 B(理科)	2		

から、健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位		
		スポーツ医学 A (内科系)	2
		スポーツ医学 B (外科系)	2
		生活習慣病概論	2
		発育発達と老化	2
○必修科目		栄養学	2
基礎科目		学校保健	2
ファースト・イヤー・セミナー	2	スポーツ栄養学	2
スポーツ健康科学論入門	2	スポーツ・バイオメカニクス	2
生理学	2	コンディショニング論	2
スポーツ生理学	2	スポーツ心理学	2
スポーツ社会学	2	スポーツの原理	2
基礎実習	2	スポーツ測定評価論	2
演習科目		メンタル・トレーニング論	2
演習 I	2	コーチング論	2
演習 II	2	スポーツ・マーケティング論	2
演習 III	2	障がい者スポーツ論	2
演習 IV	2	障がい者スポーツ論(応用)	2
卒業研究 A	3	スポーツ統計情報処理	2
卒業研究 B	3	スポーツ倫理学	2
○選択科目		スポーツ・トピックス 1	2
A 群(基幹科目)		スポーツ・トピックス 2	2
健康運動論	2	スポーツ行政論	2
スポーツ政策論	2	スポーツ組織文化論	2
公衆衛生学	2	身体運動制御論	2
スポーツ運動学	2	スポーツ生体ダイナミクス	2
トレーニング論	2	健康教育学	2
スポーツ教育学	2	ヒトの病理と防御システム I	2
A群より 6 単位以上履修すること。		リハビリテーション医学	2
B 群(展開科目)		スポーツ生化学	2
スポーツ機能解剖学	2	薬理学	2
生命医科学概論	2	精神保健論	2
人体の構造と機能 I	2	スポーツマッサージ・テーピング論	2

高齢者スポーツ論	2	スポーツ方法実習(野外活動)	1
競技者育成システム論	2	スポーツ方法実習(バドミントン)	1
スポーツ経済学	2	スポーツ方法実習(フェンシング)	1
スポーツビジネス論	2	スポーツ方法実習(陸上競技)	1
スポーツ人類学	2	スポーツ方法実習(ウォータースポーツ)	1
スポーツ・メディア論	2	スポーツ方法実習(ソフトテニス)	1
スポーツ・マネジメント論	2	スポーツ方法実習(ニュースポーツ)	1
障がい者スポーツ指導論	2	スポーツ指導法実習(フィットネス)	1
スポーツ健康外国書講読 I	2	スポーツ指導法実習(器械運動)	1
スポーツ健康外国書講読 II	2	スポーツ指導法実習(水泳)	1
環境生理学	2	スポーツ指導法実習(バスケットボール)	1
スポーツ分子生物学	2	スポーツ指導法実習(バレーボール)	1
インターンシップ演習	2	スポーツ指導法実習(サッカー)	1
スポーツ健康科学グローバル演習	2	スポーツ指導法実習(卓球)	1
スポーツ健康科学特殊講義 A	2	スポーツ指導法実習(テニス)	1
スポーツ健康科学特殊講義 B	2	スポーツ指導法実習(柔道)	1
B群より 22 単位以上履修すること。		スポーツ指導法実習(剣道)	1
C 群(応用科目)		スポーツ指導法実習(ダンス)	1
C群 I 類		スポーツ指導法実習(スノースポーツ)	1
スポーツ方法実習(フィットネス)	1	スポーツ指導法実習(ゴルフ)	1
スポーツ方法実習(器械運動)	1	スポーツ指導法実習(野外活動)	1
スポーツ方法実習(水泳)	1	スポーツ指導法実習(バドミントン)	1
スポーツ方法実習(バスケットボール)	1	スポーツ指導法実習(陸上競技)	1
スポーツ方法実習(バレーボール)	1	C群 II 類	
スポーツ方法実習(サッカー)	1	スポーツ健康科学特殊講義 S	2
スポーツ方法実習(卓球)	1	スポーツ健康科学応用演習	2
スポーツ方法実習(テニス)	1	C群 I 類より 4 単位以上を含め C群より 6 単位以上履	
スポーツ方法実習(柔道)	1	修すること。	
スポーツ方法実習(剣道)	1	D 群(隣接科目)	
スポーツ方法実習(ダンス)	1	スポーツ健康科学のための自然科学入門 A	2
スポーツ方法実習(スノースポーツ)	1	スポーツ健康科学のための自然科学入門 B	2
スポーツ方法実習(ゴルフ)	1	現代社会論	2

児童・家庭福祉論	2	<p>位、並びに全学共通教養教育科目(外国語教育科目, 「スポーツ・健康の科学A」, 「スポーツ・健康の科学B」, 「スポーツ・健康の科学C」を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学 I E S 科目から 18 単位を含むこと。</p> <p>なお, 全学共通教養教育科目の「スポーツ・パフォーマンス 1」は, 2 単位を上限として卒業単位に算入する。</p> <p>TOEIC, TOEFL 等外部試験において, 一定水準以上の成果を修めた者は, 4 単位を限度として外国語教育科目の英語科目の単位として認定する。</p>	
生物学	2		
発達と学習の心理学	2		
学習心理学 (学習・言語心理学 I)	2		
生理心理学 (神経・生理心理学 I)	2		
学校心理学 (教育・学校心理学)	2		
健康心理学 (健康・医療心理学)	2		
生化学	2		
内科学概論	2		
外科学概論 (病態生理学)	2		
臨床解剖学概論	2		
E 群(教育関連科目)			○日本語・日本文化教育科目
人権教育論	2		日本語・日本文化教育科目の履修は, 外国人留学生に限る。履修した単位は, F 群の必要単位に算入する。なお, 日本語 1(アカデミック・リーディング A VI)～日本語 2(文法 IX), ビジネス日本語 C 及びビジネス日本語 D の単位を英語以外の外国語の単位に代えることができる。
学校教育社会学	2		
保健体育科教育法 A1	2		
保健体育科教育法 A2	2		
教育方法と ICT 活用の理論と実践	2		
保健体育科教育法 B	2	○自由科目	
保健体育科教育法 C	2	教職概論	2
選択科目 A 群, B 群, C 群, D 群, E 群より合計 48 単		教育原理	2
位以上(A 群 6 単位以上, B 群 22 単位以上, C 群 I 類よ		特別ニーズ教育論	2
り 4 単位以上を含め C 群より 6 単位以上を含む)を履修		スクールインターンシップ	2
すること。		教育課程論	2
F 群 (全学共通教養教育科目)		教育制度と学校経営	2
全学共通教養教育科目 (「スポーツ・健康の科学 A」,		道德教育の理論と実践	2
「スポーツ・健康の科学 B」, 「スポーツ・健康の科学 C」		特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
を除く), 他学部設置科目, 同志社女子大学単位互換科		生徒・進路指導の理論と方法	2
目, 大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービ		教育相談の理論と方法	2
ンゲン大学 I E S 科目より 30 単位以上を履修すること。		教職実践演習(中・高)	2
ただし, 全学共通教養教育科目の外国語教育科目のう		教育実習指導	1
ち, 英語 8 単位, ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシ		教育実習 A	2
ア語, スペイン語及びコリア語のうち一つの外国語 4 単		教育実習 B	2

教育実習 C	4	心理学統計法(1)	2
健康運動指導実習	1	心理学統計法(2)	2
上記科目のほか、全学共通教養教育科目(保健体育科目)の「スポーツ・健康の科学A」、「スポーツ・健康の科学B」、「スポーツ・健康の科学C」を履修することができる。		心理学研究法(1)	2
		心理学研究法(2)	2
		ファーストイヤーセミナー	2
		心理学実験(1)	2
自由科目は卒業単位に算入しない。		心理学実験(2)	2
履修方法		心理学実験(3)	2
必修科目 26 単位(卒業研究 A・B 各 3 単位を含む)、選択科目 98 単位以上(A群, B群, C群, D群, E群, F群よりそれぞれの最低必要単位数以上を含む)、合計 124 単位以上を履修すること。		心理学データ解析実習	2
		プレ演習	2
		演習(1)	2
		演習(2)	2
		卒業論文	8
		○選択科目 I	
		A 群(神経・行動)	
		生理心理学(神経・生理心理学 I)	2
		学習心理学(学習・言語心理学 I)	2
		認知心理学(知覚・認知心理学)	2
		精神生理学(神経・生理心理学 II)	2
		感情心理学(感情・人格心理学 I)	2
		神経科学の基礎	2
		行動分析学(学習・言語心理学 II)	2
		比較認知心理学	2
		食行動の心理学	2
		スポーツ心理学	2
		B 群(臨床・社会)	
		パーソナリティ心理学(感情・人格心理学 II)	2
		健康心理学(健康・医療心理学)	2
		環境心理学	2
		臨床社会心理学	2
		心理学的支援法	2
		精神疾患とその治療	2
心 理 学 部			
心 理 学 科			
人材養成目的			
心理学部心理学科は、こころと行動の仕組みとその機能を実証的に明らかにし、それを通じて実社会への貢献を目指す学問である心理学を、専門的な講義及び少人数クラスにおける演習・実習をとおして学び、実証的なものの捉え方、そして基礎・応用心理学に関する高度な知識と技能を身に付け、ひいてはキリスト教主義の精神に基づき、こころの問題を解決する心理学の専門家、広く社会において活躍する人材を養成することを目的とする。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
心理学概論(1)	2		
心理学概論(2)	2		
臨床心理学概論	2		
外国書講読(1)	2		
外国書講読(2)	2		

実験社会心理学(1)(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	2	心理演習	2
実験社会心理学(2)(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	2	心理実習(1)	2
産業・組織心理学	2	心理実習(2)	2
犯罪心理学(司法・犯罪心理学)	2	選択科目Ⅰは、A群、B群及びC群から各6単位以上を含め32単位以上履修すること。なお、32単位を超えて履修した単位は、選択科目Ⅱに算入する。	
交通心理学	2	○選択科目Ⅱ	
リスク心理学	2	学校教育社会学	2
C 群(発達・教育)		教育原理	2
発達心理学	2	道德教育の理論と実践	2
乳幼児心理学	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
障害者・障害児心理学	2	社会科・地理歴史科教育法	2
生徒・進路指導の理論と方法	2	社会科・公民科教育法	2
ヒューマン・モチベーション	2	社会科教育法 1	2
家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅲ)	2	社会科教育法 2	2
高齢者心理学	2	公民科教育法	2
学校心理学(教育・学校心理学)	2	教育制度と学校経営	2
教育相談の理論と方法	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
福祉心理学	2	教育実習 A	2
D 群(共通)		教育実習 B	2
心理学史	2	教育実習 C	4
心理学特論	2	教職概論	2
多変量解析法の基礎	2	教職実践演習(中・高)	2
心理学情報機器基礎	2	教育実習指導	1
心理学実験演習(上級)	2	教育課程論	2
心理学実験プロジェクト演習	2	哲学概論(1)	2
心理的アセスメント	2	哲学概論(2)	2
発達と学習の心理学	2	倫理学概論(1)	2
E 群(公認心理師共通)		倫理学概論(2)	2
公認心理師の職責	2	人文地理学(1)	2
人体の構造と機能及び疾病	2	人文地理学(2)	2
関係行政論	2	地理学総論(1)	2

地理学総論(2)	2	図書館情報資源特論	2
地誌学	2	図書・図書館史	2
日本文化史概説(1)	2	図書館演習	4
日本文化史概説(2)	2	スクールインターンシップ	2
東洋文化史概説(1)	2	学校図書館サービス論	2
東洋文化史概説(2)	2	日本の憲法	2
西洋文化史概説(1)	2	選択科目Ⅱは上記の科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目のうち、学部が定める科目から履修する。	
西洋文化史概説(2)	2		
社会学概論	4		
経済原論	4		
人権教育論	2	ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学IES科目を修得した場合は、その単位を認定することがある。	
学校教育図書館論	2		
読書と豊かな人間性	2		
学校図書館メディアの構成	2	なお、全学共通教養教育科目の同志社科目及び宗教学(1)、宗教学(2)より4単位以上、保健体育科目から2単位以上を含め46単位以上履修すること。	
学習指導と学校図書館	2		
情報メディアの活用	2		
生涯学習概論	2	○選択科目Ⅲ	
図書館情報学概論	2	選択科目Ⅲは、全学共通教養教育科目(外国語教育科目)のうち、学部が定める科目から履修する。英語8単位、英語以外の外国語4単位、計12単位以上を履修すること。	
図書館制度・経営論	2		
図書館情報技術論	2		
図書館情報サービス論Ⅰ	2		
図書館情報サービス論Ⅱ	2	TOEIC, TOEFL等、学部が定める外部試験において、一定水準以上の成果を修めた場合は、4単位を上限として認定する。	
児童サービス論	2		
情報サービス演習Ⅰ	2		
情報サービス演習Ⅱ	2	ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラムにおいて、テュービンゲン大学IES科目を修得した場合は、12単位を上限として認定することがある。	
図書館情報資源概論	2		
情報資源組織論Ⅰ	2	なお、12単位を超えて履修、または認定された単位は、選択科目Ⅱに算入する。	
情報資源組織論Ⅱ	2		
情報資源組織演習Ⅰ	2	○自由科目	
情報資源組織演習Ⅱ	2		
図書館情報学特論	2	特別ニーズ教育論	2
学術情報利用教育論	2	○外国人留学生科目	

外国人留学生科目の履修は、外国人留学生に限る。外国人留学生科目は、日本語・日本文化教育科目から選択履修する。履修した単位は選択科目Ⅱの必要単位に算入する。なお、日本語1(アカデミック・リーディングAⅤ)～日本語1(文法Ⅸ)、日本語2(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)及びビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を選択科目Ⅲの単位に代えることができる。

以上、必修科目42単位(卒業論文8単位を含む)、選択科目Ⅰ32単位以上、選択科目Ⅱ46単位以上、選択科目Ⅲ12単位以上、合計132単位以上を履修すること。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

人材養成目的

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は、グローバル化した社会に対する幅広い教養と国際的センス、強い自立心と倫理観を養わせると同時に、高度で実践的・実用的外国語運用能力を習得させることをとおして、ビジネス関連の諸分野や教育機関、また国際政治や文化交流に係わる非営利事業の諸分野などの国際的舞台上、facilitator, negotiator, administratorとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

英語コース：現代における世界共通言語としての英語の重要性に鑑み、卓越した英語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び英語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、グローバル時代を牽引する人材を養成することを目的とする。

中国語コース：国境を越えて地球規模で展開する中国語の重要性に鑑み、卓越した中国語運用能力を獲得し、

「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び中国語圏文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、中国語圏への架け橋となる人材を養成することを目的とする。

日本語コース：留学生を対象とする日本語コースでは、日本文化・社会への深い造詣を持つ人材育成の重要性に鑑み、卓越した日本語運用能力を獲得し、「国際主義」を体現する人物の育成、すなわち、現代社会のグローバル化の構造と動向に関する理解、及び日本文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力を駆使して、日本と世界を結ぶ架け橋となる人材を養成することを目的とする。

科 目	履修単位
○必修科目	
【各コース共通】	
Introduction to Global Communication	2
Seminar Project 1	2
Seminar Project 2	2
【英語コース】	
Introduction to English-Speaking Cultures	2
Introduction to Japanese Culture	2
Progress in Reading 1	2
Progress in Reading 2	2
Progress in Writing 1	2
Progress in Writing 2	2
Preparation for TOEFL	2
Preparation for Academic Study	2
Communicative Performance 1	4

Communicative Performance 2	4	日本語コミュニケーションの基礎 3	2
Threshold Seminar 1	2	日本語コミュニケーションの基礎 4	2
Threshold Seminar 2	2	ファーストイヤーセミナー	2
Intermediate Seminar 1	2	グローバル化と日本社会 1	2
Intermediate Seminar 2	2	グローバル化と日本社会 2	2
Advanced Seminar 1	2	応用演習 1	2
Advanced Seminar 2	2	応用演習 2	2
【中国語コース】		専門演習 1	2
基幹中国語Ⅰ会話	4	専門演習 2	2
基幹中国語Ⅱ会話	4	ワークショップ現代日本社会 1	2
基幹中国語Ⅲ会話	4	ワークショップ現代日本社会 2	2
基幹中国語Ⅰ講読	4	○選択科目Ⅰ	
基幹中国語Ⅱ講読	4	【英語コース】	
基幹中国語Ⅲ講読	4	A 群(English Proficiency Skills)	
上級中国語精読	2	Business English 1	2
上級中国語ライティング	2	Business English 2	2
基礎演習 1	2	Critical Reading	2
基礎演習 2	2	Critical Writing	2
基礎演習 3	2	Interpretation 1	2
専門演習 1	2	Interpretation 2	2
専門演習 2	2	Advanced Interpretation	2
専門演習 3	2	Translation 1	2
中国総合研究	2	Translation 2	2
【日本語コース】		Preparation for TOEIC	2
プレゼンテーション 1	2	Advanced Communicative Performance 1	2
プレゼンテーション 2	2	Advanced Communicative Performance 2	2
アカデミックライティング 1	2	B 群(Global Issues)	
アカデミックライティング 2	2	Environmental Issues	2
クリティカルリーディング 1	2	Media and Globalization	2
クリティカルリーディング 2	2	Technology and Communication	2
日本語コミュニケーションの基礎 1	2	World Economy and Business	2
日本語コミュニケーションの基礎 2	2	International Political Issues	2

Special Topics in Global Issues 1	2	英語科教育法 C	2
Special Topics in Global Issues 2	2	教育実習指導	1
C 群(Cultural Issues)		教育実習 A	2
Cultural Interaction	2	教育実習 B	2
Intercultural Communication	2	教育実習 C	4
Japanese Culture and Society	2	教職実践演習(中・高)	2
Cultural Issues in Literature	2	英語コースの者は選択科目 I A群から 8 単位以上, B	
Introduction to British Literature	2	群から 6 単位以上, C群から 6 単位以上, D群から 6 単	
Introduction to American Literature	2	位以上, E 群から 1 言語を選択して 6 単位(ただし, 6	
Special Topics in Cultural Issues 1	2	単位を超えて履修した単位は, 卒業要件単位に算入す	
Special Topics in Cultural Issues 2	2	る)に A群~F 群 4 単位を加えた合計 36 単位以上を履	
D 群(Language Issues)		修すること。なお, これに加えて中国語コースの B・	
Knowledge of English	2	C・D群, 日本語コースの B・C・D群からも履修する	
Structure of English	2	ことができる。中国語コースの B・C・D群, 日本語コ	
History of English and World	2	ースの B・C・D群の単位は 6 単位を上限として卒業要	
Englishes	2	件単位に含めることができる。	
Contrastive Study of English and	2	【中国語コース】	
Japanese	2	A 群 1 類(基礎中国語)	
Special Topics in Language Issues 1	2	基幹中国語 I リスニング	1
Special Topics in Language Issues 2	2	基幹中国語 II リスニング	1
E 群(The German, French or Chinese Language)		基幹中国語 III リスニング	1
Communicative Skills in German I	3	基幹中国語 I ライティング	1
Communicative Skills in German II	3	基幹中国語 II ライティング	1
Communicative Skills in French I	3	基幹中国語 III ライティング	1
Communicative Skills in French II	3	基幹中国語応用 1	2
Communicative Skills in Chinese I	3	基幹中国語応用 2	2
Communicative Skills in Chinese II	3	基幹中国語応用 3	2
F 群(English Education)		A 群 2 類(実践的中国語)	
I C T活用基礎	2	ビジネス中国語会話	2
英語科教育法 A1	2	時事中国語	2
英語科教育法 A2	2	中国語コミュニケーション	2
英語科教育法 B	2	中国語速読技法	2

ビジネス中国語ライティング	2	中国語コースの者は選択科目 I A群 1 類から 6 単位以上、	
日中翻訳技法	2	A群 2 類から 8 単位以上、B群から 4 単位以上、C	
中日翻訳技法	2	群から 4 単位以上、D群から 4 単位以上、E群から 8 単	
中国語検定試験特別講座	2	位以上に A群～E群 2 単位を加えた合計 36 単位以上を	
通訳の理論と実践	2	履修すること。E群については、英語を母語とする者、	
B 群(グローバル論)		又はそれに準ずる者は英語コースの選択科目 I E群のド	
中国語圏の経済と貿易	2	イツ語、フランス語いずれかの言語を選択履修するもの	
中国語圏の資源と環境	2	とし、また中国語コースの選択科目 I E群の英語能力試	
現代中国の社会と文化	2	験特殊講座の単位認定を受けることとする。なお、これ	
中国語圏の政治事情	2	に加えて英語コースの B・C・D群、日本語コースの	
C 群(異文化間交渉論)		B・C・D群からも履修することができる。英語コース	
異文化間交渉概論	2	の B・C・D群、日本語コースの B・C・D群の単位は	
日中組織運営論	2	6 単位を上限として卒業要件単位に含めることができ	
国際交流支援論	2	る。	
発信型日本学	2	【日本語コース】	
D 群(中国語論)		A 群(実践日本語)	
中国語文法論	2	ビジネス日本語 1	2
中国語の方言と諸言語	2	ビジネス日本語 2	2
中国語と日本語	2	通訳翻訳の基礎 1	2
コンテンポラリー・チャイニーズ論	2	通訳翻訳の基礎 2	2
E 群(英語)		通訳翻訳の実践 1	2
英語リーディング 1	1	通訳翻訳の実践 2	2
英語リーディング 2	1	時事日本語	2
英語リーディング 3	1	日本語検定試験講座	2
英語リーディング 4	1	B 群(グローバル論)	
英語コミュニケーション 1	1	グローバル化と日本企業	2
英語コミュニケーション 2	1	多文化間コミュニケーション	2
英語コミュニケーション 3	1	多文化共生社会と日本	2
英語コミュニケーション 4	1	多言語社会と言語政策	2
英語リーディング(上級)	2	C 群(日本文化論)	
英語コミュニケーション(上級)	2	日本の現代文学	2
英語能力試験特殊講座	2	日本のマンガとアニメ	2

京都学	2	Communicative Skills in English A1	4
日本のツーリズム	2	Communicative Skills in English A2	4
D 群(日本語論)		Communicative Skills in English B	2
社会の中の日本語	2	Improving German, French or Chinese 1	2
外国語から見た日本語	2	Improving German, French or Chinese 2	2
日本語教育	2	Current Trends in World Business 1	2
日本語コミュニケーションの諸相	2	Current Trends in World Business 2	2
E 群(日本語および第二外国語)		Current Trends in the World Economy 1	2
日本語インテンシヴ 1	3	Current Trends in the World Economy 2	2
日本語インテンシヴ 2	3	Current Trends in World Politics 1	2
英語リーディング 1	1	Current Trends in World Politics 2	2
英語リーディング 2	1	Current Trends in World Environmental	2
英語リーディング 3	1	Policy 1	
英語リーディング 4	1	Current Trends in World Environmental	2
英語コミュニケーション 1	1	Policy 2	
英語コミュニケーション 2	1	Topics in Globalization and Local	2
英語コミュニケーション 3	1	Issues 1	
英語コミュニケーション 4	1	Topics in Globalization and Local	2
英語リーディング(上級)	2	Issues 2	
英語コミュニケーション(上級)	2	Topics in Globalization and Local	2
英語初級インテンシヴ 1	3	Issues 3	
英語初級インテンシヴ 2	3	Topics in Globalization and Local	2
日本語コースの者は選択科目 I A群から 6 単位以上、		Issues 4	
B群から 6 単位以上、C群から 6 単位以上、D群から 6		Topics in Communication and	2
単位以上、E群から 6 単位以上、合わせて 30 単位以上履		Interaction 1	
修すること。なお、英語コースの B・C・D群、中国語コ		Topics in Communication and	2
ースの B・C・D群からも履修することができる。英語コ		Interaction 2	
ース B・C・D群、中国語コース B・C・D群の単位は、		Topics in Communication and	2
6 単位ずつ(合計 12 単位)を上限として卒業要件単位に含		Interaction 3	
めることができる。		Topics in Communication and	2
○選択科目 II		Interaction 4	
【英語コース】		Cultural Survey in Oceania 1	2
		Cultural Survey in Oceania 2	2

Depth in American History 1	2	<p>認定を受けること。ただし研修先大学の本科で修得した科目の中で上記科目に該当しない科目については選択科目Ⅲとして認定可能な場合がある。なお、災害、事故、感染症等により、Study Abroad が実施できなかった場合は、選択科目Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。</p> <p>【中国語コース】</p> <p>展開中国語会話 1 2</p> <p>展開中国語会話 2 2</p> <p>展開中国語会話 3 2</p> <p>展開中国語会話 4 2</p> <p>展開中国語講読 1 2</p> <p>展開中国語講読 2 2</p> <p>展開中国語講読 3 2</p> <p>展開中国語講読 4 2</p> <p>展開中国語作文 1 2</p> <p>展開中国語作文 2 2</p> <p>展開中国語作文 3 2</p> <p>展開中国語作文 4 2</p> <p>中国の社会と文化 1 2</p> <p>中国の社会と文化 2 2</p> <p>中国の社会と文化 3 2</p> <p>中国の社会と文化 4 2</p> <p>中国語コースの者は Study Abroad を通じて、各研修先で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2～30単位の単位認定を受けること。なお、災害、事故、感染症等により、Study Abroad が実施できなかった場合は、選択科目Ⅱの科目を本学で開講し、代替とする場合がある。</p> <p>【日本語コース】</p> <p>日本の伝統文化演習 A 2</p> <p>日本の伝統文化演習 B 2</p> <p>日本の社会実習 A 1</p>
Depth in American History 2	2	
Depth in Oceanian History 1	2	
Depth in Oceanian History 2	2	
Cultural Survey of Japan 1	2	
Cultural Survey of Japan 2	2	
Japan viewed from English-Speaking Countries 1	2	
Japan viewed from English-Speaking Countries 2	2	
Science of Language 1	2	
Science of Language 2	2	
Cultural Survey in Americas 1	2	
Cultural Survey in Americas 2	2	
Cultural Survey in Europe 1	2	
Cultural Survey in Europe 2	2	
Depth in European History 1	2	
Depth in European History 2	2	
Studies on Asian Countries 1	2	
Studies on Asian Countries 2	2	
Basics in Social Science 1	2	
Basics in Social Science 2	2	
Basics in Communication 1	2	
Basics in Communication 2	2	
Art and Communication 1	2	
Art and Communication 2	2	
Human and Science 1	2	
Human and Science 2	2	
Human and Science 3	2	
Human and Science 4	2	
英語コースの者は Study Abroad を通じて、各研修先で単位を修得し、選択科目Ⅱの科目から2単位以上の単位		

日本の社会実習 B 1
日本語コースの者は選択科目Ⅱから3単位以上履修すること。

○選択科目Ⅲ

教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2
発達と学習の心理学	2
特別ニーズ教育論	2
教育課程論	2
道德教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
スクールインターンシップ	2

【英語コース】

選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目の中から14単位以上を履修すること。

ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち、英語に関しては、「English for Academic Purposes 1・2・3」「English for Professional Purposes 1・2」「サマープログラム・英語A・B・C」「スプリングプログラム・英語A・B・C・D」「セメスタープログラム・英語Ⅰ・Ⅱ」「Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1・2」及び「Study Abroad Preparation (IELTS) 1・2」のみ履修することができる。英語以外の外国語に関しては、選択科目IE群で選択した外国語（ドイツ語、フランス

語、中国語）科目のうち、入門Ⅰ・Ⅱ、インテンシヴⅠ・Ⅱは履修することができない。

【中国語コース】

選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目の中から14単位以上を履修すること。

ただし、全学共通教養教育科目の外国語教育科目のうち、英語に関しては、「English for Academic Purposes 1・2・3」「English for Professional Purposes 1・2」「サマープログラム・英語A・B・C」「スプリングプログラム・英語A・B・C・D」「セメスタープログラム・英語Ⅰ・Ⅱ」「Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1・2」及び「Study Abroad Preparation (IELTS) 1・2」のみ履修することができる。英語以外の外国語に関しては、中国語科目を履修することはできない。

【日本語コース】

選択科目Ⅲとして上記科目のほか、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、日本語・日本文化教育科目（ただし、日本事情科目に限る）、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及びテュービンゲン大学IES科目の中から1単位以上を履修すること。

履修方法

【英語コース】

以上、必修科目42単位、選択科目Ⅰから36単位以上、選択科目Ⅱから2単位以上、選択科目Ⅲから14単位以上、合計124単位以上を履修すること。

【中国語コース】

以上、必修科目48単位、選択科目Ⅰから36単位以上、選択科目Ⅱから2～30単位、選択科目Ⅲから14単位以上、合計124単位以上を履修すること。

【日本語コース】	卒業論文	8	
以上、必修科目 44 単位、選択科目 I から 30 単位以上、選択科目 II から 3 単位以上、選択科目 III から 1 単位以上、合計 124 単位以上を履修すること。			
グローバル地域文化学部			
グローバル地域文化学科			
人材養成目的			
グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ 3 つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって国内外のあらゆる場面で活躍し、本学の教育理念のひとつである国際主義を更に推進できる、良心と自由な精神を備えた人物の育成を目的としている。従って、本学部では、世界の中で自身の地歩をしっかりと持つ自立心と獨創性、自身とは異なる価値観を受け入れることのできる、広い識見に支えられた寛容さと柔軟さ、および隣人との関係性の内に地球規模の課題を発見し、希望ある共生社会を構想する高い志を身に付けさせる。			
科 目	履修単位		
○必修科目			
【共通科目】			
グローバル地域文化論 I	2		
グローバル地域文化論 II	2		
グローバル地域文化導入セミナー	2		
グローバル地域文化入門セミナー	2		
グローバル地域文化発展セミナー I	2		
グローバル地域文化発展セミナー II	2		
グローバル地域文化専門セミナー I	2		
グローバル地域文化専門セミナー II	2		
		【ヨーロッパ】	
		ヨーロッパ研究入門 I	2
		ヨーロッパ研究入門 II	2
		【アジア・太平洋】	
		アジア・オセアニア研究入門 I	2
		アジア・オセアニア研究入門 II	2
		【アメリカ】	
		南北アメリカ研究入門 I	2
		南北アメリカ研究入門 II	2
		○選択必修科目 A 群	
		(グローバル・イシュー科目)	
		グローバル・イシュー 1	2
		グローバル・イシュー 2	2
		グローバル・イシュー 3	2
		グローバル・イシュー 4	2
		グローバル・イシュー 5	2
		グローバル・イシュー 6	2
		グローバル・イシュー 7	2
		グローバル・イシュー 8	2
		グローバル・イシュー 9	2
		グローバル・イシュー 10	2
		グローバル・イシュー 11	2
		(グローバル地域文化教養セミナー科目)	
		グローバル地域文化教養セミナー 1	2
		グローバル地域文化教養セミナー 2	2
		グローバル地域文化教養セミナー 3	2
		グローバル地域文化教養セミナー 4	2
		グローバル地域文化教養セミナー 5	2
		グローバル地域文化教養セミナー 6	2
		グローバル地域文化教養セミナー 7	2
		グローバル地域文化教養セミナー 8	2

グローバル地域文化教養セミナー 9	2	海外語学プログラム(英語) II	4
グローバル地域文化教養セミナー 10	2	海外語学プログラム(英語) III	1
グローバル地域文化教養セミナー 11	2	留学とキャリア形成	1
グローバル地域文化教養セミナー 12	2	グローバル地域文化学の発信	1
グローバル地域文化教養セミナー 13	2	派遣留学プログラム 1	1
○選択必修科目B群 (スタディ・アブロード科目群)		派遣留学プログラム 2	2
サマープログラム・英語 A	4	選択必修科目B群から1単位履修すること。1単位以上履修した場合は、超過分の単位を選択必修科目C群(外国語関連科目群)の卒業要件単位に算入する。	
サマープログラム・英語 B	3	○選択必修科目C群 (外国語関連科目群)	
サマープログラム・英語 C	2	(英語)	
サマープログラム・ドイツ語 A	4	Intensive Advanced English 1	3
サマープログラム・ドイツ語 B	3	Intensive Advanced English 2	3
サマープログラム・フランス語	4	Core English (LS) - Intermediate 1	2
サマープログラム・中国語 B	3	Core English (LS) - Intermediate 2	2
サマープログラム・スペイン語	4	Core English (RW) - Intermediate 1	1
サマープログラム・ロシア語	4	Core English (RW) - Intermediate 2	1
サマープログラム・コリア語	3	Core English (LS) - Pre-Intermediate 1	2
スプリングプログラム・英語 A	4	Core English (LS) - Pre-Intermediate 2	2
スプリングプログラム・英語 B	3	Core English (RW) - Pre-Intermediate 1	1
スプリングプログラム・英語 C	2	Core English (RW) - Pre-Intermediate 2	1
スプリングプログラム・英語 D	1	Basic English (LS) 1	2
スプリングプログラム・ドイツ語	3	Basic English (LS) 2	2
スプリングプログラム・フランス語	3	Basic English (RW) 1	1
スプリングプログラム・中国語	1	Basic English (RW) 2	1
スプリングプログラム・スペイン語 B	3	General Academic English (LS)	1
スプリングプログラム・コリア語	3	- Intermediate	
セメスタープログラム・英語 I	4	General Academic English (RW)	1
セメスタープログラム・英語 II	4	- Intermediate	
セメスタープログラム・ドイツ語 I	4	General Academic English (LS)	1
セメスタープログラム・ドイツ語 II	4	- Pre-Intermediate	
スタディ・ツアー	2		
海外インターンシップ	2		
海外語学プログラム(英語) I	4		

General Academic English (RW)		ドイツ語インテンシヴ III	3
- Pre-Intermediate	1	ドイツ語インテンシヴ IV	3
English for Professional Purposes 1	1	ドイツ語インテンシヴ V	2
English for Professional Purposes 2	1	ドイツ語インテンシヴ VI	2
English for Academic Purposes 1	2	ドイツ語文化事情 1	2
English for Academic Purposes 2	2	ドイツ語文化事情 2	2
English for Academic Purposes 3	2	ドイツ語表現法 1	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 1	2	ドイツ語表現法 2	2
Study Abroad Preparation (TOEFL TEST) 2	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 1	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 1	2	言語文化原典演習(ドイツ語) 2	2
Study Abroad Preparation (IELTS) 2	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 1	2
English Immersion 1	2	現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏) 2	2
English Immersion 2	2	ドイツ語会話初級 1	1
English Immersion 3	2	ドイツ語会話初級 2	1
English Immersion 4	2	ドイツ語会話中級 1	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A1	2	ドイツ語会話中級 2	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A2	2	ドイツ語会話上級 1	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A3	2	ドイツ語会話上級 2	1
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ A4	2	(フランス語)	
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B1	2	フランス語入門 I	2
ポスト・アドヴァンスト・イングリッシュ B2	2	フランス語入門 II	2
(ドイツ語)		フランス語応用 1	1
ドイツ語入門 I	2	フランス語応用 2	1
ドイツ語入門 II	2	フランス語応用 3	1
ドイツ語応用 1	1	フランス語応用 4	1
ドイツ語応用 2	1	フランス語インテンシヴ I	3
ドイツ語応用 3	1	フランス語インテンシヴ II	3
ドイツ語応用 4	1	フランス語インテンシヴ III	3
ドイツ語インテンシヴ I	3	フランス語インテンシヴ IV	3
ドイツ語インテンシヴ II	3	フランス語インテンシヴ V	2
		フランス語インテンシヴ VI	2
		フランス語インテンシヴ VII	2

フランス語インテンシヴ VIII	2	中国語表現法 1	2
フランス語文化事情 1	2	中国語表現法 2	2
フランス語文化事情 2	2	言語文化原典演習(中国語) 1	2
フランス語表現法 1	2	言語文化原典演習(中国語) 2	2
フランス語表現法 2	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 1	2
言語文化原典演習(フランス語) 1	2	現代地域事情・上級講読(中国語圏) 2	2
言語文化原典演習(フランス語) 2	2	中国語会話初級 1	1
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 1	2	中国語会話初級 2	1
現代地域事情・上級講読(フランス語圏) 2	2	中国語会話中級 1	1
フランス語会話初級 1	1	中国語会話中級 2	1
フランス語会話初級 2	1	中国語会話上級 1	1
フランス語会話中級 1	1	中国語会話上級 2	1
フランス語会話中級 2	1	(スペイン語)	
フランス語会話上級 1	1	スペイン語入門 I	2
フランス語会話上級 2	1	スペイン語入門 II	2
(中国語)		スペイン語応用 1	1
中国語入門 I	2	スペイン語応用 2	1
中国語入門 II	2	スペイン語応用 3	1
中国語応用 1	1	スペイン語応用 4	1
中国語応用 2	1	スペイン語インテンシヴ I	3
中国語応用 3	1	スペイン語インテンシヴ II	3
中国語応用 4	1	スペイン語インテンシヴ III	3
中国語インテンシヴ I	3	スペイン語インテンシヴ IV	3
中国語インテンシヴ II	3	スペイン語インテンシヴ V	2
中国語インテンシヴ III	3	スペイン語インテンシヴ VI	2
中国語インテンシヴ IV	3	スペイン語文化事情 1	2
中国語インテンシヴ V	2	スペイン語文化事情 2	2
中国語インテンシヴ VI	2	スペイン語表現法 1	2
中国語インテンシヴ VII	2	スペイン語表現法 2	2
中国語インテンシヴ VIII	2	言語文化原典演習(スペイン語) 1	2
中国語文化事情 1	2	言語文化原典演習(スペイン語) 2	2
中国語文化事情 2	2	現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 1	2

現代地域事情・上級講読(スペイン語圏) 2	2	(ロシア語)	
スペイン語会話初級 1	1	ロシア語入門 I	2
スペイン語会話初級 2	1	ロシア語入門 II	2
スペイン語会話中級 1	1	ロシア語応用 1	1
スペイン語会話中級 2	1	ロシア語応用 2	1
スペイン語会話上級 1	1	ロシア語応用 3	1
スペイン語会話上級 2	1	ロシア語応用 4	1
(ロシア語)		ロシア語インテンシヴ I	3
ロシア語入門 I	2	ロシア語インテンシヴ II	3
ロシア語入門 II	2	ロシア語インテンシヴ III	3
ロシア語応用 1	1	ロシア語インテンシヴ IV	3
ロシア語応用 2	1	ロシア語インテンシヴ V	2
ロシア語応用 3	1	ロシア語インテンシヴ VI	2
ロシア語応用 4	1	ロシア語文化事情 1	2
ロシア語インテンシヴ I	3	ロシア語文化事情 2	2
ロシア語インテンシヴ II	3	ロシア語表現法 1	2
ロシア語インテンシヴ III	3	ロシア語表現法 2	2
ロシア語インテンシヴ IV	3	言語文化原典演習(ロシア語) 1	2
ロシア語文化事情 1	2	言語文化原典演習(ロシア語) 2	2
ロシア語文化事情 2	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2
ロシア語表現法 1	2	現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2
ロシア語表現法 2	2	ロシア語会話初級 1	1
言語文化原典演習(ロシア語) 1	2	ロシア語会話初級 2	1
言語文化原典演習(ロシア語) 2	2	ロシア語会話中級 1	1
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 1	2	ロシア語会話中級 2	1
現代地域事情・上級講読(ロシア語圏) 2	2	ロシア語会話上級 1	1
ロシア語会話初級 1	1	ロシア語会話上級 2	1
ロシア語会話初級 2	1	(インドネシア語)	
ロシア語会話中級 1	1	地域文化理解のためのインドネシア語 1	2
ロシア語会話中級 2	1	(文法)	
ロシア語会話上級 1	1	地域文化理解のためのインドネシア語 2	2
ロシア語会話上級 2	1	(文法)	

地域文化理解のためのインドネシア語 3 (コミュニケーション)	2	イタリア語初級 II	1
地域文化理解のためのインドネシア語 4 (講読)	2	地域文化理解のためのイタリア語 1 (コミュニケーション)	2
地域文化理解のためのインドネシア語 5 (講読)	2	イタリア語中級 I	1
(トルコ語)		イタリア語中級 II	1
地域文化理解のためのトルコ語 1(文法)	2	地域文化理解のためのイタリア語 2(講読)	2
地域文化理解のためのトルコ語 2(文法)	2	地域文化理解のためのイタリア語 3(講読)	2
地域文化理解のためのトルコ語 3 (コミュニケーション)	2	地域文化理解のためのイタリア語 4 (コミュニケーション)	2
地域文化理解のためのトルコ語 4(講読)	2	(フランス語・カナダ)	
地域文化理解のためのトルコ語 5(講読)	2	地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 1 (総合)	2
(ポルトガル語)		地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 2(総合)	2
地域文化理解のためのポルトガル語 1 (文法)	2	選択必修科目C群 (外国語関連科目群) のうち、英語 及び英語以外の外国語から1言語、計2言語を選択し、 第一言語14単位以上、第二言語10単位以上履修すること。	
地域文化理解のためのポルトガル語 2 (文法)	2	外国人留学生が日本語・日本文化教育科目のうち、日 本語1(アカデミック・リーディングAVI)～日本語2(文 法IX)、ビジネス日本語C、ビジネス日本語Dの単位を履 修した場合は、選択必修科目C群 (外国語関連科目群) の 英語以外の外国語の単位として卒業要件単位に算入す る。	
地域文化理解のためのポルトガル語 3 (コミュニケーション)	2	TOEIC 等英語能力に関する判定試験で一定水準以上 の成果を修めた者は、8単位を限度として、選択必修科 目C群 (外国語関連科目群) の英語の単位として認定す る。	
地域文化理解のためのポルトガル語 4 (講読)	2	【ヨーロッパコース】	
地域文化理解のためのポルトガル語 5 (講読)	2	第一言語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、 ロシア語の中から選択すること。第一言語としてドイツ 語、フランス語、スペイン語、ロシア語を選択した場合	
(アラビア語)			
地域文化理解のためのアラビア語 1	2		
地域文化理解のためのアラビア語 2	2		
地域文化理解のためのアラビア語 3	2		
地域文化理解のためのアラビア語 4	2		
地域文化理解のためのアラビア語 5	2		
地域文化理解のためのアラビア語 6	2		
(イタリア語)			
イタリア語初級 I	1		

は、第二言語として英語を履修すること。

【アジア・太平洋コース】

第一言語は英語、中国語、韓国語の中から選択すること。第一言語として中国語、韓国語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

【アメリカコース】

第一言語は英語、スペイン語の中から選択すること。第一言語としてスペイン語を選択した場合は、第二言語として英語を履修すること。

○選択科目A群（地域文化研究科目群）

【ヨーロッパ】

（地域の歴史）

ヨーロッパ地域の歴史 1	2
ヨーロッパ地域の歴史 2	2
ヨーロッパ地域の歴史 3	2

（地域の文化）

ヨーロッパ地域の文化 1	2
ヨーロッパ地域の文化 2	2
ヨーロッパ地域の文化 3	2
ヨーロッパ地域の文化 4	2
ヨーロッパ地域の文化 5	2

（地域と地球規模の課題）

ヨーロッパ地域の課題 1	2
ヨーロッパ地域の課題 2	2
ヨーロッパ地域の課題 3	2
ヨーロッパ地域の課題 4	2
ヨーロッパ地域の課題 5	2
ヨーロッパ地域の課題 6	2
ヨーロッパ地域の課題 7	2
ヨーロッパ地域の課題 8	2

【アジア・太平洋】

（地域の歴史）

アジア・オセアニア地域の歴史 1	2
アジア・オセアニア地域の歴史 2	2
アジア・オセアニア地域の歴史 11	2
アジア・オセアニア地域の歴史 12	2
アジア・オセアニア地域の歴史 13	2

（地域の文化）

アジア・オセアニア地域の文化 1	2
アジア・オセアニア地域の文化 2	2
アジア・オセアニア地域の文化 3	2
アジア・オセアニア地域の文化 4	2
アジア・オセアニア地域の文化 11	2
アジア・オセアニア地域の文化 12	2
アジア・オセアニア地域の文化 13	2
アジア・オセアニア地域の文化 14	2
アジア・オセアニア地域の文化 15	2
アジア・オセアニア地域の文化 16	2

（地域と地球規模の課題）

アジア・オセアニア地域の課題 1	2
アジア・オセアニア地域の課題 2	2
アジア・オセアニア地域の課題 3	2
アジア・オセアニア地域の課題 4	2
アジア・オセアニア地域の課題 5	2
アジア・オセアニア地域の課題 6	2

【アメリカ】

（地域の歴史）

南北アメリカ地域の歴史 1	2
南北アメリカ地域の歴史 2	2
南北アメリカ地域の歴史 3	2
南北アメリカ地域の歴史 4	2
南北アメリカ地域の歴史 5	2
南北アメリカ地域の歴史 6	2
南北アメリカ地域の歴史 7	2

(地域の文化)

南北アメリカ地域の文化 1	2
南北アメリカ地域の文化 2	2
南北アメリカ地域の文化 3	2
南北アメリカ地域の文化 4	2
南北アメリカ地域の文化 5	2
南北アメリカ地域の文化 6	2
南北アメリカ地域の文化 7	2

(地域と地球規模の課題)

南北アメリカ地域の課題 1	2
南北アメリカ地域の課題 2	2
南北アメリカ地域の課題 3	2
南北アメリカ地域の課題 4	2
南北アメリカ地域の課題 5	2
南北アメリカ地域の課題 6	2
南北アメリカ地域の課題 7	2
南北アメリカ地域の課題 8	2

○選択科目A群 (実践科目群)

発信スキル実践	1
質的調査の方法	2
計量分析の方法	2
グローバル地域文化学の実践 1	2
グローバル地域文化学の実践 2	2
グローバル地域文化学の実践 3	2
グローバル地域文化学の実践 4	2
グローバル地域文化学の実践 5	2

選択科目A群 (地域文化研究科目群), 選択科目A群 (実践科目群) より計 20 単位以上履修すること。

【ヨーロッパコース】

上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科目群) のヨーロッパ科目から 14 単位以上履修すること。

【アジア・太平洋コース】

上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科目群) のアジア・太平洋科目から 14 単位以上履修すること。

【アメリカコース】

上記 20 単位のうち, 選択科目A群 (地域文化研究科目群) のアメリカ科目から 14 単位以上履修すること。

○選択科目B群 (地域文化研究隣接科目群)

【共通科目】

世界の言語 1	1
世界の言語 2	1
世界の言語 3	1
世界の言語 4	1
世界の言語 5	1
世界の言語 6	1
世界の言語 7	1
世界の言語 8	1
世界の言語 9	1
世界の言語 10	1
グローバル地域文化特殊講義 1	2
グローバル地域文化特殊講義 2	2
グローバル地域文化特殊講義 3	2
グローバル地域文化特殊講義 4	2
グローバル地域文化特殊講義 5	2
グローバル地域文化特殊講義 6	2
グローバル地域文化特殊講義 7	2
グローバル地域文化特殊講義 8	2
グローバル地域文化特殊講義 9	2
グローバル地域文化特殊講義 10	2
グローバル地域文化研究の実践 1	1
グローバル地域文化研究の実践 2	1

【ヨーロッパ】

ヨーロッパの思想史	2	(免許・資格関連科目)	
ヨーロッパ社会史 1	2	日本史概論	4
ヨーロッパ社会史 2	2	西洋文化史概説(1)	2
ヨーロッパの政治史	2	西洋文化史概説(2)	2
ヨーロッパの経済	2	地理学 1	2
ヨーロッパの経済史	2	地理学 2	2
ロシア・東ヨーロッパの政治	2	地誌学	2
EUの政治	2	社会学概論	4
【アジア・太平洋】		経済原論	4
アジアの教育と社会 1	2	哲学概論(1)	2
アジアの教育と社会 2	2	哲学概論(2)	2
中国の政治	2	倫理学概論(1)	2
南アジアの政治と社会	2	倫理学概論(2)	2
東アジアの国際関係	2	教育原理	2
アジアの経済	2	教職概論	2
中国の経済	2	教育制度と学校経営	2
アセアンの経済	2	学校教育社会学	2
韓国の経済	2	人権教育論	2
【アメリカ】		発達と学習の心理学	2
アメリカ文化の歴史 1	2	特別ニーズ教育論	2
アメリカ文化の歴史 2	2	教育課程論	2
アメリカの経済	2	道徳教育の理論と実践	2
アメリカの経済史	2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
アメリカの政治と外交	2	教育方法とICT活用の理論と実践	2
ラテンアメリカの政治と社会	2	生徒・進路指導の理論と方法	2
○選択科目C群		教育相談の理論と方法	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 1	2	スクールインターンシップ	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 2	2	学校教育図書館論	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 3	2	学校図書館メディアの構成	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 4	2	学習指導と学校図書館	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 5	2	読書と豊かな人間性	2
チュービンゲン大学IES単位互換科目 6	2	情報メディアの活用	2

社会科・地理歴史科教育法	2	を履修した場合は、選択科目C群の卒業要件単位に算入	
社会科・公民科教育法	2	する。	
社会科教育法 1	2	○選択科目D群（原語で学ぶ地域文化研究科目群）	
社会科教育法 2	2	英語で読む地域文化研究 1	2
地理歴史科教育法	2	英語で読む地域文化研究 2	2
生涯学習概論	2	英語で読む地域文化研究 3	2
図書館情報学概論	2	英語で読む地域文化研究 4	2
図書館制度・経営論	2	英語で読む地域文化研究 5	2
図書館情報技術論	2	Global and Regional Cultural Studies	2
図書館情報サービス論 I	2	Seminar 1	
図書館情報サービス論 II	2	Global and Regional Cultural Studies	2
児童サービス論	2	Seminar 2	
情報サービス演習 I	2	Global and Regional Cultural Studies	2
情報サービス演習 II	2	Seminar 3	
図書館情報資源概論	2	Global and Regional Cultural Studies	2
情報資源組織論 I	2	Seminar 4	
情報資源組織論 II	2	ドイツ語で読む地域文化研究 1	2
情報資源組織演習 I	2	ドイツ語で読む地域文化研究 2	2
情報資源組織演習 II	2	フランス語で読む地域文化研究 1	2
図書館情報学特論	2	フランス語で読む地域文化研究 2	2
学術情報利用教育論	2	中国語で読む地域文化研究 1	2
図書館情報資源特論	2	中国語で読む地域文化研究 2	2
図書・図書館史	2	スペイン語で読む地域文化研究 1	2
図書館演習	4	スペイン語で読む地域文化研究 2	2
学校図書館サービス論	2	ロシア語で読む地域文化研究 1	2
選択科目C群は上記科目に加え、全学共通教養教育科目（外国語教育科目を除く）、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目及び大学コンソーシアム京都単位互換科目の中から16単位以上履修すること。		ロシア語で読む地域文化研究 2	2
外国人留学生が、日本語・日本文化教育科目（日本語1(アカデミック・リーディングAⅥ)～日本語2(文法Ⅸ)、ビジネス日本語C及びビジネス日本語Dを除く）		韓国語で読む地域文化研究 1	2
		韓国語で読む地域文化研究 2	2
		アジア諸言語で読む地域文化研究 1	2
		アジア諸言語で読む地域文化研究 2	2
		○自由科目	
		情報機器の操作	2

教育実習指導	1	Introductory Seminar C	2
教育実習 A	2	Introductory Seminar D	2
教育実習 B	2	Introductory Seminar E	2
教育実習 C	4	展開ゼミ	
教職実践演習(中・高)	2	Intermediate Seminar A	2
履修方法		Intermediate Seminar B	2
【全コース共通】		Intermediate Seminar C	2
以上、必修科目の共通科目から 24 単位、各コースの必修科目からそれぞれ 4 単位、選択必修科目 A 群のグローバル・イシュー科目から 4 単位以上、グローバル地域文化教養セミナー科目から 2 単位以上、選択必修科目 B 群(スタディ・アブロード科目群)から 1 単位、選択必修科目 C 群(外国語関連科目群)から 24 単位以上、選択科目 A 群(地域文化研究科目群)、選択科目 A 群(実践科目群)から計 20 単位以上、選択科目 C 群から 16 単位以上、合計 124 単位以上履修すること。		Intermediate Seminar D	2
		Intermediate Seminar E	2
		発展ゼミ・卒業論文	
		Advanced Seminar 1	2
		Advanced Seminar 2	2
		Honors Thesis	2
		入門ゼミから 8 単位以上、展開ゼミから 4 単位以上、発展ゼミから Advanced Seminar 1, Advanced Seminar 2 を含み 4 単位以上、計 16 単位以上を履修すること。	

○基幹科目

アカデミック・リサーチスキル科目

国際教育インスティテュート

人材養成目的

国際教育インスティテュートは、キリスト教主義、国際主義、自由主義の同志社建学の理念に基づき、社会・文化・経済・ビジネス・法律・政治・政策・国際協力等の分野において、国際的に活躍するために必要な幅広い学際的教養及び国際的コミュニケーションの技能を身に付け、日本と各国の架け橋となる人材を養成することを目的とする。

科 目 履修単位

○演習・卒業論文

入門ゼミ

Introductory Seminar A 2

Introductory Seminar B 2

Library Research Skills	2
Introduction to Information Systems	2
Academic Presentations and Debate	2
Academic Writing	2
Mathematical Methods for the Social Sciences	2
Probability for the Social Sciences	2
Introduction to Asian Philosophy and Thought	2
Introduction to Social, Political, and Economic Thought	2
Introduction to Philosophy and Ethics	2
Introduction to Qualitative Research Methods	2

Introduction to Quantitative Research Methods	2	Japanese and World Literature	2
Advanced Mathematical Methods for the Social Sciences	2	World, Youth, and Pop Culture	2
日本・京都理解基礎科目		Ethnicity in Japan	2
Basic Japanese	2	Japan in the World:Cultural Flows and Diasporas	2
Communities of Practice in Japan	2	Social Foundations of Language	2
Japanese Issues and Topics	2	Asian Civilizations	2
Introduction to Kyoto	2	Modern Japanese History	2
Doshisha and Christianity	2	<発展>	
Geography of Japan	2	Social Foundations of Education	2
Nature and the Environment in Japan	2	Nations and Nationalism	2
Religion in Japan	2	Advanced Themes in Anthropology	2
Understanding and Experiencing Work in Japan	2	Disaster Studies	2
アカデミック・リサーチスキル科目から 12 単位以上,		Social Inequalities in Japan	2
日本・京都理解基礎科目から 4 単位以上, 計 16 単位以上		Colonialism and Imperialism	2
を履修すること。		Advanced Media Studies	2
○専門領域科目		Migration and Transnationalism	2
Japanese Society and Global Culture Concentration		Japanese Business and the Global Economy	
<入門>		Concentration	
What Makes Humans Human?	2	<入門>	
Introduction to Japanese History	2	Introduction to Contemporary	2
Manga and Anime Studies	2	Economics and Business	2
Japanese Society and Culture	2	Introduction to the Japanese Economy	2
Introduction to the Arts	2	Macroeconomics	2
Introduction to Media and Communications	2	Microeconomics	2
Introduction to Globalization	2	Introduction to Finance	2
World Civilizations	2	Introduction to Business Administration	2
<展開>		Introduction to Accounting	2
Media in Japan	2	Society and Economy in Kyoto	2
		<展開>	
		Consumers and the Market in Japan	2

Ecology and Economy in Japan	2	Citizen Politics in Japan and Beyond	2
Industry and Labor in Japan	2	International Relations in East Asia	2
The Creative Industries in Contemporary Japan	2	Postwar Japan - U.S. Relations	2
The Financial System in Japan	2	What Makes Countries Poor?	2
Financial Accounting in Japan	2	International Human Rights Law	2
Introduction to Marketing	2	Political Behavior, Campaigns and Elections	2
Japanese Corporations	2	Civic Engagement	2
<発展>		Public Opinion and Political Psychology	2
Economic Growth	2	<発展>	
International Economics	2	Topics in Public Policy	2
Corporate Strategy and Organization	2	Mass Media in the Policymaking Process	2
Management Accounting in Japan	2	International Law and Organizations	2
International Marketing	2	International Political Economy	2
International Business Communication	2	Development and Law	2
Industry and Corporation in Kyoto	2	Topics in Japan's Contemporary International Relations	2
Contemporary Issues in Business and Economics	2	Social Movements and Contentious Politics	2
Japanese Politics and Global Studies Concentration		Politics through Film	2
<入門>		選択したコンセントレーションの入門・展開・発展から各4単位以上を含む30単位以上を履修すること。	
The Politics of Growth in Developing Countries	2	○選択科目	
Winners and Losers: Introduction to Political Theory	2	Special Lecture Series (1科目1~8単位)	
Introduction to Japanese Law	2	Recognized Transfer Credits (1科目1~8単位)	
Power and Politics in Japan	2	上記のほか、日本語・日本文化教育科目、全学共通教養教育科目、学部及び大学院設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目及び同志社女子大学単位互換科目のうち国際教育インスティテュートが定める科目から選択履修すること。学則第9条の2及び第9条の4により修得した単位を Recognized Transfer Credits として認	
Introduction to Comparative Policymaking	2		
Introduction to International Relations	2		
Comparative Politics	2		
Peace and Conflict	2		
<展開>			

定することがある。全学共通教養教育科目の外国語教育科目の英語及び母語の履修は認めない。

以上、演習・卒業論文、基幹科目、専門領域科目及び選択科目から 124 単位以上を履修すること。

国際教養教育院科目

科 目	履修単位		
日本語・日本文化教育科目		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA VII)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA VIII)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA IX)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB I)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB II)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB III)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB IV)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB V)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB VI)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB VII)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB VIII)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションB IX)	1
		日本語 1(文法 I)	1
		日本語 1(文法 II)	1
		日本語 1(文法 III)	1
		日本語 1(文法 IV)	1
		日本語 1(文法 V)	1
		日本語 1(文法 VI)	1
		日本語 1(文法 VII)	1
		日本語 1(文法 VIII)	1
		日本語 1(文法 IX)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングA VI)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングA VII)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングA VIII)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングA IX)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングB VI)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングB VII)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングB VIII)	1
		日本語 2(アカデミック・リーディングB IX)	1
		日本語 2(語彙VI)	1
		日本語 2(語彙VII)	1
		日本語 2(語彙VIII)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングIII)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングIV)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングV)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングVI)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングVII)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングVIII)	1
		日本語 1(アカデミック・ライティングIX)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA I)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA II)	1
		日本語 1(オーラル・コミュニケーションA VI)	1

日本語 2(語彙IX)	1	ビジネス日本語 A	1
日本語 2(アカデミック・ライティングIII)	1	ビジネス日本語 B	1
日本語 2(アカデミック・ライティングIV)	1	ビジネス日本語 C	1
日本語 2(アカデミック・ライティングV)	1	ビジネス日本語 D	1
日本語 2(アカデミック・ライティングVI)	1	○日本事情科目	
日本語 2(アカデミック・ライティングVII)	1	日本の文学 A	2
日本語 2(アカデミック・ライティングVIII)	1	日本の思想・宗教 1	2
日本語 2(アカデミック・ライティングIX)	1	日本の思想・宗教 2	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA I)	1	日本の法と政治	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA II)	1	日本の歴史 1	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA VI)	1	日本の歴史 2	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA VII)	1	日本の社会 1	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA VIII)	1	日本の社会 2	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションA IX)	1	日本の文化 1	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB I)	1	日本の文化 2	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB II)	1	日本の教育	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB III)	1	日本の伝統と人間形成	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB IV)	1	日本の伝統と美	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB V)	1	日本の伝統と文化	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB VI)	1	日本の伝統と芸能	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB VII)	1	日本の伝統と能楽	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB VIII)	1	日本の伝統と芸術	2
日本語 2(オーラル・コミュニケーションB IX)	1	日本の芸術 1	2
日本語 2(文法 I)	1	日本の芸術 2	2
日本語 2(文法 II)	1	日本の生活と社会 A	2
日本語 2(文法 III)	1	日本の生活と社会 B	2
日本語 2(文法 IV)	1	○国際事情科目	
日本語 2(文法 V)	1	世界の歴史 1	2
日本語 2(文法 VI)	1	世界の歴史 2	2
日本語 2(文法 VII)	1	グローバル教育プログラム科目	
日本語 2(文法 VIII)	1	Introduction to Japanese Culture in	
日本語 2(文法 IX)	1	the Global Context	2

Introduction to Japanese Society in the Global Context	2	Introduction to Computer Science and Information Technology	2
Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context	2	Human Science in the Global Age	2
Humanities and Global Issues	2	Introduction to Quantitative Data Analysis	2
Social Sciences and Global Issues	2	Conservation of Japanese Nature and Environment	2
Natural Sciences and Global Issues	2	Mathematics and its History	2
Japan in Modern World History	2	Science of Natural Disasters	2
International Relations in the Postwar Era	2	Freshman “Go Global” Program	2
Issues in Japanese Culture	2	Mid-college “Be Strong” Program	4
Japanese Thought and Religion 1	2	Principles of Economics	2
Japanese Thought and Religion 2	2	Environmental Economics and Sustainability	2
Tradition and Art in Japan 1	2	Advanced Seminar 1	2
Tradition and Art in Japan 2	2	Advanced Seminar 2	2
Japan Today 1	2	Advanced Seminar 3	2
Japan Today 2	2	日本語・日本文化教育プログラム科目	
Democracy and Politics : A Comparative Perspective	2	○日本語科目	
Education in the Age of Globalization	2	日本語 1(総合 1 I)	1
Issues in Intercultural Communication	2	日本語 1(総合 2 I)	1
Economy and Business in the Global Context 1	2	日本語 1(総合 3 I)	1
Economy and Business in the Global Context 2	2	日本語 1(総合 4 I)	1
Critical Social Issues in Contemporary Japan 1	2	日本語 1(総合 5 I)	1
Critical Social Issues in Contemporary Japan 2	2	日本語 1(総合 6 I)	1
The Divisions of Identity in Society	2	日本語 1(総合 7 I)	1
Statistics for the Social Sciences and Humanities	2	日本語 1(総合 8 I)	1
		日本語 1(口頭表現A I)	1
		日本語 1(口頭表現B I)	1
		日本語 1(文法 I)	1
		日本語 1(総合 1II)	1
		日本語 1(総合 2II)	1

日本語 1(総合 3Ⅱ)	1	日本語 1(総合 3Ⅴ)	1
日本語 1(総合 4Ⅱ)	1	日本語 1(総合 4Ⅴ)	1
日本語 1(総合 5Ⅱ)	1	日本語 1(読解 AⅤ)	1
日本語 1(総合 6Ⅱ)	1	日本語 1(読解 BⅤ)	1
日本語 1(総合 7Ⅱ)	1	日本語 1(文章表現Ⅴ)	1
日本語 1(総合 8Ⅱ)	1	日本語 1(口頭表現 AⅤ)	1
日本語 1(口頭表現 AⅡ)	1	日本語 1(口頭表現 BⅤ)	1
日本語 1(口頭表現 BⅡ)	1	日本語 1(文法Ⅴ)	1
日本語 1(文法Ⅱ)	1	日本語 1(総合 1Ⅵ)	1
日本語 1(総合 1Ⅲ)	1	日本語 1(総合 2Ⅵ)	1
日本語 1(総合 2Ⅲ)	1	日本語 1(総合 3Ⅵ)	1
日本語 1(総合 3Ⅲ)	1	日本語 1(総合 4Ⅵ)	1
日本語 1(総合 4Ⅲ)	1	日本語 1(読解 AⅥ)	1
日本語 1(総合 5Ⅲ)	1	日本語 1(読解 BⅥ)	1
日本語 1(総合 6Ⅲ)	1	日本語 1(語彙Ⅵ)	1
日本語 1(総合 7Ⅲ)	1	日本語 1(文章表現Ⅵ)	1
日本語 1(総合 8Ⅲ)	1	日本語 1(口頭表現 AⅥ)	1
日本語 1(文章表現Ⅲ)	1	日本語 1(口頭表現 BⅥ)	1
日本語 1(口頭表現 BⅢ)	1	日本語 1(文法Ⅵ)	1
日本語 1(文法Ⅲ)	1	日本語 1(総合 1Ⅶ)	1
日本語 1(総合 1Ⅳ)	1	日本語 1(総合 2Ⅶ)	1
日本語 1(総合 2Ⅳ)	1	日本語 1(総合 3Ⅶ)	1
日本語 1(総合 3Ⅳ)	1	日本語 1(総合 4Ⅶ)	1
日本語 1(総合 4Ⅳ)	1	日本語 1(読解 AⅦ)	1
日本語 1(読解 AⅣ)	1	日本語 1(読解 BⅦ)	1
日本語 1(読解 BⅣ)	1	日本語 1(語彙Ⅶ)	1
日本語 1(文章表現Ⅳ)	1	日本語 1(文章表現Ⅶ)	1
日本語 1(口頭表現 AⅣ)	1	日本語 1(口頭表現 AⅦ)	1
日本語 1(口頭表現 BⅣ)	1	日本語 1(口頭表現 BⅦ)	1
日本語 1(文法Ⅳ)	1	日本語 1(文法Ⅶ)	1
日本語 1(総合 1Ⅴ)	1	日本語 1(総合 1Ⅷ)	1
日本語 1(総合 2Ⅴ)	1	日本語 1(総合 2Ⅷ)	1

日本語 1(総合 3Ⅷ)	1	日本語 2(総合 3Ⅱ)	1
日本語 1(総合 4Ⅷ)	1	日本語 2(総合 4Ⅱ)	1
日本語 1(読解 AⅧ)	1	日本語 2(総合 5Ⅱ)	1
日本語 1(読解 BⅧ)	1	日本語 2(総合 6Ⅱ)	1
日本語 1(語彙Ⅷ)	1	日本語 2(総合 7Ⅱ)	1
日本語 1(文章表現Ⅷ)	1	日本語 2(総合 8Ⅱ)	1
日本語 1(口頭表現 AⅧ)	1	日本語 2(口頭表現 AⅡ)	1
日本語 1(口頭表現 BⅧ)	1	日本語 2(口頭表現 BⅡ)	1
日本語 1(文法Ⅷ)	1	日本語 2(文法Ⅱ)	1
日本語 1(総合 1Ⅸ)	1	日本語 2(総合 1Ⅲ)	1
日本語 1(総合 2Ⅸ)	1	日本語 2(総合 2Ⅲ)	1
日本語 1(総合 3Ⅸ)	1	日本語 2(総合 3Ⅲ)	1
日本語 1(読解 AⅨ)	1	日本語 2(総合 4Ⅲ)	1
日本語 1(読解 BⅨ)	1	日本語 2(総合 5Ⅲ)	1
日本語 1(語彙Ⅸ)	1	日本語 2(総合 6Ⅲ)	1
日本語 1(文章表現Ⅸ)	1	日本語 2(総合 7Ⅲ)	1
日本語 1(口頭表現 AⅨ)	1	日本語 2(総合 8Ⅲ)	1
日本語 1(口頭表現 BⅨ)	1	日本語 2(文章表現Ⅲ)	1
日本語 1(文法Ⅸ)	1	日本語 2(口頭表現 BⅢ)	1
日本語 2(総合 1Ⅰ)	1	日本語 2(文法Ⅲ)	1
日本語 2(総合 2Ⅰ)	1	日本語 2(総合 1Ⅳ)	1
日本語 2(総合 3Ⅰ)	1	日本語 2(総合 2Ⅳ)	1
日本語 2(総合 4Ⅰ)	1	日本語 2(総合 3Ⅳ)	1
日本語 2(総合 5Ⅰ)	1	日本語 2(総合 4Ⅳ)	1
日本語 2(総合 6Ⅰ)	1	日本語 2(読解 AⅣ)	1
日本語 2(総合 7Ⅰ)	1	日本語 2(読解 BⅣ)	1
日本語 2(総合 8Ⅰ)	1	日本語 2(文章表現Ⅳ)	1
日本語 2(口頭表現 AⅠ)	1	日本語 2(口頭表現 AⅣ)	1
日本語 2(口頭表現 BⅠ)	1	日本語 2(口頭表現 BⅣ)	1
日本語 2(文法Ⅰ)	1	日本語 2(文法Ⅳ)	1
日本語 2(総合 1Ⅱ)	1	日本語 2(総合 1Ⅴ)	1
日本語 2(総合 2Ⅱ)	1	日本語 2(総合 2Ⅴ)	1

日本語 2(総合 3V)	1	日本語 2(総合 3Ⅷ)	1
日本語 2(総合 4V)	1	日本語 2(総合 4Ⅷ)	1
日本語 2(読解A V)	1	日本語 2(読解A Ⅷ)	1
日本語 2(読解B V)	1	日本語 2(読解B Ⅷ)	1
日本語 2(文章表現V)	1	日本語 2(語彙Ⅷ)	1
日本語 2(口頭表現A V)	1	日本語 2(文章表現Ⅷ)	1
日本語 2(口頭表現B V)	1	日本語 2(口頭表現A Ⅷ)	1
日本語 2(文法V)	1	日本語 2(口頭表現B Ⅷ)	1
日本語 2(総合 1VI)	1	日本語 2(文法Ⅷ)	1
日本語 2(総合 2VI)	1	日本語 2(総合 1IX)	1
日本語 2(総合 3VI)	1	日本語 2(総合 2IX)	1
日本語 2(総合 4VI)	1	日本語 2(総合 3IX)	1
日本語 2(読解A VI)	1	日本語 2(読解A IX)	1
日本語 2(読解B VI)	1	日本語 2(読解B IX)	1
日本語 2(語彙VI)	1	日本語 2(語彙IX)	1
日本語 2(文章表現VI)	1	日本語 2(文章表現IX)	1
日本語 2(口頭表現A VI)	1	日本語 2(口頭表現A IX)	1
日本語 2(口頭表現B VI)	1	日本語 2(口頭表現B IX)	1
日本語 2(文法VI)	1	日本語 2(文法IX)	1
日本語 2(総合 1VII)	1	日本語 1(基礎A S)	3
日本語 2(総合 2VII)	1	日本語 1(基礎A F)	3
日本語 2(総合 3VII)	1	日本語 1(基礎B S)	3
日本語 2(総合 4VII)	1	日本語 1(基礎B F)	3
日本語 2(読解A VII)	1	日本語 2(基礎A S)	3
日本語 2(読解B VII)	1	日本語 2(基礎A F)	3
日本語 2(語彙VII)	1	日本語 2(基礎B S)	3
日本語 2(文章表現VII)	1	日本語 2(基礎B F)	3
日本語 2(口頭表現A VII)	1	○日本語演習科目	
日本語 2(口頭表現B VII)	1	日本語総合演習 A	1
日本語 2(文法VII)	1	日本語総合演習 B	1
日本語 2(総合 1Ⅷ)	1	日本語総合演習 C	1
日本語 2(総合 2Ⅷ)	1	日本語総合演習 D	1

日本語総合演習 E	1	日本の伝統と文化	2
中級日本語文法概説 A	1	日本の伝統と芸能	2
中級日本語文法概説 B	1	日本の伝統と能楽	2
上級日本語文法概説 A	1	日本の伝統と芸術	2
上級日本語文法概説 B	1	日本の現代芸術	2
日本語特講演習	1	日本の芸術 1	2
ビジネス日本語 A	1	日本の芸術 2	2
ビジネス日本語 B	1	比較文化論 A	2
ビジネス日本語 C	1	比較文化論 B	2
ビジネス日本語 D	1	地域文化論 A	2
○日本事情科目		地域文化論 B	2
日本の文学 A	2	異文化間コミュニケーション A	2
日本の文学 B	2	異文化間コミュニケーション B	2
日本の思想・宗教 1	2	異文化間コミュニケーション C	2
日本の思想・宗教 2	2	異文化間コミュニケーション D	2
日本の思想・宗教 A	2	日本とアジア 1	2
日本の法と政治	2	日本とアジア 2	2
日本の経済	2	日本の生活と社会 A	2
日本の企業と経営 A	2	日本の生活と社会 B	2
日本の企業と経営 B	2	○国際事情科目	
日本の歴史 1	2	世界の歴史 1	2
日本の歴史 2	2	世界の歴史 2	2
日本の社会 1	2	歴史の歴史	2
日本の社会 2	2	国際比較文化論	2
日本の文化 1	2	国際比較メディア論	2
日本の文化 2	2	国際ビジネス A	2
日本の文化特講 A	2	国際ビジネス B	2
日本の文化特講 B	2	国際ビジネス C	2
日本の文化特講 C	2	なお、日本政府国費による日本語予備教育生及び日本語・日本文化研修留学生については、以下の各号に定める所定の単位を修得した者に修了の認定を行い、修了証書を授与する。	
日本の教育	2		
日本の伝統と人間形成	2		
日本の伝統と美	2		

(1) 日本語予備教育生

所定の予備教育期間在学し、日本語・日本文化教育プログラム科目のうち、日本語科目から8単位以上並びに日本語演習科目、日本事情科目及び国際事情科目から5単位以上、合計13単位以上を修得すること。

(2) 日本語・日本文化研修留学生

所定の研修期間在学し、合計20単位以上を修得すること。

教育職員免許状を得るための課程

高等学校教諭一種免許状及び中学校教諭一種免許状を得ようとする者は、学士の学位を有し、教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、大学が独自に設定する科目について下記の所定の単位及び日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、数理、データ活用及び人工知能に関する科目2単位又は情報機器の操作2単位を修得しなければならない。

ただし、「学士の学位を有し」には、学校教育法第102条第2項の規定により本学大学院への入学が認められた場合を含むものとする。

なお、学部・学科において取得できる免許状の種類(教科)は次のとおりとする。

神学部神学科 中一種免(宗教)，高一種免(宗教)

文学部

英文学科 中一種免(英語)，高一種免(英語)

哲学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

美学芸術学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

文化史学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

国文学科 中一種免(国語)，高一種免(国語)

社会学部

社会学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

社会福祉学科 中一種免(社会)，
高一種免(公民)，
高一種免(福祉)

メディア学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

産業関係学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

教育文化学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

法学部

法律学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

政治学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

経済学部

経済学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)

商学部

商学科 中一種免(社会)，
高一種免(地理歴史)，
高一種免(公民)，高一種免(商業)

政策学部

政策学科 中一種免(社会)，高一種免(公民)

文化情報学部

文化情報学科 高一種免(情報)

理工学部

インテリジェント情報工学科

中一種免(数学)，高一種免(数学)，
高一種免(情報)

情報システムデザイン学科
 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 高一種免(情報)

電気工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学)

電子工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学)

機械システム工学科
 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

機械理工学科
 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

機能分子・生命化学科
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

化学システム創成工学科
 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

環境システム学科
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

数理システム学科
 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 高一種免(情報)

生命医科学部
 医工学科 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

医情報学科 中一種免(数学), 高一種免(数学),
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

医生命システム学科
 中一種免(理科), 高一種免(理科)

スポーツ健康科学部
 スポーツ健康科学科
 中一種免(保健体育),
 高一種免(保健体育)

心理学部
 心理学科 中一種免(社会), 高一種免(公民)

グローバル・コミュニケーション学部
 グローバル・コミュニケーション学科
 英語コース 中一種免(英語), 高一種免(英語)

グローバル地域文化学部
 グローバル地域文化学科
 中一種免(社会),
 高一種免(地理歴史)

教科及び教科の指導法に関する科目

大学が独自に設定する科目

免許教科名	単位修得の方法
-------	---------

宗教

(高等学校
 及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位, 中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上
宗教学	1 単位以上
宗教史	1 単位以上
『教理学, 哲学』	1 単位以上
計	24 単位又は 28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について, 高等学校 12 単位, 中学校 4 単位を修得しなければならない。

英語
(高等学校
及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位，中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上
英語学	1 単位以上
英語文学	1 単位以上
英語コミュニケーション	1 単位以上
異文化理解	1 単位以上
計	24 単位又は 28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位，中学校 4 単位を修得しなければならない。

地理歴史
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
日本史	1 単位以上
外国史	1 単位以上
人文地理学・自然地理学	1 単位以上
地誌	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位を修得しなければならない。

国語
(高等学校
及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校 24 単位，中学校 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は 8 単位以上
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	1 単位以上
国文学(国文学史を含む。)	1 単位以上
漢文学	1 単位以上
計	24 単位又は 28 単位

高等学校の場合は上のおりであるが，中学校の場合は書道(書写を中心とする。)1 単位以上を履修すること。

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位，中学校 4 単位を修得しなければならない。

公民
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
『法学(国際法を含む。), 政治学(国際政治を含む。)]	1 単位以上
『社会学, 経済学(国際経済を含む。)]	1 単位以上
『哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学]	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について，高等学校 12 単位を修得しなければならない。

福祉
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
社会福祉学 (職業指導を含む。)	1 単位以上
高齢者福祉・児童福祉・ 障害者福祉	1 単位以上
社会福祉援助技術	1 単位以上
介護理論・介護技術	1 単位以上
社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及 び社会福祉施設等に おける介護実習を含 む。)	1 単位以上
人体構造に関する理 解・日常生活行動に 関する理解	1 単位以上
加齢に関する理解・障 害に関する理解	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校 12 単位を修得しなければならない。

社会
(中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 28 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	8 単位以上
日本史・外国史	1 単位以上
地理学(地誌を含む。)	1 単位以上
『法律学, 政治学』	1 単位以上
『社会学, 経済学』	1 単位以上
『哲学, 倫理学, 宗教学』	1 単位以上
計	28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、中学校 4 単位を修得しなければならない。

商業
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について 24 単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
商業の関連科目	1 単位以上
職業指導	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校 12 単位を修得しなければならない。

理科
(高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4単位以上
物理学	1単位以上
化学	1単位以上
生物学	1単位以上
地学	1単位以上
『物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験』	1単位以上
計	24単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

数学
(高等学校及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校24単位、中学校28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4単位以上又は8単位以上
代数学	1単位以上
幾何学	1単位以上
解析学	1単位以上
『確率論、統計学』	1単位以上
コンピュータ	1単位以上
計	24単位又は28単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位、中学校4単位を修得しなければならない。

理科
(中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	8単位以上
物理学	1単位以上
化学	1単位以上
生物学	1単位以上
地学	1単位以上
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	1単位以上
計	28単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、中学校4単位を修得しなければならない。

情報 (高等学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について24単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上
情報社会 (職業に関する内容を含む)・情報倫理	1 単位以上
コンピュータ・情報処理	1 単位以上
情報システム	1 単位以上
情報通信ネットワーク	1 単位以上
マルチメディア表現・マルチメディア技術	1 単位以上
計	24 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位を修得しなければならない。

保健体育 (高等学校及び中学校)

下記の「教科及び教科の指導法に関する科目」について高等学校24単位、中学校28単位を修得しなければならない。

教科の指導法	4 単位以上又は8 単位以上
体育実技	1 単位以上
『体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育社会学, 体育史』	1 単位以上
・運動学(運動方法学を含む。)	
生理学	1 単位以上
(運動生理学を含む。)	
衛生学・公衆衛生学	1 単位以上
学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む。)	1 単位以上
計	24 単位又は28 単位

本学の指示する「大学が独自に設定する科目」について、高等学校12単位、中学校4単位を修得しなければならない。

教育の基礎的理解に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
教育原理	2
教職概論	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
人権教育論	2

発達と学習の心理学	2
特別ニーズ教育論	2
教育課程論	2

道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，
教育相談等に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2

教育実践に関する科目

○必修科目

科 目	履修単位
教育実習指導	1
教育実習 A	2
教育実習 B	2
教育実習 C	4
教職実践演習(中・高)	2

- 1 教育の基礎的理解に関する科目は，14 単位以上を履修しなければならない。
- 2 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目は，高等学校の場合 8 単位以上，中学校の場合 10 単位以上を履修しなければならない。
- 3 教育実践に関する科目は，高等学校の場合 5 単位以上，中学校の場合 7 単位以上を履修しなければならない。

4 教科の指導法は，申請する免許状の教科ごとに修得しなければならない。本学では宗教・国語・理科・数学・保健体育科(高一種免 4 単位，中一種免 8 単位)，商業・情報科(各 4 単位)，英語・社会科(8 単位)，地理歴史・公民・福祉科(各 4 単位)の教科教育法を設けている。

「商業」，「数学」又は「理科」の教科について高等学校教諭免許状の授与を受ける場合の各教科の指導法に関する科目，教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位数のうちその半数までの単位は，当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。

附 記

中学校教諭二種免許状を得ようとする者は，基礎資格として大学に 2 年以上在学し，62 単位以上〔内，日本国憲法 2 単位，体育 2 単位，外国語コミュニケーション 2 単位，数理，データ活用及び人工知能に関する科目 2 単位又は情報機器の操作 2 単位を含む〕を修得すること。また，大学において修得することを必要とする科目は，教科及び教科の指導法に関する科目 12 単位，教育の基礎的理解に関する科目 6 単位，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目 6 単位，教育実践に関する科目 7 単位，大学が独自に設定する科目 4 単位を修得しなければならない。